cisco.



マルチプラットフォームファームウェア用の Cisco ATA 191 お よび ATA 192 アナログ電話アダプタ アドミニストレーション ガイド

初版: 2018年2月5日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー http://www.cisco.com/jp お問い合わせ先:シスココンタクトセンター 0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む) 電話受付時間:平日 10:00~12:00、13:00~17:00 http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/ 【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ド キュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更され ている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照くだ さい。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The following information is for FCC compliance of Class A devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio-frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case users will be required to correct the interference at their own expense.

The following information is for FCC compliance of Class B devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If the equipment causes interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, users are encouraged to try to correct the interference by using one or more of the following measures:

- · Reorient or relocate the receiving antenna.
- · Increase the separation between the equipment and receiver.
- · Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- · Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Modifications to this product not authorized by Cisco could void the FCC approval and negate your authority to operate the product.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第1章

はじめに 1

お使いの ATA 1

ATA 191 および ATA 192 上部パネル 1

問題レポート ツール ボタン 3

ATA 191 および ATA 192 バックパネル 3

Cisco ATA をインストールします。 4

ATA 音声品質 5

サポートされるコーデック 5

SIP プロキシ冗長性 5

その他の ATA の音声品質機能 6

第2章 ボイスオーバー IP サービスのクイックセットアップ 11

ボイスオーバー IP の設定 11

第3章 ネットワーク設定 13

> Web ベースの設定ユーティリティ 13 電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス 13 ATA への Web アクセスの許可 14 基本的なセットアップ 14 ネットワークサービス (ATA 192 のみ) 14 基本設定 15 IPv4 設定 15 IPv6 設定 17 IPv4 LAN 設定 (ATA 192 のみ) 19

IPv6 LAN 設定 (ATA 192 のみ) 22 時刻設定 23 詳細設定 24 ポート設定 (ATA 192 のみ) 24 MAC アドレス クローン 25 VPN パススルー (ATA 192 のみ) 25 VLAN 26 CDP および LLDP 27 アプリケーション 27 Quality of Service (QoS) (ATA 192 のみ) 27 ポートフォワーディング (ATA 192 のみ) 28 主導でポートフォワーディング (ATA 192 のみ)を追加 28 DMZ (ATA 192 のみ) 30

第4章

音声設定の構成 31

情報 (Information) 31 製品情報 31 システム ステータス(System Status) 32 回線1と回線2(電話1と電話2)の設定 32 カスタム CA ステータス 33 登録ステータス 33 システム 33 システム設定 34 その他の設定 34 SIP 34 SIP パラメータ 35 SIP タイマー値 37 応答ステータスコード処理 39 RTP パラメータ 40 SDP ペイロードタイプ 42 NAT サポート パラメータ 43

プロビジョニング 45 設定プロファイル 46 ファームウェアアップグレード 49 CA 設定 50 汎用パラメータ 50 地域 51 呼出音、リズム、およびトーンスクリプト 51 CadScript 51 FreqScript 52 ToneScript 52 コールプログレストーン 53 特殊呼び出し音パターン 56 特殊キャッチホン呼び出し音パターン 56 特殊呼び出し音パターン/CWT パターン名 57 呼出音とコール ウェイティング トーンの仕様 58 制御タイマーの値(秒) 59 特定業種向けサービスアクティベーションコード 61 特定業種向けサービスアナウンスコード 68 発信コールコーデック選択コード 68 その他 69 回線1と回線2(電話1と電話2)の設定 72 全般 72 ストリーミングオーディオサーバ (SAS) 72 NAT 設定 73 ネットワーク設定 74 SIP 設定 75 コール機能の設定 78 プロキシおよび登録 79 サブスクライバ情報 81 補足サービス サブスクリプション 82 音声設定 86

ダイヤル プラン 90 FXS ポートの極性構成 91 ユーザー1 およびユーザー2 91 コール転送の設定 92 選択した通話転送設定 92 スピード ダイヤルの設定 93 補足サービス設定 93 固有呼び出し音設定 96 呼出音設定 96

第5章

管理設定 99

管理 99

ウェブアクセス管理 99 Cisco ATA 192 Web アクセス管理フィールド 99 Cisco ATA 191 Web アクセスフィールド 100 Remote Access フィールド 101 TR-069 102 **SNMP 103** SNMP 設定 104 SNMPv3 設定 104 トラップの設定 105 ユーザリスト(パスワード管理) 105 パスワードの更新 105 Bonjour 106 リセットボタン 106 **SSH** 106 対数 107 デバッグ ログ モジュール 107 デバッグログ設定 107 デバッグログビューアー 108 イベントログの設定 108

PRT ビューアー 109 PCM ビューアー 110 CSS ダンプ 110 工場出荷時の初期状態 111 ファームウェア アップグレード 111 構成管理 112 バックアップ コンフィギュレーション 112 構成の復元 112 リブート 112

第6章 ステータスと統計情報 113

システム情報 113 インターフェイス情報 114 ネットワークステータス 115 ポート統計 (ATA 192 のみ) 116 メモリ情報 117 DHCPサーバ情報 (ATA 192 のみ) 117

第7章

FAQ 121

ATA を使用してインターネットに接続できない 121
ファームウェアをアップグレードしたが、ATA が正常に動作しない 122
DSL サービスを使用して、インターネットに手動で接続できない 122
ダイヤルトーンが聞こえず、電話1または2のLED が緑に点灯していない。 122
インターネットフォンのコールを発信するとオーディオが分割される 123
Webブラウザを開いたときに、ユーザ名とパスワードを入力するよう求められます。このプロンプトを無視する方法を教えてください。 123
DSL 電話回線が ATA WAN (インターネット) ポートに適合しません。 124
使用しているモデムにイーサネットポートがありません 124
ATA は、ケーブル接続用の同軸ポートを備えていません。 124

第8章 管理用 IVR 125

目次

管理用 IVR を使用 125 IVR のヒント 125 IVR アクション 126

第9章 電話機サービスの詳細オプション 131

Fax 完了率の最適化 131

ファクスに関するトラブルシューティング 132

ダイヤルプラン設定 133

ディジット シーケンス 133

ダイヤルされた番号の承認と伝送 137

- ダイヤルプランタイマー(オフフックタイマー) 138
- 桁間ロングタイマー(不完全なエントリタイマー) 139

桁間ショートタイマー(完全なエントリタイマー) 139

制御タイマーのリセット 140



はじめに

- •お使いの ATA (1ページ)
- Cisco ATA をインストールします。 (4 ページ)
- ATA 音声品質 (5 ページ)

お使いの ATA

図 1: Cisco アナログ電話アダプタ



ATA 191 および ATA 192 上部パネル

次の図は、ATA の上部にあるさまざまな LED とボタンを示しています。



表 1: ATA 191 および ATA 192 上部パネル項目

項目	説明
電源 LED	緑色に点灯 :システムが正常に起動し、使用可能な状態に なっています。
	緑色に低速点滅 :システムは起動中です。
	緑色に高速点滅が3回繰り返される :システムが起動しませんでした。
	消灯 : 電源がオフです。
ネットワーク LED	緑色に点滅 : データ送受信は WAN ポートを経由して実行されています。
	オフ :リンクがありません。
電話1のLED	緑色に点灯:オンフック。
電話2のLED	緑色に低速点滅: オフフック。
<u>ନ</u> ନ	緑色に高速点滅が3回繰り返される :アナログデバイスの登録に失敗しました。
	オフ:ポートが設定されていません。

項目	説明
問題レポート ツール(PRT) ボタン	問題レポートツールを使用して、問題レポートを作成するに は、このボタンを押します。
	(注) このボタンは、電源ボタンではありません。このボ タンを押すと、問題レポートが生成され、システム 管理者宛にサーバにアップロードされます。
問題レポート ツール (PRT) LED	オレンジ色に点滅 : PRT は問題レポート用のデータを準備し ています。
	オレンジ色に高速点滅 : PRT は問題レポートログを HTTP サーバに送信しています。
	5秒間緑色に点灯してからオフ: PRT レポートは正常に送信 されました。
	赤色に点滅 : PRT レポートが失敗しました。PRT ボタンを再 度押すと、新しい PRT レポートがトリガーされます。
	赤色に点滅 : [PRT] ボタンを押して点滅をキャンセルし、も う一度押して新しい PRT をトリガーします。

問題レポート ツール ボタン

[問題レポートツール (PRT)] ボタンは、ATA の上部パネルにあります。[PRT (PRT)] ボタンを 押すと、ネットワークのトラブルシューティング用にログファイルが準備され、サーバにアッ プロードされます。

アナログフォンのユーザに対して、ATA デバイスの PRT ボタンを押すように指示して、PRT ログファイルプロセスを開始することができます。

次のいずれかを実行して、PRT ログファイルを ATA からアップロードする必要があります。

- HTTP サーバをセットアップして、ATA から PRT ログファイルをアップロードします。
- お客様のニーズに最適なカスタマーサポートアップロード URL を設定し、それを ATA に 適用します。

ATA 191 および ATA 192 バックパネル

次の図は、ATA の背面にあるさまざまなポートとボタンを示しています。

図 3: ATA 191 背面パネル



図 4: ATA 192 - 背面パネル



表 2: ATA 191 and ATA 192 背面パネル項目

項目	説明
[RESET]	ATA をリセットするには、ペーパークリップなどを使用して このボタンを短く押します。
	出荷時のデフォルト設定に戻すには、10秒間押し続けます。
電話機 1	アナログフォンまたはファックス機を接続するには、RJ-11の 電話ケーブルを使用します。
電話機 2	RJ-11の電話ケーブルを使用して、2台目のアナログ電話機またはファックス機を接続します。
イーサネット (ATA 192 のみ)	イーサネットケーブルを使用して、ATA をコンピュータなど のネットワーク上のデバイスに接続します。
ネットワーク	ネットワークに接続するためにはイーサネット ケーブルを使 用します。
DC 5V 電源	電源に接続するためには同梱の電源アダプタを使用します。

Cisco ATA をインストールします。

10 Mbps接続の場合は、カテゴリ 3/5/5e/6 のいずれのケーブルでも使用できますが、100 Mbps 接続にはカテゴリ 5/5e/6 を使用する必要があります。

手順

ステップ1 電源をアダプタ ポートに接続します。

ステップ2 ネットワークから ATA のネットワーク ポートにストレート イーサネット ケーブルを接続し ます。各 ATA には、イーサネット ケーブルが1本付属しています。

ATA 音声品質

ATA は、さまざまな設定パラメータ内でカスタムプロビジョニングできます。次のセクションでは、音声品質に寄与する要因について説明します。

サポートされるコーデック

ATA では、以下のコーデックがサポートされています。デフォルト設定を使用することも、 回線1および回線2(電話1および電話2)ページのオーディオ設定セクションでコーデック設 定を設定することもできます。

表3:サポートされるコーデック

コーデック	説明
G.711(A-law およ び mu-law)	パケットあたり1~10 個の 5ms 音声フレームで非圧縮 64 kbps デジタル化 音声送信をサポートする非常に複雑度の低いコーデック。これらのコー デックは最高の狭帯域音声品質を提供しますが、使用可能なコーデック の中で最も多くの帯域幅を使用します。
G.726-32	パケットあたり1~10 個の 5ms 音声フレームで非圧縮 64 kbps デジタル化 音声送信をサポートする非常に複雑度の低いコーデック。これらのコー デックは最高の狭帯域音声品質を提供しますが、使用可能なコーデック の中で最も多くの帯域幅を使用します。
G.729a	ITU 729 音声を圧縮するために使用される、デジタル音声を圧縮するため の音声コーディングアルゴリズム。G.729a は削減された 729 の複雑バー ジョンであり、G.729 の処理能力約半分が必要です。729 および G 2929bit ストリームは互換性があり、相互運用はできますが、同じではありませ ん。

SIP プロキシ冗長性

典型的なSIPプロキシサーバは、数千人の加入者を処理できます。アクティブなサーバを一時 的にオフにしてメンテナンス作業を行うことができるよう、バックアップサーバが利用可能に しておくことは重要です。ATA では、サービスの停止が最小限で済むように、DNS SRV を使用したバックアップ SIP プロキシサーバの使用がサポートされています。

プロキシ冗長をサポートする簡単な方法は、SIP プロキシアドレスのリストを使用して DNS サーバを設定することです。ATA は、SIP メッセージで指定されたドメインの SIP プロキシ サーバと通信するように電話機に指示します。ATA は、DNS サーバを調べて、指定されたド メイン内の SIP サービスを提供するホストのリストを取得します。エントリが存在する場合、 DNS サーバは、ドメインの SIP プロキシサーバのリストが含まれている SRV レコードを返し ます。このレコードには、ホスト名、優先順位、リスニングポートなどの詳細情報が含まれて います。ATA は優先度の順序でホストへの接続を試みます。

ATA が現在、優先順位の低いプロキシサーバを使用している場合は、優先順位の高いプロキシを定期的に調査してオンラインであるかどうかを確認し、可能な場合は上位の優先プロキシに切り替えます。デフォルト設定を使用するか、このドキュメントの「プロキシと登録」セクションの説明に従って、プロキシ冗長メソッドを設定できます。

その他のATAの音声品質機能

サイレント抑制とコンフォートノイズ生成

サイレント抑制を使用した音声アクティビティ検出 (VAD) は、単一のコールに必要な帯域幅 を削減し、ネットワークがより多くのコールをサポートできるようにします。VAD はスピー チ信号と非スピーチ信号を区別し、無音抑制は会話中に発生する自然なサイレンスを削除しま す。IP 帯域幅は、音声を送信するためだけに使用されます。

自分のコールがまだ接続されているかを確認できるように、コンフォートノイズ生成がホワイ トノイズを提供します。

モデムのパススルー

モデムと Fax パススルーに適用されるのは、次のとおりです。

- モデムラインを切り替えるコードを切り替えることによって、モデムパススルーモードが トリガーされます。この設定は、[地域]ページの[業界向けサービスアクティベーション コード]セクションで設定できます。
- CEDとCNGのトーンまたはNSEイベントは、FAXパススルーモードをトリガーします。
- エコーキャンセラは、モデムパススルーモードで自動的に無効になります。
- ファックスの無効化機能(回線1または2のタブ)が、その回線に対して[はい]に設定されている場合、エコーキャンセラのエコーは無効になります。この場合、FAXパススルーはモデムパススルーと同じです。
- FAX とモデムパススルーの両方で、キャッチホンおよびサイレント状態の抑制が自動的に 無効になります。モデムまたは Fax のパススルー中の帯域外 DTMF 送信が無効になって います。

アダプティブ ジッター バッファ

ATA では、着信ボイスパケットをバッファリングして、ネットワーク遅延の影響を最小限に 抑えることができます。このプロセスは、ジッタバッファリングと呼ばれます。ジッタバッ ファーのサイズによって、ネットワークの状態が変化するように調整されます。ATA には、 各サービス回線に対するネットワークのジッタレベル制御が設定されています。ジッターで は、全体的な遅延を抑えるために、時間の経過に伴うジッターバッファーの圧縮をどの程度積 極的に試みるかを決定します。ジッタレベルが高くなると、徐々に小さくなります。ジッタレ ベルが低い場合は、より高速に圧縮されます。デフォルト設定を使用するか、または[音声設 定の「設定」章の[ネットワーク設定] セクションでこの機能を設定することができます。

1パケットあたりのオーディオ フレームが調整可能

この機能により、1つのRTPパケットに含まれるオーディオフレームの数を設定できます。パケットを調整して、1~10のオーディオフレームを含めることができます。パケットの数を増やすと、使用される帯域幅が減少しますが、遅延が増加し、音声品質に影響を与える場合もあります。この設定は、SIPページの[RTPパラメータ]セクションで設定できます。

DTMF リレー

ATA は、数字の忠実性を保持するために、帯域外イベントとして DTMF を中継する場合があ ります。この操作により、ダイヤルアップバンキングやエアラインの情報など、多くの IVR ア プリケーションで必要な DTMF 転送の信頼性が向上します。この設定は、SIP ページの [RTP パラメータ] セクションで設定できます。

コールプログレストーン

ATAには、設定可能なコールプログレストーンがあります。コールプログレストーンは、ローカルで ATA に生成され、コールのステータスを通知します。ダイヤルトーンなど、各トーンの種類のパラメータには、各コンポーネントの周波数と振幅、およびリズム情報を含めることができます。[地域のページのコールプログレストーン]セクションで、デフォルト設定をそのまま使用することも、これらのトーンを設定することもできます。

コールプログレストーン パススルー

この機能を使用すると、コールプログレストーン(呼出音など)を、末端のネットワークから生 成された状態で聞くことができます。

Echo キャンセリング

電話機と IP テレフォニー ゲートウェイ電話機の間でのインピーダンスミスマッチは、ほぼ終 了エコーにつながる可能性があります。ATA には、「インピーダンスのミスマッチ」を補正 するための近端エコーキャンセラが搭載されています。ATA は、コンフォートノイズジェネ レーター (CNG)を搭載したエコーサプレッサーも実装しているため、残留エコーが目立ちま せん。この機能はデフォルトで有効になっています。この設定は、回線1と回線2の設定(電 話1と電話2)ページの音声設定で設定できます。

フック フラッシュ イベント

ATA 信号は、接続コール中にプロキシにフラッシュイベントをフックします。この機能を使用して、サードパーティコール制御を使用して、高度な中間コールサービスを提供することができます。

- ・サービスプロバイダーによっては、コール待機サービス、3者間の会議サービス、または 3者通話サービスを無効にする必要がある場合があります。これらの3つの機能によって、 フックフラッシュイベントからソフトスイッチへのシグナリングができなくなる場合があ ります。これらの設定は、回線1と回線2の設定(電話1と電話2)ページの補足サービス サブスクリプションセクションで設定できます。
- •フックフラッシュの設定では、フックフラッシュ検出に必要な期間を決定します。[SIP] ページの [制御タイマー値] セクションにあります。

ディジット間タイマーを使用した設定可能なダイヤルプラン

ATAには、次の3つの構成可能な通話ディジットタイマーがあります。

- ・最初のタイムアウト:電話機がオフフックになることを知らせます。
- ・長いタイムアウト:ダイヤルされた文字列の終わりを知らせます。
- ・短いタイムアウト:より多くの数字が必要であることを知らせます。

極性制御

通話が接続されていて、コールが切断されている場合は、ATA を使用して極性を設定できま す。この機能は、一部の有料電話機システムと留守番電話機をサポートするために必要です。 これらの設定は、回線1と回線2の設定(電話1と電話2)ページのFXSポートの極性設定セク ションで設定できます。

発呼側制御

発信側の制御 (CPC) は、チップとリング信号間の電圧を一時的に削除し、通話相手がハング アップしたことを通知します。この機能は、オートアンサー機能を装備する場合に便利です。 これらの設定は、[地域のページの制御タイマーの値)] セクションで設定できます。

TLS 上の SIP を使用した SIP メッセージの暗号化

Transport Layer Security (TLS) の SIP を有効にして、サービスプロバイダーとビジネスの間で SIP メッセージを暗号化することができます。TLS 上の SIP は、シグナリングメッセージを暗 号化するためにTLS プロトコルに依存します。SIP トランスポートパラメータは、回線1と回 線2の設定 (電話1と電話2)ページの [SIP 設定] セクションで設定できます。

SRTP を使用した安全な通話

音声パケットが、Secure Real-Time Transport Protocol (SRTP) を使用して暗号化されます。この機能は、標準ベース(RFC4568)で実装されています。セキュアコールサービスはデフォルトで有効になっています。これは、回線1と回線2の設定(電話1と電話2)ページの補助的な

サービスの定期売買セクションにあります。このサービスが有効になっている場合は、電話番号をダイヤルする前にスター(*)キーを押すことで、安全な通話をアクティブ化できます。また、セキュアコールの設定を有効にして、電話からのすべてのコールを暗号化することもできます。



ボイスオーバーIPサービスのクイックセッ トアップ

•ボイスオーバー IP の設定 (11 ページ)

ボイスオーバー **IP** の設定

ATA Web ページに初めてログインすると、[クイックセットアップ] ページが表示されます。 このページを使用して、電話機をプロバイダーのボイスオーバー IP ネットワークに接続しま す。

 (注) サービスプロバイダーのネットワークにリンクするには、インターネット接続が必要です。デ フォルトのネットワーク設定では、WANポートがルータのポートに接続されている場合、ATA はインターネットに接続します。

手順

- **ステップ1**回線1と回線2の場合は、PHONE1ポートおよびPHONE2ポートに接続されている電話機ま たはファックスで使用される電話機の設定を入力します。
 - ・プロキシ:サービスプロバイダーのプロキシサーバの IP アドレスを入力します。
 - •表示名:アカウントの識別に使用する名前または DN を入力します。通常、この名前は、 発信者 ID 名として使用されます。
 - ・ユーザ ID: インターネットアカウントにログインするために必要なユーザ ID を入力します。
 - ・パスワード: インターネットアカウントにログインするのに必要なパスワードを入力します。

- ・ダイヤルプランイン(回線セクションのみ):デフォルト設定をそのまま使用するか(推奨)、
 またはサイトに合うようにダイヤルプランを編集します。
- ステップ2 [Submit] をクリックして設定値を保存します。音声サービスが再起動されます。
- ステップ3 進行状況を確認するには、次のタスクを実行します。

設定されていることを確認します。

- a) 電話機のLEDが緑色に点灯していることを確認します。これは、電話機が登録されていることを示します。
 回線が登録されていない場合は、登録が完了するまで数秒かかるので、ブラウザを数回更新します。また、DNSサーバの設定を含むインターネット設定がISPからの情報に従って
- b) 外部電話機を使用して、ISP から割り当てられた電話番号にコールします。電話機が応答 していることと、双方向音声が通話中であることを確認します。



ネットワーク設定

- •Web ベースの設定ユーティリティ (13 ページ)
- •基本的なセットアップ (14ページ)
- 詳細設定 (24 ページ)
- •アプリケーション (27ページ)

Web ベースの設定ユーティリティ

電話機のシステム管理者は、ユーザが電話機の統計を表示したり、一部またはすべてのパラ メータを変更することを許可できます。このセクションでは、電話機の Web ユーザインター フェイスで変更できる電話機の機能について説明します。

電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス

サービスプロバイダーが設定ユーティリティへのアクセスを無効にしている場合は、続行する 前にサービスプロバイダーに問い合わせてください。

手順

- ステップ1 コンピュータが電話機と通信できることを確認します。使用中の VPN はありません。
- **ステップ2** Web ブラウザを起動します。
- **ステップ3** Web ブラウザのアドレス バーに、電話機の IP アドレスを入力します。

たとえば、http://10.64.84.147/admin となります。

ステップ4 プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

ATA への Web アクセスの許可

ATA のパラメータを表示するには、設定プロファイルを有効にします。いずれかのパラメー タを変更するには、設定プロファイルを変更できることが必要です。システム管理者が ATA の Web ユーザインターフェイスを表示または書き込み可能にするために、ATA オプションを 無効にしている可能性があります。

詳細については、『CISCO ATA 191 および 192 マルチプラットフォームファームウェアプロビ ジョニングガイド』を参照してください。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス (13 ページ)を参照してください。

手順

- **ステップ1** [システム (System)] をクリックします。
- **ステップ2** [システム設定 (System Configuration)] セクションで、[Webサーバの有効化 (Enable Web Server)]を[はい (Yes)]に設定します。
- ステップ3 設定プロファイルを更新するには、電話機の Web ユーザインターフェイスでフィールドを変更した後に、[すべての変更を送信(Submit All Changes)]をクリックします。 電話機は再起動し、変更が適用されます。
- ステップ4 現在のセッション中(または最後に [すべての変更を送信(Submit All Changes)] をクリック した後)に行ったすべての変更をクリアするには、[すべての変更を元に戻す(Undo All Changes)]をクリックします。値が前の設定に戻ります。

基本的なセットアップ

ネットワークセットアップ>基本的なセットアップページから、インターネット接続、ローカルネットワーク設定 (ATA 192 のみ)、時刻の設定を構成します。

ネットワークサービス (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある>ネットワークサービスページから、 ATA 192 の動作モードを設定します。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

ATA は、次のモードのいずれかで動作するように設定できます。

- NAT: ネットワークアドレス変換 (NATA): プライベートネットワーク上の複数のデバイスが、パブリックで、ルーティング可能なIPアドレスを共有することを可能にします。NATとIPサービス経由の音声を共存させるには、ATAまたは他のネットワークデバイスに何らかの形式のNATトラバーサルが必要です。ATAをWANポート上の1つのネットワークとLANポート上の別のネットワークに接続する場合は、このオプションを使用します。このオプションはデフォルトで選択されており、ほとんどの導入に適しています。
- ブリッジ:デバイスとして他のルータに対して ATA が動作している場合は、ブリッジモードが使用されます。ATA を使用して LAN ポートにネットワークをブリッジする場合(また、接続されたデバイスが 10.0.0x 範囲に存在する場合)、このオプションを選択します。

基本設定

ネットワークセットアップ>基本設定ページから、基本的なネットワーク設定を設定します。

フィールド	説明
ドメイン名	ISPによって指定されている場合は、ドメイン 名を指定します。それ以外の場合はこのフィー ルドを空のままにします。
ホスト名 (Host Name)	ATA の名前。デフォルトはモデル番号です。 ISP は、使用するホスト名を指定できます。
スタックモード	ネットワークのスタックモードを選択します。 設定可能なモードには、IPv4のみ、Pv6のみ、 またはデュアルの3つがあります。
シグナリングの設定	SIP パケット設定 (IPv4 または IPv6) を選択し ます。
メディア設定	RTP パケット設定 (IPv4 または IPv6 のいずれか)を選択します。

表 4:基本設定

IPv4 設定

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある>IPv4設定ページから、IPv4接続をセッ トアップします。

表の説明に従って、設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存す るか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 5:[インターネット接続タイプ]

フィールド	説明
[接続タイプ (Connection	ISP が必要とするインターネットアドレスメソッドを指定します。デフォル ト設定: 自動コンフィギュレーション - DHCP
Type)]	•自動設定: DHCP: ISP が動的に IP アドレスを提供する場合は、この設定 を使用します。このページには、これ以外の設定は必要ありません。
	• 静的 IP: ISP が静的 IP アドレスを割り当てられている場合にこの設定を 使用します。表示されるフィールドに値を指定します。
	 PPPoE (DSL サービス): 一部の DSL ベースの ISP では、PPPoE (Point-to-point プロトコル)を使用してインターネットに接続しています。 DSL 回線を介してインターネットに接続している場合は、ISP に PPPoE を使用しているかどうかを確認します。表示されるフィールドに値を指 定します。
スタティック IP 設定	 ・インターネット IP アドレスとサブネットマスク: サービスプロバイダー によってアカウントに割り当てられた IP アドレスとサブネットマスクを 入力します。このアドレスは、インターネット上の外部ユーザに表示さ れます。
	 デフォルトゲートウェイ: ISP によって提供されたゲートウェイの IP ア ドレスを入力します。
	必要に応じて、MTU とオプションの設定を調整することができます。
PPPoE の設定	 ・ユーザ名とパスワード: PPPoE 接続を介して ISP ネットワークにログインする際に使用するユーザ名とパスワードを入力します。
	• サービス名: ISP から提供された場合は、サービス名を入力します。
	 オンデマンドでの接続:指定された非アクティブ状態(最大アイドル時間) 後にインターネット接続を切断するように ATA を設定できます。イン ターネット接続がタイムアウトになった場合、この機能により、再度イ ンターネットにアクセスしようとしたときに、ATA が再接続を再確立す ることも可能になります。このオプションを選択した場合は、最大アイ ドル時間も設定します。
	 ・キープアライブ: このオプションをオンにすると、接続がアイドル状態の場合でも、インターネットへの接続が無期限に維持されます。このオプションを選択した場合は、ATAによるインターネット接続が確認される間隔であるリダイヤル期間も設定します。デフォルト期間は30秒です。
	必要に応じて、MTU とオプションの設定を調整することができます。

フィールド	説明
[最大伝送ユ ニット (MTU)]	最大転送ユニット(MTU)設定では、ネットワーク伝送で許可されている最大 のプロトコルデータユニット(バイト単位)を指定します。一般に、MTU が 大きいほど効率は向上します。ただし、サイズの大きいパケットは、他のト ラフィックの遅延を引き起こす可能性があり、破損する可能性が高くなりま す。通常は、ATA が適切な MTU を選択できるように、デフォルト設定のま まにします。MTUを指定するには、[手動]を選択して、バイト数を入力しま す。

表 6:オプションの設定

フィールド	説明
[DNSサーバ順序(DNS Server	DNS サーバを選択するための推奨される方法を選択します。
Order)]	• DHCP 手動: ネットワークサーバからの DNS サーバの設定 が優先され、DNS フィールドのエントリはバックアップ としてのみ使用されます。
	 ・手動 DHCP: DNS フィールドのエントリが優先され、ネットワークサーバからの DNS サーバの設定がバックアップとして使用されます。
	• 手動: DNS フィールドのエントリは、DNS サーバを選択す るために使用されます。
プライマリ DNS(Primary DNS)	プライマリ DNS を IPv4 用に設定します。
セカンダリ DNS (Secondary DNS)	IPv4 のセカンダリ DNS を設定します。

IPv6 設定

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある>IPv6設定ページから、IPv6接続をセットアップします。

表の説明に従って、設定を入力します。変更を行った後で、**送信**をクリックして設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 7: IPv6 設定

フィールド	説明
[インター ネット接続	ISP が必要とするインターネットアドレスメソッドを指定します。デフォルト設 定: 自動コンフィギュレーション - DHCP
タイプ]	自動設定: DHCP: ISP が動的に IP アドレスを提供する場合は、この設定を使用します。このページには、これ以外の設定は必要ありません。
	静的 IP: ISP が静的 IP アドレスを割り当てられている場合にこの設定を使用します。次のフィールドに入力します。
	 インターネットのIPv6アドレスおよびプレフィックス長:サービスプロバイ ダーによってアカウントに割り当てられたIPv6アドレスとプレフィックス 長を入力します。パブリックにはこのアドレスを表示します。
	 デフォルトゲートウェイ: ISP によって提供されたゲートウェイ IPv6 アドレスを入力します。
	PPPoE (DSL サービス): 一部の DSL ベースの ISP では、PPPoE (Point-to-point プロ トコル)を使用してインターネットに接続しています。DSL 回線を介してイン ターネットに接続している場合は、ISP に PPPoE を使用しているかどうかを確認 します。次のフィールドに入力します。
	 ユーザ名とパスワード: PPPoE 接続を介して ISP ネットワークにログインする際に使用するユーザ名とパスワードを入力します。
	•サービス名: ISP から提供された場合は、サービス名を入力します。
	 オンデマンドでの接続:指定された非アクティブ状態(最大アイドル時間)後 にインターネット接続を切断するようにATAを設定できます。インターネッ ト接続がタイムアウトになっている場合は、この機能によって、インター ネットに再度アクセスしようとしたときに自動的にATAを再接続すること ができます。このオプションを選択した場合は、最大アイドル時間も設定し ます。
	 キープアライブ: このオプションをオンにすると、接続がアイドル状態の場合でも、インターネットへの接続が無期限に維持されます。このオプションを選択した場合は、ATAによるインターネット接続が確認される間隔であるリダイヤル期間も設定します。デフォルト期間は30秒です。

表	8:	オ	プ	シ	Ξ	ンの	設定
---	----	---	---	---	---	----	----

フィールド	説明
[DNSサーバ順序(DNS Server Order)]	 DNS サーバを選択するための推奨される方法を選択します。 DHCP 手動: ネットワークサーバからの DNS サーバの設定 が優先され、DNS フィールドのエントリはバックアップ としてのみ使用されます。 手動 DHCP: DNS フィールドのエントリが優先され、ネッ トワークサーバからの DNS サーバの設定がバックアップ として使用されます。 手動: DNS フィールドのエントリは、DNS サーバを選択 するために使用されます。
自動設定の許可	自動設定を許可する場合は有効にします。
プライマリ DNS(Primary DNS)	プライマリ DNS を IPv6 用に設定します。
セカンダリ DNS(Secondary DNS)	IPv6 のセカンダリ DNS を設定します。

IPv4 LAN 設定 (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある > IPv4 LAN 設定ページから、ローカル ネットワークの IP アドレスとサブネットマスクを設定します。組み込み DHCP サーバの設定 も設定します (ATA 192 のみ)。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

ルータIP

ローカルネットワークの**ローカル IP アドレス**とサブネットマスクを入力します。デフォルト 設定には、255.255.255.0のサブネットマスクと 192.168.15.1 が設定されています。

DHCP サーバの設定

フィールド	説明
[DHCPサーバ (DHCP Server)]	ATA では、組み込み DHCP サーバを使用して、接続されたデバイスに IP アドレスを動的に割り当てることができます。 有効 をクリックして DHCP サーバを有効にするか、 無効 をクリックして この機能を無効にします。
	デフォルト設定: 有効

г

フィールド	説明
IP 予約	[DHCP 予約の表示] ボタンをクリックすると、DHCP クライアント一覧を 表示および管理できます。[DHCP 予約の非表示] ボタンをクリックして、 一覧を非表示にします。一覧が表示されたら、次の作業を実行できます。
	 ・現在のDHCPクライアントの静的IPアドレスを予約するには、DHCP テーブルからクライアントを選択一覧で、クライアントのチェック ボックスをオンにします。クライアントを追加をクリックします。選 択されたクライアントは、すでに予約されているクライアント一覧に 追加されます。これらのクライアントには、変更されない静的なIPア ドレスが割り当てられています。
	 DHCP テーブル一覧から[クライアントの選択]にないクライアントを 追加するには、クライアント名の入力ボックスにクライアントの名前 を入力します。IP アドレスの割り当てボックスに、このクライアン トの IP アドレスを入力します。MAC アドレスを次の形式で入力して ください: 00:00:00:00:00 [追加(Add)]をクリックします。
	 ・すでに予約されているクライアントの一覧からクライアントを削除するには、クライアントのチェックボックスをオンにします。[削除]をクリックします。
デフォルトゲー トウェイ (Default Gateway)	DHCP クライアントが使用するデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを 入力します。
	デフォルト設定: 192.168.15.1 (イーサネット (LAN) インターフェイスの IP アドレス)
開始 IP アドレス (Starting IP Address)	DHCP サーバによって動的に割り当てられたアドレスの範囲の最初のアドレスを入力します。
	デフォルト設定: 192.168.15.100
最大 DHCP ユー ザ数	DHCP サーバから DHCP アドレスを動的に受信または「リース」すること が可能なデバイスの最大数を入力します。
	デフォルト設定:50
	重要:通常、ATA は、Web ブラウザやメール表示などのビジネス関連のタ スクのために最大5台の接続されたコンピューターをサポートできます。 ATA は、音楽、ビデオ、ゲーム、またはその他のネットワークトラフィッ ク集中型タスクのストリーミングをサポートするようには設計されていま せん。

I

フィールド	説明
クライアントの リース時間	動的に割り当てられたIPアドレスを使用できる分数、または「リース済み」 を入力します。この時間が経過すると、クライアントデバイスは DHCP リース更新をリクエストするようになります。0 は1日を表し、9999 は期 限切れにならないことを示します。
	デフォルト設定:0
オプション 66	このオプションをリクエストするホストに、プロビジョニングサーバのア ドレス情報を提供します。サーバ情報は、次の3つの方法のいずれかで定 義できます。
	 なし: ATA は独自の TFTP サーバを使用してソースプロビジョニング ファイルを使用するため、自身のローカル IP アドレスをクライアント に返します。
	 ・リモート TFTP サーバ: ATA は、この方法を使用して設定され、サー バ情報を WAN インターフェイス上のオプション 66 を使用して受信し ました。クライアントの要求に応答して、リモート TFTP サーバ情報 を提供します。
	 ・手動 TFTP サーバ:設定サーバアドレスを手動で設定できます。この オプションは、IP アドレスまたは完全修飾ホスト名のいずれかを提供 するために使用されます。また、ATAは、特定のクライアントの要件 を満たすために、プロトコル、パス、ファイル名などの完全な URL を受け入れて提供します。
	デフォルト設定: なし
TFTP サーバ (TFTP Server)	オプション 66 に [手動 TFTP サーバ] を選択した場合は、TFTP サーバの IP アドレス、ホスト名、または URL を入力します。
	デフォルト設定:空白
オプション 67	このオプションをリクエストするホストに設定またはブートストラップ ファイル名を提供します。このオプションは、オプション 66 と一緒に使 用すると、クライアントが適切な TFTP リクエストをファイルに対して実 行できるようになります。
	デフォルト設定:空白
オプション 159	このオプションを要求するクライアントへの設定 URL を提供します。オ プション 159 URL では、DNS を使用できないクライアントに IP アドレス を使用して、プロトコルとパスの情報を定義します。例: https://10.1.1.1:888/configs/bootstrap.cfg デフォルト設定:空白

フィールド	説明
オプション 160	このオプションを要求するクライアントへの設定 URL を提供します。オ プション 160 URL では、DNS を使用できるクライアントに完全修飾ドメ イン名を使用してプロトコルとパスの情報を定義します。例: https://myconfigs.cisco.com:888/configs/bootstrap.cfg デフォルト設定:空白
DNS プロキシ	この設定が有効になっている場合、DNSプロキシは現在のパブリックネットワーク DNS サーバに DNS リクエストを中継します。また、ネットワーク上のクライアントデバイスへの DNS リゾルバーとして応答します。有効をクリックしてこの機能を有効にするか、無効をクリックして無効化します。DNSプロキシが無効になっている場合、DHCPクライアントは、静的 DNS サーバを使用するか、またはインターネット (WAN) インターフェイス用に指定されたサーバを使用して DNS サーバ情報を提示します。

IPv6 LAN 設定 (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ>基本セットアップ>IPv6 LAN 設定ページから、IPv6 LAN 接続 をセットアップします。

表の説明に従って、設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存す るか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 9:[インターネット接続タイプ]

フィールド	説明
[DHCPサーバ(DHCP Server)]	有効 をクリックして DHCP サーバを有効にするか、 無効 をク リックして この機能を無効にします。
	デフォルト設定:有効
アドレス割り当てタイプ	アドレス割り当てタイプ: SLAAC/DHCPv6を選択します。
DHCPv6 委任	DHCPv6 委任をサポートするかどうかを選択します。[はい]の 場合、ユーザは IPv6 アドレスプレフィックスを設定できません。
IPv6 アドレスプレフィック ス	Ipv6 アドレスプレフィックスを IPv6 LAN インターフェイスに 設定すると、プレフィックス長は 64 に固定されます。
IPv6 アドレス長	Ipv6 アドレスプレフィックス長を IPv6 LAN インターフェイス に設定します。 範囲:1-112
IPv6 の静的 DNS	IPv6 の静的 DNS を設定します。

フィールド	説明
LAN IPv6アドレス	LAN IPv6 アドレス情報を表示します。

時刻設定

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある>時間設定ページから、ATA のシステ ム時間を設定します。デフォルトでは、システム時刻は Network Time Protocol (NTP) サーバを 使用して自動的に設定されます。システム時間を手動で設定することもできます。さらに、こ のページを使用して、タイムゾーンを指定したり、夏時間の調整を有効にしたり、関連する設 定を変更したりすることができます。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

ユーザマニュアル

システムを手動で設定する場合は、**ユーザマニュアル**をクリックして、日付と時刻を入力しま す。

表10:時刻設定

フィール ド	説明
日付	4桁の年、月、日の順で日付を入力します。
時刻	時間を次の順序で入力します。時間(1~24)、分、秒です。

タイム ゾーン

タイムサーバを使用して時刻の設定を確立するには、[タイムゾーン]を選択します。次に、このセクションの他のフィールドに情報を入力/指定します。

表 11:タイムゾーン設定

フィールド	説明
タイムゾーン	ATA が使用されているサイトのタイムゾーンを選択します。デ フォルト設定: (GMT-08:00) 太平洋標準時 (米国 & カナダ)。
自動的に夏時間の調整を する	サマータイムが有効になっている時間を自動的に調整したい場合 は、このチェックボックスをオンにします。保存しない場合は、 ボックスをオフにします。

フィールド	説明
タイムサーバアドレス。	ATA のデフォルトの Network Time Protocol (NTP) サーバを使用するには、ドロップダウンリストから [自動] を選択します。NTP サーバを指定する場合は、[手動] を選択し、NTP サーバアドレスを入力します。
再同期タイマー	再同期タイマー間隔の値を入力します(秒単位)。このタイマーは、 ATA が NTP サーバと再同期する頻度を制御します。
	デフォルト設定: 3600 秒
リブート後の自動リカバ リー	このオプションを選択すると、システムのリブート後に、ATA を 自動的にタイムサーバに再接続することができます。
	デフォルト設定:無効

詳細設定

ネットワークセットアップ>詳細設定ページから、ポートフロー制御、MACアドレスのクローン作成、VPN パススルー、VLAN などの機能を設定します。

ポート設定 (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ > 詳細設定にある > ポート設定ページから、イーサネット (LAN) ポートの属性を設定します。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

表 12:ポート設定

フィールド	説明
フロー制御	フロー制御は、ポート上のデータの送信を一時的に停止するメカニズムで す。たとえば、デバイスは、ネットワークの他の部分よりも高速にデータ を転送することができます。このようなネットワークの要素は、指定され た時間の間、送信者の送信を停止します。
	有効をクリックしてこの機能を選択するか、無効を選択してこの機能を無 効化します。 デフォルト設定:Enabled

フィールド	説明
スピード デュプ レックス	デュプレックスモードを選択します。自動ネゴシエーション、10ハーフ、 10フル、100ハーフと100フルに選択できます。Ciscoでは、[自動ネゴシ エーション]を選択して、トラフィックに適したモードを自動的に選択す ることを推奨しています。その他の設定には注意して使用してください。 ネットワークデバイスに対して適切でない設定を選択すると、問題が発生 する可能性があります。 デフォルト設定:自動ネゴシエーション

MAC アドレス クローン

MACアドレスは、識別目的で、ハードウェアの固有の部分に割り当てられた12桁のコードで す。ISPの中には、インターネットにアクセスするために MAC アドレスを登録する必要があ る ISP もあります。以前に別の MAC アドレスでアカウントを登録している場合は、その MAC アドレスを ATA に割り当てると便利な場合があります。ネットワークセットアップ>詳細設 定にある > MAC アドレスクローンページから、すでにサービスプロバイダーに登録されてい る MAC アドレスを割り当てることができます。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

フィールド	説明
MAC クローン	[有効]をクリックすると、MAC アドレスのクローン作成が有効に なります。
	デフォルト設定: 無効。
[MACアドレス(MAC Address)]	ATA に割り当てる MAC アドレスを入力します。使用しているコン ピュータの MAC アドレスが以前に ISP アカウントに登録していた アドレスである場合は、PCのMACをクローンをクリックします。 Mac アドレスフィールドには、使用しているコンピュータの Mac ア ドレスが表示されます。 デフォルト設定: ATA の現在の Mac アドレス

表 13: MAC アドレス クローン設定

VPN パススルー (ATA 192 のみ)

IPsec、PPTP、および L2TP プロトコルの VPN パススルーを設定するには、ネットワークセッ トアップ>詳細設定にある>VPN パススルーページから行います。この機能は、独立した IPsec トンネルを必要とする ATA の背後にデバイスが存在する場合に使用します。たとえば、 デバイスは VPN トンネルを使用して WAN 上の別のルータに接続する必要があります。 デフォルトでは、IPsec、PPTP、およびL2TPに対してVPNパススルーが有効になっています。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

表 14: VPN パススルー設定

フィールド	説明
IPsec パスス ルー	インターネットプロトコルセキュリティ (IPsec) は、IP 層でパケットの安全 な交換を実装するために使用される一連のプロトコルです。 有効 をクリック してこの機能を有効にするか、 無効 をクリックして無効化します。 デフォルト設定: Enabled
PPTP パスス ルー	Point-to-Point Tunneling Protocol (PPTP) を使用すると、IP ネットワークを介 して Point-to-Point Protocol (PPP) をトンネリングできます。PPTP パススルー を無効にするには、[無効] を選択します。 デフォルト設定: Enabled
L2TP パスス ルー	レイヤー2トンネリングプロトコルは、レイヤー2レベルのインターネット を使用して Point-to-Point セッションを有効化するために使用される方法で す。 有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリックして無効 化します。 デフォルト設定: Enabled

VLAN

ネットワークセットアップ>詳細設定にある>VLAN ページから、ネットワークに VLAN ID を割り当てます。たとえば、コールコントロールシステムは、特定のボイス VLAN ID を必要 とする場合があります。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

表 15: VLAN 設定

フィールド	説明
VLAN の有効化(Enable VLAN)	[有効]をクリックしてこの機能を有効にするか、[無効]をク リックして無効化します。 デフォルト設定:無効
VLAN ID	VLAN ID は、1~4094の任意の数字です。VLAN を有効にすると、デフォルトの設定は1になります。

CDP および LLDP

デバイス検出プロトコルを使用すると、直接接続されたデバイスが相互に関する情報を検出で きます。これらのプロトコルを有効にして、ネットワーク管理システムが ATA とエンドポイ ントについて知ることができるようにすることもできます。ネットワークセットアップ>詳細 設定にある > CDP & LLDPページから、CISCO Discovery Protocol (CDP) と Link Layer Discovery Protocol (LLDP)の設定を指定します。有効にすると、ATA はマルチキャストアドレスにメッ セージを送信し、そのプロトコルを使用して他のデバイスから送信されたメッセージをリッス ンします。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

アプリケーション

ネットワークセットアップ>アプリケーションページから、ボイスサービスおよびパブリック アクセス用にホストするすべてのサーバをサポートします。

Quality of Service (QoS) (ATA 192 のみ)

ネットワーク設定>アプリケーションにある>QoSページから、上流の帯域幅を広帯域サービ スに合わせて設定します。この機能は、デフォルトで有効になっており、ネットワークトラ フィックが多いときに音声を優先順位付けすることを支援します。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

表 16:0oSの設定

フィールド	説明
QoS ポリシー	QoS 設定を常に有効にするには常にオンをクリックするか、音声トラフィックがある場合にのみ有効にする場合は電話機の使用時にオンをクリックします。
	デフォルト設定: 電話機の使用時にオン
アップストリーム帯 域幅	インターネットのサービス プロバイダーによって指定されている、利 用可能な上流の帯域幅の最大値を入力します。
	デフォルト設定: 100000 kbps
	重要:サービスプロバイダーから受信した上流の帯域幅を上書きしない でください。この値を利用可能なサービス帯域幅より高く設定すると、 サービスプロバイダーのネットワークでトラフィックが任意に削除さ れる可能性があります。

ポートフォワーディング (ATA 192 のみ)

外部デバイスから特定のポートにアクセスする必要がある場合は、ネットワークセットアッ プ>アプリケーションにある>ポートフォワーディングページからアクセスします。

ポートフォワーディングのリスト

ポートフォワーディングルールを追加するには、[エントリの追加]をクリックします。ポート フォワーディングルールを編集するには、リストでポート転送ルールを選択してから[鉛筆ア イコン]をクリックします。ポートフォワーディングルールを削除するには、[削除]アイコン をクリックします。

表17:ポートフォワーディングの設定

フィールド	説明
番号(Number)	ポートフォワーディングルールの識別番号。
タイプ(Type)	ルールのタイプ: 単一ポートフォワーディングまたはポート範囲の転送。
ステータス	ルールのステータス:有効化または無効化
アプリケーショ ン	このルールを使用して、ネットワークリソースにアクセスするアプリケー ション。

ポートフォワーディングの詳細

[詳細] を表示するには、ポートフォワーディングリスト内のエントリをクリックします。

表18:ポート設定

フィールド	説明
External Port	外部クライアントがこの接続を設定するために使用するポート。
内部ポート	内部サーバにトラフィックを転送するときにATAが使用するポート。
プロトコル (Protocol)	使用されるプロトコルは、TCP または UDP です。
[IP アドレス(IP Address)]	このルールによってアクセスされる内部サーバの IP アドレス。

主導でポートフォワーディング (ATA 192 のみ)を追加

このページを使用して、アプリケーションのポートフォワーディングの設定を入力します。 説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、 キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。
I

表 19:ポートフォワーディングの設定

フィールド	説明
ポートフォワーディ ング タイプ	ポート転送のタイプを選択します。
	 ・単一ホートフォリーティング: LAN 内のターケットサーバの同じ ポートまたは代替ポートに対して、指定されたポートへのトラフィッ クを転送します。
	 ポート範囲転送: LAN 内のターゲットサーバの同じポートにトラフィックを転送します。必要なポートまたは範囲については、インターネットアプリケーションのマニュアルを参照してください。
アプリケーション名	ポートを1つ転送する場合は、ドロップダウンリストから一般的なアプ リケーション (Telnet や DNS など)を選択します。
	リストにないアプリケーションを追加するには、 新しい名前の追加 を選 択し、 名前の入力 フィールドに名前を入力します。
名前を入力します	ポート範囲転送を選択した場合、または単一のポートフォワーディング のアプリケーション名一覧で 新しい名前の追加 を選択した場合は、ア プリケーションを識別する名前を入力します。
外部ポート、内部 ポート	ポートを1つ転送する場合は、使用するポートを指定します。簡略化の ために、内部ポート番号と外部ポート番号は同じであることが多くあり ます。異なる外部ポート番号を使用して、異なるサーバで使用されてい る同一のアプリケーションタイプのトラフィックや非標準ポートを使用 したプライバシーを区別することができます。
	 ・外部ポート:単一ポートフォワーディングの場合は、外部クライアントが内部サーバとの接続を設定するために使用するポート番号を入力します。
	• 内部ポート: シングルポートフォワーディングの場合は、内部サー バにトラフィックを転送するときに ATA が使用するポート番号を 入力します。
	[アプリケーション名]一覧から単一ポートフォワーディング用の標準ア プリケーションを選択すると、適切なエントリが自動的に表示されま す。
開始 - 終了ポート	ポート範囲転送の場合は、使用するポートの範囲を指定します。有効値は1~65535です。
プロトコル (Protocol)	転送可能なプロトコル(TCP、UDP、またはTCP、UDP)を選択します。

フィールド	説明
[IP アドレス(IP Address)]	転送されたトラフィックを受信するローカルサーバの IP アドレスを入力します。
	トラフィックを正しく転送するには、ローカルサーバが静的 IP アドレ スで設定されているか、または DHCP を使用して予約済みの IP アドレ スを割り当てられている必要があります。IP アドレスを予約するには、 [インターフェイスセットアップ] > [LAN] > [DHCP サーバ] ページをか ら行います。
[有効(Enabled)]	このポート転送ルールを有効にするには、チェックボックスをオンに し、無効にするにはボックスをオフにします。 デフォルト設定:無効

DMZ (ATA 192 のみ)

特定目的のサービスに対してローカルデバイスをインターネットに公開する場合は、ネット ワークセットアップ > アプリケーションにある > DMZ ページから行います。

指定されたネットワークデバイスは、DHCPクライアント機能を無効にしておく必要がありま す。また、指定された IP アドレスでアクセス可能であることを確認するために、予約済み IP アドレスを設定する必要もあります。

(注)

Demilitarized Zone (DMZ; 緩衝地帯)は、ポート範囲フォワーディングと似ています。この両 方の機能により、インターネットトラフィックは、プライベートネットワーク上のリソースに アクセスできます。ただし、ポート範囲転送は、アプリケーション用に指定されたポートを開 くだけであるため、安全性が高くなります。DMZホストは、1台のデバイスのすべてのポート を開いて、それをインターネットに公開します。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、 キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 20: DMZ 設定

フィールド	説明
ステータス	有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリックして無効化します。 デフォルト設定:無効
プライベート IP	DMZを経由してアクセス可能なデバイスのローカル IP アドレスを指定します。



音声設定の構成

- 情報 (Information) (31 ページ)
- システム (33ページ)
- SIP (34 ページ)
- •プロビジョニング (45ページ)
- ・地域 (51ページ)
- •回線1と回線2(電話1と電話2)の設定 (72ページ)
- ユーザー1およびユーザー2 (91ページ)

情報(Information)

音声>情報ページから、ATA音声アプリケーションに関する情報を表示します。

製品情報

表 21:製品情報

フィールド	説明
Product Name	ATA の製品名。
シリアル番号	ATA のシリアル番号。
ソフトウェア バージョン	ATAのソフトウェアバージョン。
[ハードウェアバージョン(Hardware Version)]	ATAのハードウェアバージョン。
[MACアドレス (MAC Address)]	ATA の Mac アドレス。
クライアント証明書	ATA のクライアント証明書。
[カスタマイズ (Customization)]	ATA のカスタマイズ

マルチプラットフォームファームウェア用の Cisco ATA 191 および ATA 192 アナログ電話アダプタ アドミニストレーションガイド

システム ステータス (System Status)

表 22:システムステータスの設定

フィールド	説明
現在の日時	システムの現在の日付と時刻。例:10/3/2003 16:43:00
	[ネットワークセットアップ] の>[時間設定] ページか ら、システム時刻を設定します。
経過時間	システムが最後にリブートしてから経過した合計時間。 例:25日間、18:12:36
RTP パケット送信	送信された RTP パケットの総数 (冗長なパケットを含む)。
RTP バイト送信済み	送信された RTP バイトの総数
RTP パケット数(RTP Packets Recv)	受信した RTPパケットの総数(冗長なパケットを含む)。
RTP受信バイト数(RTP Bytes Recv)	受信した合計 RTP バイト数。
[送信SIPメッセージ(SIP Messages Sent)]	送信されたSIPメッセージの合計数(再送信も含む)。
[SIP送信バイト数 (SIP Bytes Sent)]	送信された SIP メッセージの合計バイト数(再送信も 含む)。
[受信SIPメッセージ(SIP Messages Recv)]	受信されたSIPメッセージの合計数(再送信も含む)。
[SIP受信バイト数 (SIP Bytes Recv)]	受信した SIP メッセージの合計バイト数(再送信も含む)。
外部IP (External IP)	NAT マッピングに使用される外部 IP アドレス。

回線1と回線2(電話1と電話2)の設定

電話1および電話2のポートを介したコールの設定を設定するには、音声>回線1ページおよび音声>回線2ページから行います。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、 キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

(注) 設定プロファイルでは、FXSパラメータに、設定を受信するポートを識別するための適切な数 字が含まれている必要があります。

カスタム CA ステータス

表 23:CA ステータス設定

フィールド	説明
[カスタムCAプロビジョニングステー タス(Custom CA Provisioning Status)]	最新のカスタム CA (認証局) 証明書のダウンロードの ステータス。
[カスタムCA情報(Custom CA Info)]	カスタム CA 証明書がインストールされていない場 合、CA情報が正常にダウンロードされ、「インストー ルされていません」となります。 デフォルト設定: 未インストール

登録ステータス

表 24:登録ステータス設定

フィールド	説明
[プロビジョニングプロファイル (Provisioning	プロファイルルールの設定
Profile)	デフォルト設定: 空
登録ステータス	最後のプロビジョニングのステータスを示しま
	す。
	デフォルト設定: 空
[プロビジョニング失敗の理由 (Provisioning	失敗した理由
Failure Reason)]	デフォルト設定: 空

システム

音声>システムページから、一般的な音声システム設定を構成し、syslog サーバを使用したロ ギングを有効にします。ロギングは、管理>ロギングページからも設定できます。

システム設定

表 **25**:システム設定

フィールド	説明
[制限付きアクセスドメイン (Restricted Access Domains)]	Cisco IP 電話が指定されたサーバからの SIP メッセージに のみ応答するドメインです。回線 1 に適用可能です。
IVR 管理者パスワード	管理者が、接続された電話によって組み込まれている IVR を使用して ATA を管理するためのパスワードです。
ネットワーク起動遅延	音声モジュールを再起動して、ネットワークインターフェ イスを初期化するまでの遅延秒数です。
	デフォルト設定:3

その他の設定

表 26:その他の設定

フィールド	説明
DNS クエリ TTL 無 視	DNS パッケージでは、サーバがクライアントに対して TTL 値を提示し ます。このパラメータが [はい] に設定されている場合、サーバからの 値は無視されます。 デフォルト設定: なし

SIP

音声 > SIP ページから、SIP の パラメータと値を設定します。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信**をクリックして設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

(注) これらのフィールドの詳細については、「Request to Comments (RFC) 3261」を参照してください。

SIP パラメータ

表 27 : SIP パラメータ設定

フィールド	説明
最大転送(Max Forward)	コールを転送できる最大時間。有効な範囲は1~255です。
	デフォルト設定:70
最大リダイレクション(Max Redirection)	無限ループを避けるために INIVTE をリダイレクトできる回 数。
	デフォルト設定:5
最大認証(Max Auth)	リクエストにチャレンジすることができる最大回数(0~255 回)。
	デフォルト設定:2
SIP ユーザ エージェント名 (SIP User Agent Name)	アウトバウンド リクエストで使用されるユーザエージェント ヘッダー。空の場合、ヘッダーは含まれません。許可される GPP_A ~GPP_D に対応する \$A ~ \$D のマクロ展開。
	デフォルト設定: \$VERSION
SIP サーバ名(SIP Server Name)	インバウンド応答への応答に使用されるサーバ <i>ヘッダー</i> 。 デフォルト設定: \$VERSION
SIP 登録ユーザ エージェント 名(SIP Reg User Agent Name)	登録リクエストで使用するユーザー エージェントの名前。こ の値を指定しない場合、SIPユーザエージェント名のパラメー タが REGISTER 要求にも使用されます。 デフォルト設定:空白
SIP 登録開始シーケンス番号	SIP 登録メッセージシーケンス番号を定義します。
	デフォルト設定:空白
SIP 受け入れ言語 (SIP Accept Language)	使用される Accept-Language ヘッダー。デフォルトはありません。これは、ATA にこのヘッダーが含まれていないことを示します。空の場合、ヘッダーは含まれません。 デフォルト設定:空白
DTMF リレー MIME タイプ (DTMF Relay MIME Type)	DTMF イベントを通知するために SIP INFO メッセージで使用 される MIME タイプ。 デフォルト設定: Application/dtmf-relay.

フィールド	説明
フックフラッシュ MIME タイ プ(Hook Flash MIME Type)	フック フラッシュ イベントを通知するために SIP INFO メッ セージで使用される MIME タイプ。
	デフォルト設定:アプリケーション/フック-フラッシュ。
最後の登録の削除(Remove Last Reg)	値が異なる場合は、新しい登録を送信する前に ATA によって 最後の登録が削除されるかどうかを確認します。最後の登録 を削除する場合は [はい] を、このステップを省略する場合は [いいえ] を選択します
	デフォルト設定:なし
コンパクトなヘッダーを使用 (Use Compact Header)	ATA がアウトバウンド SIP メッセージでコンパクトな SIP ヘッ ダーをしようするかどうかを決定します。
	はいに設定すると、アウトバウンドSIPメッセージでコンパク トな SIP ヘッダーを使用します。
	標準 SIP ヘッダーを使用する場合は、いいえを選択します。
	インバウンドSIP要求にコンパクトヘッダーが含まれる場合、 ATA は使用コンパクトヘッダーのパラメータに関係なく、応 答を生成するときに同じヘッダーを再利用します。着信SIPリ クエストに通常のヘッダーが含まれている場合、[コンパクト ヘッダーを使用する]が[はい]に設定されている場合、ATA はそれらのヘッダーを、RFC 261 で指定します。
	デフォルト設定: なし
表示名のエスケープ(Escape Display Name)	表示名がプライベートかどうかを確認します。アウトバウン ド SIP メッセージの場合に、ATA で文字列(表示名に設定さ れている)をペアの二重引用符で囲むには、はいを選択しま す。表示名に"または\が含まれている場合、これらは二重引 用符内にある\"または\\にエスケープされます。それ以外の 場合は、いいえを選択します。
	デフォルト設定:なし
RFC 2543 コール保留(RFC 2543 Call Hold)	コール保留のタイプを次の0.0.0ように設定します。保留 SDP では、0.0.0.0 シンタックスを使用しないでください。この場 合は、a:sendonly シンタックスを使用します。
	デフォルト設定: あり

フィールド	説明	
すべてのAVTパケットをマー クします。	すべての AVT トーンパケットを冗長性用にエンコードして、 各 DTMF イベントのマーカービットを設定する場合は、[はい] を選択します。	
	最初のパケットにマーカービットのみを設定するには、[いい え]を選択します。 デフォルト設定: たり	
	フラオル下設た: めり	
AVT パケットサイズ	Ptime または固定された 10ms に設定された値に従って、AVT パケットサイズを示します。	
	デフォルト設定: ptime	
SIP TCP ポートの最小値(SIP	SIP セッションに使用できる最小の TCP ポート番号。	
TCP Port Min)	デフォルト設定: 5060	
SIP TCP ポートの最大値(SIP TCP Port Max)	SIP セッションに使用できる最大の TCP ポート番号。	
	デフォルト設定: 5080	
CTI の有効化:	一部のサーバに用意されているコンピュータコールインター フェイス機能を有効または無効にします。	
	デフォルト設定:なし	
参照が失敗したときに Referee を維持する (Keep Referee When REFER Failed)	このパラメータをはいに設定すると、電話機はNOTIFY sipfrag メッセージを処理するように設定されます。	
	このパラメータは、設定ファイルでも設定できます。	
	<keep_referee_when_refer_failed ua="na">Yes</keep_referee_when_refer_failed>	
発信者 ID ヘッダー(Caller ID Header)	PAID-RPID-FROM、P-ASSERTEDIDENTITY、REMOTE-ID、 または FROM ヘッダーから発信者 ID を取得するためのオプ ションを提供します。	
	デフォルト設定: PAID-RPID-FROM	

SIP タイマー値

表 28: SIP タイマー値設定

フィールド	説明
[SIP T1]	0~64 秒の範囲の RFC 3261 T1 値(RTT 推定)。
	デフォルト設定: 0.5

フィールド	説明
[SIP T2]	0~64 秒の範囲の RFC 3261 T2 値(非 INVITE 要求と INVITE 応答の最大再送信間隔)。
	デフォルト設定:4
[SIP T4]	0~64秒の範囲の RFC 3261 T4 値(メッセージがネットワー ク内にとどまる最大継続時間)。 デフォルト設定:5
B)]	0~64秒の範囲のINVITEタイムアウト値。 デフォルト設定:32
[SIPタイマーF (SIP Timer F)]	0~64秒の範囲の非 INVITE タイムアウト値。
	デフォルト設定:16
[SIPタイマーH (SIP Timer	0~64 秒の範囲の H INVITE 最終応答、タイムアウト値。
H)]	デフォルト設定: 32
[SIPタイマーD (SIP Timer	0~64 秒の範囲の ACK ハングアラウンド時間。
D)]	デフォルト設定: 32
[SIPタイマーJ (SIP Timer J)]	0~64 秒の範囲の非 INVITE 応答ハングアラウンド時間。
	デフォルト設定: 32
[INVITE期限(INVITE Expires)]	INVITE 要求の Expires ヘッダー値。0 を入力すると、要求に Expires ヘッダーは含まれません。範囲: 0-(2 ³¹ -1)
	デフォルト設定: 240
[ReINVITE期限(ReINVITE Expires)]	ReINVITE 要求の Expires ヘッダー値。0 を入力すると、要求 に Expires ヘッダーは含まれません。範囲: 0-(2 ³¹ -1)
	デフォルト設定:30
[登録最小期限(Reg Min Expires)]	Expires ヘッダーでまたは Contact ヘッダー パラメータとして プロキシから許可される最小登録期限。プロキシがこの設定 よりも小さい値を返す場合、最小値が使用されます。
	デフォルト設定:1
[登録最大期限(Reg Max Expires)]	Min-Expires ヘッダーでプロキシから許可される最大登録期限。 値がこの設定よりも大きい場合、最大値が使用されます。
	デフォルト設定: 7200

フィールド	説明
登録再試行間隔(Reg Retry Intvl)	登録が最後に失敗してから ATA が登録を再試行するまで待機 する間隔。
	デフォルト設定:30
[登録再試行ロング間隔(Reg Retry Long Intvl)]	登録が [登録SRCの再試行] と一致しない SIP 応答コードで失 敗した場合に、ATA は指定された時間待機してから再試行し ます。この間隔が 0 の場合、ATA は試行を停止します。この 値は、[登録再試行間隔]の値よりも長い値に指定する必要があ り、0 は指定できません。 デフォルト設定: 1200
[登録再試行ランダム遅延 (Reg Retry Random Delay)]	失敗後に REGISTER を再試行するときに [登録再試行間隔 (Reg Retry Intv)] に加算するランダム遅延範囲(秒単位)。 デフォルト設定: 0 (無効)
[登録再試行ロングランダム遅 延(Reg Retry Long Random Delay)]	失敗後に REGISTER を再試行するときに [登録再試行ロング間 隔(Reg Retry Long Intvl)] に加算するランダム遅延範囲(秒 単位)。 デフォルト設定: 0 (無効)
[登録再試行間隔上限(Reg Retry Intvl Cap)]	指数関数的バックオフ再試行遅延の上限となる最大値で、[登録再試行間隔 (Register Retry Intvl)] で開始して、登録再試行ご とに倍増します。再試行間隔は、常に失敗後の[登録再試行間 隔 (Register Retry Intvl)] になります。この機能を有効にする と、[登録再試行ランダム遅延(Reg Retry Random Delay)]の 値が指数関数的バックアップ調整遅延値に加算されます。 デフォルト設定:0は、指数関数的なバックオフ機能を無効に します。

応答ステータス コード処理

表 29:応答ステータスコードの設定

フィールド	説明
SIT1 RSC	適切な情報トーン(SIT)用のSIP応答ステータスコード。SIT1RSC からSIT4 RSCのすべての失敗した応答ステータスコードに対し て、デフォルトでリオーダーまたは話中トーンが再生されます。 デフォルト設定:空白

フィールド	説明
SIT2 RSC	SIT2 トーンを再生するように招待する SIP 応答ステータスコード。
	デフォルト設定:空白
SIT3 RSC	SIT3 トーンを再生するように招待する SIP 応答ステータスコード。
	デフォルト設定:空白
SIT4 RSC	SIT4 トーンを再生するように招待する SIP 応答ステータスコード。
	デフォルト設定:空白
[バックアップRSC の試行 (Try Backup RSC)]	現在のリクエストに対してサーババックアップを再試行するSIP 応答コード。 デフォルト設定:空白
	からい目がによりレント オージアクロナゴシケートスナイナー
[登録RSCの再試行(Retry Reg RSC)]	登録か最後に矢敗してから AIA か登録を再試行するまで待機する間隔。
	デフォルト設定:空白

RTP パラメータ

表 30: RTP パラメータ

フィールド	説明
[RTPポートの最小値 (RTP Port Min)]	RTP の送受信用の最小ポート番号。 RTP Port Min および RTP Port Max パラメータは、100~106 のよう に、少なくとも 4 個の番号ポートを含む範囲を定義する必要があり ます。 デフォルト設定: 16384
[RTPポートの最大値 (RTP Port Max)]	RTP の送受信用の最大ポート番号。 デフォルト設定: 16482
[RTPパケットサイズ (RTP Packet Size)]	0.01 ~ 0.16 の範囲のパケットサイズ(秒単位)。有効な値は0.01 秒 の倍数にする必要があります。 デフォルト設定: 0.030

I

フィールド	説明
RTP Tx Packet Size はリ モート SDP に続きま す。	リモートペア RTP パケットサイズを有効にします。 デフォルト設定: あり
[最大RTP ICMPエラー (Max RTP ICMP Err)]	RTP パケットをピアに送信するときに ATA がコールを終了するまで に許可されている連続 ICMP エラー数。値が 0 に設定された場合、 ATA は ICMP エラーの制限を無視します。 デフォルト設定:0
[RTCP送信間隔(RTCP Tx Interval)]	RTCP送信者レポートをアクティブな接続で送信する間隔。有効範囲 は0~255秒です。アクティブな接続中には、ATA をプログラムし て、結合時に複合 RTCPパケットを送信することができます。最後の 1つを除き、各複合 RTPパケットには、1つの送付者レポート(SR) と1つの送信元記述(SDES)が含まれます。最後の RTCPパケット には、追加の BYEパケットが含まれています。最後の 1つを除き、 各 SR には、正確に1つの受信者レポート(RR)が含まれます。最 後の SR は RR を伝送しません。SDES には次のような CNAME、 NAME、および TOOL 識別子が含まれます。CNAME は < ユーザ ID > @ < Proxy > に設定されています。また、ツールはベンダー/ ハードウェアプラットフォームソフトウェアのバージョンに設定さ れています。SR で使用される NTP タイムスタンプは、NTP サーバに よってレポートされる時刻ではなく、ATA のローカル時間のスナッ プショットです。ATA は、ピアから RR を受信すると、ラウンドト リップ遅延を計算し、その値をコールラウンドトリップ遅延値 (ms) として情報ページに表示しようとします。 デフォルト設定:0
UDPチェックサムなし	SIP メッセージの UDP ヘッダーチェックサムを ATA で計算する場合 は、[はい] を選択します。それ以外の場合は、[いいえ] を選択しま す。 デフォルト設定: なし
BYE の統計	ATA での P-RTP-Stat ヘッダーまたは応答が BYE メッセージに含まれ ているかどうかを確認します。ヘッダーには、現在のコールの RTP 統計情報が含まれています。ドロップダウン メニューから [はい] ま たは [いいえ] を選択します。 デフォルト設定: あり P-RTP-Stat ヘッダーの形式は次のとおりです。 P-RTP-Stat: PS=<パケット送信>, OS=<オクテット送信>, PR=<パケッ ト Recd>, OR=<オクテット Recd>, PL=<パケットが失われた>, JI=<ジッ ター>, LA=<ミリ秒の往復遅延>, DU=<通話時間を秒で>

SDP ペイロード タイプ

表 *31 : SDP* ペイロード

フィールド	説明
NSE 動的ペイロード	NSE動的ペイロードのタイプ有効範囲は96-127です。
	デフォルト設定:100
[AVT動的ペイロード(AVT Dynamic Payload)]	AVT 動的ペイロードのタイプ。有効範囲は 96-127 で す。
	デフォルト設定: 101
[INFOREQ動的ペイロード(INFOREQ	INFOREQ 動的ペイロードのタイプ。
Dynamic Payload)]	デフォルト設定:空白
G726r32 動的ペイロード	G726r32 動的ペイロードのタイプ
	デフォルト設定:2
G729b 動的ペイロード	G.729b 動的ペイロードのタイプ有効範囲は 96-127 です。
	デフォルト設定: 99
EncapRTP 動的ペイロード	EncapRTP 動的ペイロードのタイプ
	デフォルト設定: 112
RTP-開始-ループバックの動的ペイ	RTP-開始-ループバックの動的ペイロードタイプ。
ロード	デフォルト設定: 113
RTP-開始-ループバックコーデック	RTP-開始-ループバックコーデック。次のいずれかを選 択します。(G711u、G711a、G726-32、G729a)
	デフォルト設定: G711u
NSE コーデック名	SDP で使用される NSE コーデック名。
	デフォルト設定: NSE
[AVTコーデック名(AVT Codec	SDP で使用される AVT コーデックの名前。
Name)]	デフォルト設定: telephone-event
[G711uコーデック名(G711u Codec	SDP で使用される G.711u コーデックの名前。
Name)]	デフォルト設定: PCMU

フィールド	説明
[G711aコーデック名(G711a Codec	SDP で使用される G.711a コーデックの名前。
Name)]	デフォルト設定: PCMA
G726r32 コーデック名	SDP で使用される G.726-32 コーデックの名前。 デフォルト設定: G726-32
[G729aコーデック名(G729a Codec	SDP で使用される G.729a コーデックの名前。
Name)]	デフォルト設定: G729a
[G729bコーデック名(G729b Codec	SDP で使用される G.729b コーデックの名前。
Name)]	デフォルト設定: G729ab
EncapRTP コーデック名	SDP で使用される EncapRTP コーデック名。 デフォルト設定: encaprtp

NAT サポート パラメータ

表 *32 : NAT* サポート パラメータ

フィールド	説明
受信 VIA の処理(Handle VIA received)	はいを選択すると、ATA は VIA ヘッダーで受信したパラメータ を処理します。サーバは、そのリクエストのいずれかの応答にこ の値を挿入します。いいえを選択した場合、パラメータは無視さ れます。
	デフォルト設定:なし
VIA rport の処理(Handle VIA rport)	はいを選択すると、ATA は VIA ヘッダーのレポートパラメータ を処理します。この値は、サーバによって、そのリクエストのい ずれかへの応答に挿入されます。いいえを選択した場合、パラ メータは無視されます。 デフォルト設定: なし
受信 VIA の挿入(Insert VIA received)	received-from IP 値と VIA sent-by IP 値が異なる場合に、SIP 応答の VIA ヘッダーに受信パラメータを挿入します。 ドロップダウン メニューからはいまたはいいえを選択します。
	デフォルト設定:なし

フィールド	説明
VIA rport の挿入(Insert VIA rport)	received-from IP 値と VIA sent-by IP 値が異なる場合に、SIP 応答の VIA ヘッダーにパラメータを挿入します。
	ドロップダウン メニューから はい または いいえ を選択します。
	デフォルト設定:なし
[VIAアドレスの置換 (Substitute VIA Addr)]	ユーザが VIA ヘッダーで NAT-mapped IP:port 値を使用できるようにします。ドロップダウンメニューから[はい]または[いいえ] を選択します。
[送信元ポートへの応答の 送信 (Send Resp To Src Port)]	VIA sent-by ポートの代わりに要求送信元ポートに応答を送信します。
	ドロップダウン メニューから はい または いいえ を選択します。
	デフォルト設定:なし
[STUN有効(STUN	STUN を使用して NAT マッピングを検出できるようにします。
Enable)]	ドロップダウン メニューから はい または いいえ を選択します。
	デフォルト設定:なし
[STUNテスト有効(STUN Test Enable)]	[STUN有効 (STUN Enable)]機能が有効で、有効な STUN サー バが使用できる場合、ATA は電源投入時に NAT タイプの検出を 実行します。これには、設定された STUN サーバが含まれ、検出 結果は以降すべての REGISTER 要求の警告ヘッダーでレポート されます。ATA で対称 NAT または対称ファイアウォールが検出 されると、NAT マッピングが無効になります。 デフォルト設定: なし
「STUNサーバ(STUN	NAT マッピング検出のために接続すろ STUN サーバの IP アドレ
Server)]	スまたは完全修飾名。
	デフォルト設定:空白

フィールド	説明
[外部IP(EXT IP)]	すべての発信 SIP メッセージで ATA の実際の IP アドレスを置き 換える外部 IP アドレス。0.0.0.0 を指定した場合、IP アドレスの 置換は行われません。
	このパラメータを指定すると、ATA では SIP メッセージと SDP の生成時にこの IP アドレスが想定されます。ただし、STUN お よび VIA の受信したパラメータ処理の結果は、この静的に設定 された値を優先します。
	このオプションでは、インターネットサービスプロバイダーから (1)静的 IP アドレスを取得し、(2)対称 NAT メカニズムを使用し てエッジデバイスを使用する必要があります。ATA デバイスが エッジデバイスの場合、2 番目の要件が満たされています。
	デフォルト設定:空白
[外部 RTP ポートの最小値 (EXT RTP Port Min)]	RTP ポートの最小番号の外部ポート マッピング番号。この数値 がゼロでない場合、すべての発信 SIP メッセージの RTP ポート 番号が外部 RTP ポート範囲の対応するポート値で置き換えられ ます。 デフォルト設定:空白
[NATキープアライブ間隔 (NAT Keep Alive Intvl)]	NAT マッピングのキープアライブ メッセージ間の間隔。
	デフォルト設定:15
[キープアライブをリダイ レクト(Redirect Keep Alive)]	NAT リダイレクトキープアライブメッセージを有効または無効 にします。 デフォルト設定: なし

プロビジョニング

リモートサーバから ATA を設定するには、音声 > プロビジョニングページからプロファイル とパラメータを設定します。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、 キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

設定プロファイル

表33:構成プロファイルの設定項目

フィールド	説明
プロビジョン有効 (Provision Enable)	ファームウェアアップグレード操作とは関係なくすべての再同期 操作を制御します。リモートプロビジョニングを有効にするには [はい]を設定します。
	デフォルト設定: あり
リセット時の再同期:	パラメータの更新やファームウェアアップグレードによるリブー トを除き、リブートのたびに再同期がトリガーされます。 デフォルト設定: あり
再同期ランダム遅延 (Resync Random Delay)	プロビジョニングサーバに接続する前に ATA が待機する最大時 間間隔です。この遅延は、次の電源投入時またはリセット後の最 初の設定試行時にのみ有効になります。遅延は、0~この値の範 囲の擬似乱数です。
	このパラメータの単位は20秒です。デフォルト値の2は、40秒 を表します。このパラメータを0に設定すると、この機能は無効 になります。
	この機能は、多数のデバイスの電源が同時に起動するときの、プロビジョニングサーバの過負荷状態を回避するのに使用します。
	デフォルト設定:2(40秒)
再同期時刻 (HHmm):	デバイスが再同期を試行する時刻。再同期は毎日実行されます。 再同期時刻ランダム遅延(Resync At Random Delay)
	デフォルト設定:空白
再同期時刻ランダム遅延 (Resync At Random Delay)	再同期時刻(HHmm)設定で使用する場合、このパラメータでは、 再同期遅延用に使用可能な値の範囲を設定します。システムは、 この範囲からランダムに値を選択し、指定された秒数だけ待機し てから、再同期を試みます。この機能は、すべての再同期デバイ スが1日の間に再同期を開始した場合に発生するネットワーク詰 まりを回避するために使用されます。
	デフォルト設定: 600
定期再同期(Resync Periodic)	プロビジョニングサーバでの定期的な再同期の時間間隔。サーバ で同期が最初に成功した後にのみ関連付けられている再同期タイ マーがアクティブになります。このパラメータを0に設定する と、定期再同期が無効になります。
	フノオルト取た: 3000

フィールド	説明
再同期エラー再試行遅延 (Resync Error Retry Delay)	再同期に失敗した場合に適用される再同期再試行間隔(秒)。ATA には、プロビジョニングサーバとの前回の同期の試行が失敗した 場合にアクティブになるエラー再試行タイマーがあります。ATA は、タイマーが0にカウントダウンするまで、サーバへの再接続 を待機します。 このパラメータは、エラー再試行タイマーに最初にロードされる
	値です。このパラメータが0に設定されている場合は、失敗が試行された後、ATAは即座にプロビジョニングサーバとの同期を再 試行します。
	デフォルト設定: 3600
強制再同期遅延(Forced Resync Delay)	再同期を実行するまでの待機時間の最大遅延(秒単位)。回線の いずれかがアクティブな間、ATAは再同期しません。再同期には 数秒かかるため、ATAが長時間アイドルになるまで待機してから 再同期することをお勧めします。中断することなく通話できるよ うになります。
	ATAには、すべての回線がアイドル状態になったときにカウント ダウンを開始するタイマーがあります。このパラメータは、カウ ンタの初期値です。
	再同期イベントは、このカウンタが0になるまで遅延します。
	デフォルト設定: 14400
SIP からの再同期(Resync	SIP NOTIFY メッセージで再同期をトリガーできます。
From SIP)	デフォルト設定: あり
アップグレード試行後の再 同期(Resync After Upgrade Attempt)	ファームウェアアップグレードが試行されるたびに再同期をトリ ガーします。
	デフォルト設定:あり
再同期トリガー1(Resync Trigger 1)	設定可能な再同期トリガー条件。これらのパラメータの論理式が TRUE に評価されたときに再同期がトリガーされます。
再同期トリガー2 (Resync Trigger 2)	デフォルト設定:空白
FNF 時の再同期失敗 (Resync Fails On FNF)	プロビジョニングサーバからのファイルが見つからない応答が成 功したか再同期に失敗したかを確認します。再同期が失敗する と、エラー再同期タイマーがアクティブになります。 デフォルト設定:あり

フィールド	説明
プロファイル ルール (Profile Rule)	このパラメータは、プロビジョニング再同期コマンドに評価され るプロファイルスクリプトです。コマンドは、TCP/IPの操作と関 連付けられている URL です。TCP/IP 操作には、TFTP、HTTP、 または HTTPS を使用できます。
	コマンドが指定されていない場合、TFTPが想定され、TFTPサー バのアドレスはDHCPオプション66を介して取得されます。URL では、サーバの IP アドレスまたは FQDN のいずれかを指定でき ます。ファイル名には、ATA MAC アドレスに展開される \$MA などのマクロを含めることができます。
	デフォルト設定: /spa\$PSN.cfg
プロファイル ルール B (Profile Rule B) プロファイル ルール C (Profile Rule C) プロファイル ルール D (Profile Rule D)	2番目、3番目、4番目の再同期コマンドと、関連付けられたプロ ファイル URL を定義します。これらのプロファイルスクリプト は、プライマリ プロファイル ルールの再同期操作が完了した後 に順番に実行されます。再同期がトリガーされ、プロファイル ルールが空の場合でも、プロファイル ルール B、C、および D は 評価されて実行されます。
(Trome Rule D)	デフォルト設定:空白
使用する DHCP オプショ ン(DHCP Option To Use)	ファームウェアおよびプロファイルを取得するために使用され る、コンマで区切られた DHCP オプション。
	デフォルト設定: 66.160.159.150
トランスポート プロトコ ル(Transport Protocol)	トランスポートプロトコルは、ファームウェアとプロファイルを 取得します。[なし]を選択すると、TFTPが想定され、TFTPサー バの IP アドレスが DHCP サーバから取得されます。
	デフォルト設定:[https]
ログ要求メッセージ(Log Request Msg)	このパラメータには、再同期の試行開始時に syslog サーバに送信 されるメッセージが含まれます。
	デフォルト設定は \$PN \$MAC 再同期リクエスト \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH です。
ログ成功メッセージ(Log Success Msg)	再同期の試行が正常に完了した時点で発行される Syslog メッセージ。
	デフォルト設定は \$PN \$MAC 成功した再同期 \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH です。
ログ失敗メッセージ(Log Failure Msg)	再同期の試行が失敗した後に発行される Syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC Resync failed: \$ERR です。

フィールド	説明
レポート ルール (Report Rule)	設定レポートが送信されるターゲットURL。このパラメータは、 Profile_Ruleパラメータと同じ構文を使用し、関連付けられたURL を使用して TCP/IP コマンドに解決されます。
	認証された SIP NOTIFY メッセージに応答して、次のイベントに よって設定レポートが生成されます。レポートは、すべてのデバ イスパラメータの名前と値を含む XML ファイルです。
	このパラメータには、必要に応じて、暗号キーを含めることがで きます。次に例を示します。
	[key \$K] tftp://ps.callhome.net/\$MA/rep.xml.enc
	デフォルト設定:空白

ファームウェア アップグレード

表 *34 :* ファームウェア アップグレード設定

フィールド	説明
アップグレードの有効化 (Upgrade Enable)	ファームウェアアップグレード操作が再同期アクションとは 無関係に発生するかを決定します。 デフォルト設定:あり
アップグレード エラー再試行 遅延(Upgrade Error Retry Delay)	アップグレードが失敗した場合のアップグレードの再試行間 隔(秒単位)。ATAには、ファームウェアアップグレードが 失敗した後にアクティブになるファームウェアアップグレー ドエラータイマーがあります。タイマーは、このパラメータ の値で初期化されます。このタイマーが0までカウントダウ ンすると、次のファームウェアアップグレードが試行されま す。 デフォルト設定: 3600
ダウングレードの改訂数制限。	ファームウェアのアップグレードまたはダウングレード時に、 許容可能なバージョン番号の下限値を適用します。ATA は、 このパラメータ以上のファームウェアバージョンがない限り、 ファームウェアアップグレード操作を完了しません。 デフォルト設定:空白
アップグレード ルール (Upgrade Rule)	このパラメータは、Profile_Ruleと同じ構文をもつ、ファーム ウェアアップグレードのスクリプトです。アップグレードの 条件と、関連するファームウェアの URL を定義します。 デフォルト設定:空白

フィールド	説明
ログ アップグレード要求メッ セージ(Log Upgrade Request Msg)	ファームウェア アップグレード試行の開始時に発行される Syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC Requesting upgrade \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH です。
ログ アップグレード成功メッ セージ(Log Upgrade Success Msg)	ファームウェアアップグレード試行が正常に完了した後に発 行される syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC Successful upgrade \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH \$ERR です。
ログ アップグレード失敗メッ セージ(Log Upgrade Failure Msg)	失敗したファームウェアアップグレード試行の後に発行され る syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC Upgrade failed: \$ERR です。

CA 設定

表 35 : CA 設定

フィールド	説明
カスタム CA URL	カスタム認証局(CA)の証明書のファイルの場所をURLで指定します。サー バの IP アドレスまたは FQDN のいずれかを指定できます。ファイル名に は、ATA MAC アドレスに展開される \$MA などのマクロを含めることがで きます。
	デフォルト設定:空白

汎用パラメータ

表 36:汎用設定

フィールド	説明
GPP A ~ GPP	汎用プロビジョニングパラメータ。これらのパラメータは、プロビジョニングとアップグレードのルールで変数として使用できます。\$GPP_A など、'\$'の文字を含む変数名を付加することにより参照されます。
P	デフォルト設定:空白

地域

音声 > 地域ページから、適切な地域設定でシステムをローカライズします。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、 キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

呼出音、リズム、およびトーンスクリプト

呼出音とトーンパターンを定義するために、ATA はスクリプトの概念を使用します。次のセクションでは、パターンスクリプト (CadScripts)、周波数スクリプト (FreqScripts)、およびトーンスクリプト (ToneScripts) の作成方法について説明します。

CadScript

信号のパターンパラメータを指定する最大127文字までのミニスクリプト。

シンタックス:S1[;S2]。次の意味があります。

Si=Di(oni,1/offi,1[,oni,2/offi,2[,oni,3/offi,3[,oni,4/offi,4[,oni,5/offi,5,oni,6/offi,6]]]]]) で、セクション として知られています。oni,j と offi,j は、セグメントの秒単位のon/off 継続時間で、i=1 また は2、j=1から6です。Diは、セクションの合計継続時間(秒単位)です。すべての継続時間 には、1ミリ秒単位の精度を実現するため、小数点以下第3位まで含めることができます。ワ イルドカード文字 "*" は無期限を意味します。セクション内のセグメントは順番に実行され、 合計時間が実行されるまで繰り返されます。

例 1:60 (2/4)

Number of Cadence Sections = 1 Cadence Section 1: Section Length = 60 s Number of Segments = 1 Segment 1: On=2s, Off=4s Total Ring Length = 60s

例 2:特殊呼出音(短、短、短、長):60(.2/.2,.2/.2,.2/.2,.1/4)

Number of Cadence Sections = 1 Cadence Section 1: Section Length = 60s Number of Segments = 4

Segment 1: On=0.2s, Off=0.2s

Segment 2: On=0.2s, Off=0.2s

Segment 3: On=0.2s, Off=0.2s

Segment 4: On=1.0s, Off=4.0s

Total Ring Length = 60s

FreqScript

トーンの周波数とレベルパラメータを指定する最大127文字のミニスクリプト。

シンタックス: F1@L1[,F2@L2[,F3@L3[,F4@L4[,F5@L5[,F6@L6]]]]

F1~F6は、周波数(符号なし整数のみ)の周波数(符号なし整数のみ)およびL1:L6値は、dBm 単位で対応するレベルです(最大1つの小数点以下)。コンマの前後に空白は使用できますが、 推奨されません。

例 1: コール ウェイティング トーン: 440@-10

Number of Frequencies = 1

Frequency 1 = 440 Hz at -10 dBm

例 2: ダイヤルトーン: 350 @-19440 @-19

Number of Frequencies = 2

Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm

Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm

ToneScript

通話進行トーンの周波数とレベル、およびケイデンスパラメータを指定する最大127文字のミ ニスクリプト。127文字まで含めることができます。

シンタックス: ToneScript;Z1[;Z2]

セクションZ1はCadScriptのS1セクションに類似していますが、各on/offセグメントの後に、 周波数コンポーネントパラメータZ1 = D1(oni,1/offi,1/fi,1[,oni,2/offi,2/fi,2[,oni,3/offi,3/fi,3[,oni,4/offi,4/fi,4[,oni,5/offi,5/fi,5[,oni,6/offi,6/fi,6]]]]]), where fi,j = n1[+n2]+n3[+n4[+n5[+n6]]]]] および1 <nk <6は、FreqScriptで指定された周波数成分 のどれがそのセグメントで使用されているかを示します。セグメントで複数の周波数成分が使 用されている場合、成分は合計されます。

例1-ダイヤルトーン:350@-19,440@-19;10(*/0/1+2)

Number of Frequencies = 2 Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm Number of Cadence Sections = 1 Cadence Section 1: Section Length = 10 s Number of Segments = 1 Segment 1: On=forever, with Frequencies 1 and 2 Total Tone Length = 10s

例 2—Stutter tone: 350@-19,440@-19;2(.1/.1/1+2);10(*/0/1+2)

Number of Frequencies = 2

Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm

Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm

Number of Cadence Sections = 2

Cadence Section 1: Section Length = 2s

Number of Segments = 1

Segment 1: On=0.1s, Off=0.1s with Frequencies 1 and 2

Cadence Section 2: Section Length = 10s

Number of Segments = 1

Segment 1: On=forever, with Frequencies 1 and 2

Total Tone Length = 12s

コールプログレストーン

表 37:コールプログレス設定

フィールド	説明
[ダイヤルトーン (Dial Tone)]	電話番号の入力が求められます。リオーダー音は、<ダイヤル トーン> またはその代わりとなるものがタイムアウトすると 自動的に再生されます。
	デフォルト設定: 350@-19,440@-19;10(*/0/1+2)
2つ目のダイヤル トーン	3 者通話にダイヤルする場合は、ダイヤルトーンの代わりに 使用します。
	デフォルト設定: 420@-19,520@-19;10(*/0/1+2)
[外部ダイヤルトーン (Outside Dial Tone)]	ダイヤル トーンの代わり。内線番号とは対照的に、外部の電 話番号を入力するよう促されます。ダイヤルプランにコンマ 文字を使用すると、そのことがトリガーされます。
	デフォルト設定: 420@-16;10(*/0/1)
[プロンプトトーン (Prompt Tone)]	コール転送電話番号を入力するように促されます。 デフォルト設定: 520@-19,620@-19;10(*/0/1+2)
[ビジートーン (Busy Tone)]	発信コールで 486 RSC が受信されると再生されます。
	デフォルト設定: 480@-19,620@-19;10(.5/.5/1+2)

フィールド	説明
[リオーダー音(Reorder Tone)]	発信コールが失敗した場合、または相手先が確立されたコー ル中に電話を切った後に再生されます。リオーダー音は、<ダ イヤルトーン>またはその代わりとなるものがタイムアウト すると自動的に再生されます。
	デフォルト設定: 480@-19,620@-19;10(.25/.25/1+2)
[オフフック警告トーン(Off Hook Warning Tone)]	発信者がクレードルにハンドセットを適切に配置していない 場合に再生されます。オフフックの音がタイムアウトすると、 オフフックの警告トーンが再生されます。
	デフォルト設定: 480@-10,620@0;10(.125/.125/1+2)
リング バック トーン	相手先を呼び出しているときの発信コール中に再生されます。
	デフォルト設定: 440@-19,480@-19;*(2/4/1+2)
リング バック 2 トーン	着信相手が発信 INVITE リクエストに SDP を持たない SIP 182 応答を返信した場合、ATA は、リングバックトーンではな く、このトーンを再生します。
	デフォルト設定: リズムが1秒ずつオン/オフになることを除 き、呼出音と同じです。
	デフォルト設定: 440@-19,480@-19;*(1/1/1+2)
[トーンの確認 (Confirm	最後の入力値が受け入れられたことを通知する短いトーン。
Tone)	デフォルトの設定: 600@-16;1(.25/.25/1)
SIT1 トーン	発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、 再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーす るための RSC は、SIP 画面上で設定できます。
	デフォルト設定: 985@-16,1428@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)
SIT2 トーン	発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、 再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーす るための RSC は、SIP 画面上で設定できます。
	デフォルト設定: 914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.274/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)
SIT3 トーン	発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、 再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーす るための RSC は、SIP 画面上で設定できます。
	デフォルトの設定: 914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)

フィールド	説明
SIT4 トーン	発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、 再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーす るための RSC は、SIP 画面上で設定できます。
	デフォルト設定: 985@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)
[MWIダイヤルトーン(MWI Dial Tone)]	発信者のメールボックスに未開封メッセージがある場合に、 ダイヤル トーンの代わりに再生されます。
	デフォルト設定: 350@-19,440@-19;2(.1/.1/1+2);10(*/0/1+2)
[Cfwdダイヤルトーン(Cfwd	すべてのコールが転送されたときに再生されます。
Dial Tone)	デフォルト設定: 350@-19,440@-19;2(.2/.2/1+2);10(*/0/1+2)
[保留音(Holding Tone)]	相手先がコールを保留にしたことをローカル発信者に通知し ます。
	デフォルト設定: 600@-19;*(.1/.1/1,.1/.1/1,.1/9.5/1)
[会議トーン(Conference Tone)]	3 者間の電話会議が進行中の場合に、すべての当事者向けに 再生されます。
	デフォルト設定: 350@-19;20(.1/.1/1,.1/9.7/1)
[セキュアコール通知トーン (Secure Call Indication Tone)]	コールが正常にセキュアモードに切り替えられたときに再生 されます。会話に干渉しないように、30秒未満の短時間わ たって19dBm未満の低いレベルでのみ再生する必要がありま す。 デフォルト設定: 397@-19,507@-19;15(0/2/0,.2/.1/1,.1/2.1/2)
機能呼び出しトーン	機能が実装されているときに再生されます。
	デフォルト設定: 350@-16;*(.1/.1/1)
コールリマインダートーン	ホールディングトーンは、保留中のコールを知らせるために、 アクティブコール中に電話機のポートで再生されます。 デフォルト設定:空白

特殊呼び出し音パターン

表 **38**:固有呼び出し音設定

フィールド	説明
Ring1 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 1。
	デフォルト設定: 60(2/4)
Ring2 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 2。
	デフォルト設定: 60(.8/.4,.8/4)
Ring3 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 3。
	デフォルトの設定: 60 (.4/.2,.4/.2,.8/4)
Ring4 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 4。
	デフォルトの設定: 60 (3/2, 1/. 2, 3/4)
Ring5 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 5。
	デフォルト設定:1(.5/.55)
Ring6 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 6。
	デフォルト設定: 60 (.2/.4,.2/.4,.2/4)
Ring7 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 7。
	デフォルト設定: 60 (4/2, 4/4, 4/4)
Ring8 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 8。
	デフォルト設定: 60(0.25/9.75)

特殊キャッチホン呼び出し音パターン

表39:特殊キャッチホン呼び出し音

フィールド	説明
CWT1 パターン	特殊 CWT 1 のパターン スクリプト。
	デフォルトの設定: *(. 3/9.7)
CWT2 パターン	特殊 CWT 2 のパターン スクリプト。
	デフォルトの設定: 30(.1/.1, .1/9.7)

フィールド	説明
CWT3 パターン	特殊 CWT 3 のパターン スクリプト。
	デフォルトの設定: 30(.1/.1, .1/.1, .1/9.7)
CWT4 パターン	特殊 CWT 4 のパターン スクリプト。
	デフォルトの設定: 30(.1/.1, .3/.1, .1/9.3)
CWT5 パターン	特殊 CWT 5 のパターン スクリプト。
	デフォルト設定:1(.5/.55)
CWT6 パターン	特殊 CWT 6 のパターン スクリプト。
	デフォルトの設定: 30(.1/.1,.3/.2,.3/9.1)
CWT7 パターン	特殊 CWT 7 のパターン スクリプト。
	デフォルトの設定: 30(.3/.1,.3/.1,.1/9.1)
CWT8 パターン	特殊 CWT 8 のパターン スクリプト。
	デフォルト設定: 2.3(.3/2)

特殊呼び出し音パターン/CWT パターン名

表 40: 特殊呼び出し音パターン/CWT パターン

フィールド	説明
呼出音1の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT1を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定:ベルコア1
呼出音2の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT2を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定: ベルコア2
呼出音3の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT3を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定: ベルコア-r3
呼出音4 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT4を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定: ベルコア-r4

フィールド	説明
呼出音5 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT5を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定: ベルコア-r5
呼出音6の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT6を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定: ベルコア-r6
呼出音7 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT7を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定: ベルコア-r7
呼出音8の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT8を選択するには、INVITE のアラート情報ヘッダーに名前を入力します。
	デフォルト設定: ベルコア-r8

呼出音とコール ウェイティング トーンの仕様

重要:着信音とコール待機トーンは、すべての電話機で同じように動作するわけではありません。呼出音を設定する場合は、次の推奨事項を検討してください。

- •デフォルトの呼出音、リング周波数、および着信電圧で開始します。
- •呼出音が正しく鳴っていない場合、または電話機がコールしない場合は、次の設定を変更 します。
 - ・呼出音ウェーブフォーム: Sinusoid
 - ・呼び出し周波数:25
 - ・リング電圧:80

表41:呼出音とコール待機トーン

フィールド	説明
リング波形	呼び出し信号の波形です。正弦波と台形波が選べます。
	デフォルト設定:台形波
呼び出し周波数(Ring	呼び出し信号の周波数です。有効な値は15~50(Hz)です。
Frequency)	デフォルト設定:20

フィールド	説明
リング電圧	呼び出し電圧選択肢は 30~90 (V) です。 デフォルト設定: 85
CWT 周波数	コール待機トーンの頻度スクリプト。すべての特有のCWTは このトーンに基づいています。 デフォルト設定: 440@-10
同期リング	[はい] に設定されている場合、ATA が呼び出されると、すべ ての回線が同時に鳴ります(通常のPSTN回線と同様)。1つの 応答があると、他の回線が停止します。 デフォルト設定:なし

制御タイマーの値(秒)

表 42:制御タイマーの値

フィールド	説明
Flash Timer Min をフックしま す。	オフフックがフックフラッシュとして認定される前の最小オ ンフック時間です。この値よりも小さいと、オンフックイベ ントは無視されます。範囲: 0.1 ~ 0.4 秒
	デフォルト設定: 0.1
フラッシュタイマーをフック します。	オフフックがフックフラッシュとして認定される前の最大オ ンフック時間です。この値よりも大きいと、オンフックイベ ントはオンフック (フック-flash イベントなし) として扱われ ます。
	範囲: 0.4~1.6 秒
	デフォルト設定: 0.9
呼び出し先のオンフック遅 延。	ATA が現在の着信コールを切断するまでの時間は、電話機が オンフックである必要があります。発信コールには適用され ません。
	範囲:0~255秒
	デフォルト設定:0
リオーダーの遅延(Reorder Delay)	遠端側が切断されてからリオーダー音が再生されるまでの遅 延。0=すぐに再生、inf=再生しない。範囲:0~255秒
	デフォルト設定:5

フィールド	説明
コールバック期限切れ(Call Back Expires)	コールバック有効化の秒単位の有効期限。範囲:0~65535 秒
	デフォルト設定: 1800
コールバック再試行間隔(Call Back Retry Intvl)	秒単位のコール バック再試行間隔。範囲:0~255秒 デフォルト設定:30
コールバック遅延(Call Back Delay)	最初の SIP 18x 応答を受信してから、リモート エンドが呼び 出し中であることを宣言するまでの遅延。話中応答がこの時 間内に受信された場合は、ATA ではコールで障害が発生して いると判断され、再試行が続きます。
	デフォルト設定: 0.5
VMWI Refresh Intvl	デバイスに対する VMWI 更新間隔を指定します。
	デフォルト設定:0
桁間ロング タイマー (Interdigit Long Timer)	ダイヤル中に番号を入力する間隔の長い方のタイムアウト。 桁間タイマーの値は、ダイヤル時のデフォルトとして使用さ れます。ダイヤルプラン内のすべての有効な一致シーケンス のダイヤリングが完了していない場合、1 つの番号が入力さ れるたびに Interdigit_Long_Timer が使用されます。範囲:0~ 64 秒
	デフォルト設定:10
桁間ショート タイマー (Interdigit Short Timer)	ダイヤル中に番号を入力する間隔の短い方のタイムアウト。 少なくとも1つの一致シーケンスのダイヤリングが完了して いるが、さらにダイヤルされた番号がまだ完了していない他 のシーケンスと一致する場合、1つの番号が入力されるたび に Interdigit_Short_Timer が使用されます。範囲:0~64秒 デフォルト設定:3

フィールド	説明
CPC 遅延。	ATA が、発信者の取り付けられた装置にチップとリング間の 電圧の取り外しを開始した後、発信者が切断するまでの遅延 時間(秒単位)。範囲は0~255秒です。通常、この機能は、発 信者が接続されている場合(リモートエンドが応答した)、ま たは切断されたとき(リモートエンドが切断した場合)、この 機能を発信者用に使用しないようにする必要があります(つま り、接続およびアイドル状態について同じ極性を使用する場 合)。
	CPC が有効になっていない場合、再オーダートーンは設定可能な遅延の後に再生されます。CPC が有効になっている場合、 チップとリング間の電圧が回復するときにダイヤルトーンが 再生されます。解決は1秒です。 デフォルト設定:2
CPC の持続時間。	発信者が電話を切り、発信した後に、先端対呼出電圧が削除 された秒単位の時間。その後、先端対呼出電圧が復元され、 接続された装置がまだオフフックになっている場合は、ダイ ヤルトーンが適用されます。この値が0に設定されている場 合、CPC が無効になります。範囲:0~1.000秒。解決は0.001 秒です。 デフォルト設定:0.5

特定業種向けサービス アクティベーション コード

特定業種向けサービスアクティベーションコードは、ダイヤルプランに自動的に追加されます。ダイヤルプランに含める必要はありませんが、それらが含まれていても害はありません。

表 43:特定業種向けサービス アクティベーション コード

フィールド	説明
コール戻りコード(Call Return Code)	コール戻りコードは、最後の発信者を呼び出します。
	デフォルト設定: *69
コールリダイヤルコード	リダイヤルする最後の数字を指定します。
	デフォルト設定: *07
ブラインド転送コード(Blind Transfer Code)	アクティベーション コードの後に指定された内線番号に、ア クティブかコールのブラインド転送を開始します
	デフォルト設定:*98

フィールド	説明
コールバック アクティベー ション コード(Call Back Act	最後の発信コールが話中状態ではない場合にコールバックを 開始します。
Code)	デフォルト設定: *66
コールバック非アクティベー	コールバックをキャンセルします。
$\checkmark \exists \checkmark \exists \neg \neg \neg \lor \land$ (Call Back Deact Code)	デフォルト設定:*86
コールバック 話中アクティ ベーション コード (Call Back	最後の発信コールが使用中の場合は、コールバックを開始し ます。
Busy Act Code)	デフォルト設定: *05
Cfwd All Act $\neg - \lor$ (Cfwd All Act Code)	アクティベーション コードの後に指定された内線番号にすべ てのコールを転送します。
	デフォルト設定: *72
Cfwd All Deact $\exists - k$ (Cfwd	すべてのコールのコール転送をキャンセルします。
All Deact Code)	デフォルト設定: *73
Cfwd Busy Act コード (Cfwd Busy Act Code)	アクティベーション コードの後に指定された内線番号に話中 のコールを転送します。
	デフォルト設定: *90
Cfwd Busy Deact $\exists - $	話中コールのコール転送をキャンセルします。
Busy Deact Code)	デフォルト設定: *91
Cfwd No Ans Act $\neg - ert$ (Cfwd No Ans Act Code)	アクティベーション コードの後に指定された内線番号に無応 答コールを転送します。
	デフォルト設定: *92
Cfwd No Ans Deact $\exists - \check{k}$	無応答コールのコール転送をキャンセルします。
(Cfwd No Ans Deact Code)	デフォルト設定: *93
Cfwd All Act $\neg - \vDash$ (Cfwd All Act Code)	アクティベーションコードを入力した後に指定した番号に、 最後の着信または発信コールを転送します。
	デフォルト設定: *63
Cfwd Busy Deact $\exists - $	最後の着信コールまたは発信コールのコール転送をキャンセ ルします。
	デフォルト設定: *83

フィールド	説明
最後のアクティベーション コードをブロックします。	最後の着信コールをブロックします。 デフォルト設定: *60
最後のアクティベーション コードをブロックします。	最後の着信コールのブロッキングをキャンセルします。 デフォルト設定: *80
最後のアクティベーション コードを受け入れます。	最後のアウトバウンド コールを受け入れます。また、すべて のコールの発信またはコール転送が有効になっている場合に、 コールの呼出音をつなげることができます。 デフォルト設定: * 64
最後の非アクティベーション コードを受け入れます。	コードをキャンセルして最後の発信コールを受け入れます。 デフォルト設定: *84
CW Act コード (CW Act Code)	すべてのコールでコール ウェイティングを有効にします。 デフォルト設定: *56
CW Deact $\exists - F$ (CW Deact Code)	すべてのコールでコール ウェイティングを無効にします。 デフォルト設定: *57
CW Per Call Act $\neg - \lor$ (CW Per Call Act Code)	次のコールのコール ウェイティングを有効にします。 デフォルト設定: *71
CW Per Call Deact $\exists - $	次のコールのコール ウェイティングを無効にします。 デフォルト設定: *70
ブロック CID アクティベー ション コード(Block CID Act Code)	すべての発信コールの発信者 ID をブロックします。 デフォルト設定: *67
CID ブロック アクティベー ション解除コード(Block CID Deact Cod)	すべての発信コールの発信者 ID ブロックを削除します。 デフォルト設定: *68
Block CID Per Call Act $\neg - \beta$ (Block CID Per Call Act Code)	次の発信コールの発信者 ID をブロックします。 デフォルト設定: *81
コール単位の CID ブロック非 アクティベーション コード (Block CID Per Call Deact Code)	次の着信コールの発信者 ID ブロックを削除します。 デフォルト設定: *82

フィールド	説明
非通知着信ブロック アクティ ベーション コード(Block ANC Act Code)	すべての匿名コールをブロックします。 デフォルト設定: *77
非通知着信ブロック アクティ ベーション解除コード(Block ANC Deact Code)	すべての匿名コールのブロックを削除します。 デフォルト設定: *87
DNDアクティベーションコー	[サイレント (Do Not Disturb)]機能を有効にします。
ド(DND Act Code)	デフォルト設定: *78
DND 非アクティベーション	応答不可機能を無効化します。
コード(DND Deact Code)	デフォルト設定: *79
CID アクティベーション コー	発信者 ID の生成を有効にします。
ド(CID Act Code)	デフォルト設定: *65
DND 非アクティベーション	発信者 ID の生成を無効にします。
コード(DND Deact Code)	デフォルト設定: *85
CWCID アクティベーション	コール待機 (発信者 ID 生成) を有効にします。
コード(CWCID Act Code)	デフォルト設定: *25
CWCID 非アクティベーション	コール待機 (発信者 ID 生成) を無効にします。
コード(CWCID Act Code)	デフォルト設定: *45
Dist Ring Act $\neg - F_{\circ}$	固有呼び出し音機能の有効化。 デフォルト設定: *26
Dist Ring Deact $\exists - F_{\circ}$	固有呼び出し音機能の無効化。 デフォルト設定: *46
短縮ダイヤルのアクティベー	短縮ダイヤル番号を割り当てます。
ションコード。	デフォルト設定: *74
ページング コード (Paging	グループ内の他のクライアントのページングに使用されます。
Code)	デフォルト設定: *96
全コールのセキュア化アク ティベーション コード (Secure All Call Act Code)	すべての発信コールをセキュアにします。 デフォルト設定:*16
フィールド	説明
---	--
コールの非セキュア化アク ティベーション コード (Secure No Call Act Code)	すべての発信コールをセキュアにしません。 デフォルトの設定:*17
1コール保護起動のコード	次の発信コールをセキュアにします。(すべての発信コールが デフォルトで安全である場合は、冗長になります)。 デフォルト設定: *18
Secure One Call Deact コード (Secure One Call Deact Code)	次の発信コールがセキュアでなくなります。(デフォルトでは、すべての発信コールが安全でない場合、冗長になります)。 デフォルト設定: *19
会議アクティベーションコー ド	このコードが指定されている場合は、電話会議用にサードパー ティをダイヤルする前に入力する必要があります。会議コー ルのコードを入力します。 デフォルト設定:空白
Attn-転送開始アクティベー ションコード。	コードが指定されている場合は、通話転送用にサードパーティ をダイヤルする前に入力する必要があります。通話転送用の コードを入力します。 デフォルト設定:空白
モデム回線の切り替えコー ド。	回線をモデムに切り替えます。モデムのパススルーモードは、 このコードをプリダイヤルすることによってのみトリガーで きます。 デフォルト設定: *99
FAX 回線の切り替えコード。	回線を Fax 機に切り替えます。 デフォルト設定: #99
メディアループバックコー ド。	メディアループバックに使用します。 デフォルト設定: *03

フィールド	説明
参照サービス コード(Referral Services Codes)	これらのコードは、アクティブコールを保留にしていて、2 つ目のダイヤルトーンをリスニングしているときに実行する 動作を ATA に指示します。このパラメータには、*98 や *97 *98 *123 などのように1つ以上の*コードを設定できま す。最大長は79文字です。このパラメータは、[フックフラッ シュ]ボタンを押すことによってアクティブコールを保留した 場合に適用されます。各*コード(および現在のダイヤルプ ランに従って有効な後に続くターゲット番号)によって、ATA はサービス*コードの後ろに続くターゲット番号へのブライ ンド転送を実行するようトリガーされます。
	たとえば、*98をダイヤルすると、ATAは、ユーザがターゲッ ト番号(通常のダイヤリングとしてダイヤル プランに従って チェックされた)を入力するまで待機している間に、プロン プトトーンを再生します。完全な番号を入力すると、ATA は、Refer-To Target が *98 target_number と同等な状態で、保 留している通話者にブラインドREFERを送信します。この機 能により、ATA はアプリケーションサーバにコールを渡せる ため、コールパークなどの処理をさらに実行できます。
	* コードは、ATA により内部で処理された他の特定業種向け サービスのいずれとも競合できません。ATA で処理しない対 応する *コードは空にできます。 デフォルト設定:空白

フィールド	説明
機能ダイヤルサービスコード (Feature Dial Services Codes)	これらのコードは、1 つ目または 2 つ目のダイヤル トーンを リスニングしているときに実行する動作を ATA に指示しま す。
	このパラメータには、*72や*72 *74 *67 *82などのように、1 つ以上の*コードを設定できます。最大長は79文字です。こ のパラメータは、ダイヤルトーン(1つ目または2つ目のダ イヤルトーン)がある場合に適用されます。
	ダイヤルトーンを受信した後、現在のダイヤルプランに従っ て*コードとターゲット番号を入力します。たとえば、*72を ダイヤルした後、ATA はプロンプトトーンと呼ばれる特殊 トーンを再生し、ユーザが有効なターゲット番号を入力する まで待機します。完全な番号を入力すると、ATA は、通常の コールとして INVITE を *72 target_number に送信します。こ の機能により、プロキシはコール転送(*72) や発信者 ID の ブロック(*67) などの機能を処理できます。
	* コードは、ATA により内部で処理された他の特定業種向け サービスのいずれとも競合できません。ATA で処理しない対 応する *コードを削除できます。
	パラメータを追加して、*コード(*72'c' *67'p'など)が入力 された後に再生するトーンを示すことができます。以下に、 許可されるトーンパラメータのリストを示します。(パラ メータはスペースなしで、オープンクォートで囲みます)。
	・c: Cfwd ダイヤル トーン
	• $\mathbf{d} = \mathcal{G} / \mathcal{T} / \mathcal{V} $ • $\mathbf{m} \cdot \mathbf{MWI} \mathcal{G} / \mathcal{T} / \mathcal{V} $ トーン
	• o:外部ダイヤルトーン
	・p:プロンプトダイヤルトーン
	• $s = 2$ 番目のタイヤル トーン • $x = h - \lambda x$ し、x は上記で使用されていない任意の数字
	トーンパラメータを指定しない場合、デフォルトでは ATA はプロンプト トーンを再生します。
	コール転送をキャンセルするには、*73など、*コードの後に 電話番号が続かない場合は、このパラメータにこれを含めな いでください。代わりに、ダイヤルプランに*コードを追加 し、ATA send INVITE * 73 @* 73 として通常どおりにダイ ヤルします。
	デフォルト設定:空白

特定業種向けサービス アナウンス コード

表 44:特定業種向けサービス アナウンス コード

フィールド	説明
[サービスアナウンス基本番号 (Service Annc Base Number)]	サービスアナウンスの基本番号。 デフォルト設定:空白
[サービスアナウンス内線コー ド(Service Annc Extension Codes)]	サービスアナウンスの内線番号。 デフォルト設定:空白

発信コール コーデック選択コード

表 **45**:発信コール コーデック選択コード

フィールド	説明
G711u コードを優先する (Prefer G711u Code)	コールの優先コーデックをG.711uにするには、ダイヤルプレ フィックスを使用してください。
	デフォルト設定: *017110
G711u コードを強制する (Force G711u Code)	コールのに使用する唯一のコーデックであるG.711uを作成するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。
	デフォルト設定: *027110
G711a コードを優先する (Prefer G711a Code)	コールの優先コーデックをG.711aにするには、ダイヤルプレ フィックスを使用してください。
	デフォルト設定: *017111
G711a コードを強制する (Force G711a Code)	コールのに使用する唯一のコーデックであるG.711aを作成するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。
	デフォルト設定: *027111
G722 コードを優先する(Prefer G722 Code)	コールの優先コーデックを G.726r32 にするには、ダイヤルプ レフィックスを使用してください。
	デフォルト設定: *0172632
G722 コードを強制する(Force G722 Code)	コールのに使用する唯一のコーデックである G.726r32 を作成 するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。
	デフォルト設定: *0272632

フィールド	説明
G729a コードを優先する (Prefer G729a Code)	コールの優先コーデックをG.729aにするには、ダイヤルプレ フィックスを使用してください。 デフォルト設定: *01729
G711a コードを強制する (Force G711a Code)	コールのに使用する唯一のコーデックであるG.729aを作成するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。
	デフォルト設定: *02729

その他

表 **46** : その他の設定

フィールド	説明
FXS ポートインピー ダンス	 電話ポートの電気的なインピーダンスを設定します。 選択肢は次のとおりです。 600 900 600+2.16uF 900+2.16uF 220+850 120nF 220+850 120nF 220+820 115nF 200+600 100nF デフォルト設定: 600
FXS ポートの入力ゲ イン:	DB での入力ゲイン (小数点以下 3 桁まで)。範囲は 6.000 ~ 12.000 で す。 デフォルト設定:-3
FXS ポート出力ゲイ ン:	DB での出力ゲイン (小数点以下 3 桁まで)。範囲は 6.000~12.000 で す。コールプログレストーンと DTMF 再生レベルは、FXS ポートの出 カゲインパラメータの影響を受けません。 デフォルト設定:-3
DTMF 再生レベル:	ローカルの DTMF 再生レベル (dBm) (小数点以下 1 桁まで)。 デフォルト設定:-16.0

フィールド	説明
DTMF ひねり:	2つのトーン周波数の差を得ることができます。
	デフォルト設定:2
DTMF 再生の長さ:	ローカルの DTMF 再生の継続時間をミリ秒単位で入力します。
	デフォルト設定:1
ABCD の検出:	DTMFABCDのローカル検出を有効にするには、[はい]を選択します。 それ以外の場合は、いいえを選択します。デフォルト設定: あり
	DTMFTxメソッドが情報の場合、この設定は効果がありません。ABCD は、この設定に関係なく常に OOB に送信されます。
再生の ABCD:	OOB DTMF ABCD のローカル再生を有効にするには、[はい]を選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。デフォルト設定:あり

I

フィールド	説明
発信者 ID 方式:	選択肢は、次のとおりです。
	 ベルコア (北米、中国): CID、CIDCW、および VMWI。最初の呼 出音より後に送信される FSK (最初の呼出音の後に送信された ETSI FSK と同じ) (極性反転または DTAS なし)。
	• DTMF (フィンランド、スウェーデン): CID のみ極性反転 (DTAS なし) の後、最初の呼出音の前に送信された DTMF。
	 DTMF (デンマーク): CID のみ極性反転と DTAS のない最初の呼出 音の前に DTMF が送信されます。
	 ETSI DTMF: CID のみDTAS の後、最初の呼出音の前に送信された DTMF。
	• PR との ETSI DTMF: CID のみ極性反転 (および DTAS) の後、最初 の呼出音の前に送信された DTMF。
	 ・呼出音の後のETSIDTMF: CIDのみ最初の呼出音(極性反転または DTASなし)の後に送られたDTMF。
	 ETSI FSK: CID、CIDCW、VMWI。DTAS (極反転なし)の後、最初の呼出音の前に送信された FSK。CIDCW の DTAS の後、デバイスからの ACK 待機。
	 PR との ETSI FSK (英国): CID、CIDCW、および VMWI。FSK は、 極性反転(および DTAS)の後、最初の呼出音の前に送信されます。 CIDCW の DTAS の後、デバイスからの ACK 待機。極性反転は、 装置がオンフックの場合にのみ適用されます。
	 PR との DTMF (デンマーク): CID のみ極性反転 (DTAS なし) の後、 最初の呼出音の前に送信された DTMF。
	デフォルト設定: ベルコア (米国、中国)
FXS ポートの電力制 限:	選択できるのは1~8です。デフォルト設定:3
発信者 ID FSK 標準規 格:	ATA は、発信者 ID 生成の bell 202 および v. 23 規格をサポートしてい ます。デフォルト設定: bell 202
機能呼び出しメソッ ド:	使用する方法、デフォルト、またはスウェーデンのデフォルトを選択 します。デフォルト設定:デフォルト

回線1と回線2(電話1と電話2)の設定

電話1および電話2のポートを介したコールの設定を設定するには、音声>回線1ページおよび音声>回線2ページから行います。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、 キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

(注) 設定プロファイルでは、FXSパラメータに、設定を受信するポートを識別するための適切な数 字が含まれている必要があります。

全般

表 47:全般設定

フィールド	説明
[回線の有効化(Line Enable)]	サービスに対してこの回線を有効にするには、はいを選択し ます。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定:あり

ストリーミング オーディオ サーバ (SAS)

表 48: ストリーミング オーディオ サーバ設定

フィールド	説明
SAS 有効化	ストリーミング音源として回線の使用を有効にするには、[はい]を選択します。または、[いいえ]を選択します。有効にすると、その回線は発信コールに使用できなくなります。代わりに、着信コールに自動応答し、音声 RTP パケットを発信者に転送します。
	テフォルト設定:なし
SAS DLG 更新インターバル	0 以外の値は、ストリーミング音声サーバがセッションの更 新 (SIP re INVITE) メッセージを送信し、接続がアクティブで あるかどうかを確認する間隔です。発信者が更新メッセージ に応答しない場合、ATA はこのコールを SIP BYE メッセージ を使用して終了します。範囲は0~255秒です(0は、セッショ ンの更新が無効であることを示します)。
	デフォルト設定:30

フィールド	説明
SAS 着信 RTP シンク	このパラメータは、SAS 回線が送信専用デバイスとして宣言 され、オーディオをストリームアウトしないようにクライア ントに通知する場合に、着信 RTP を再生しないデバイスに対 して機能します。このパラメータは、クライアントからのイ ンバウンド INVITE に対する 200 の応答の SDP 内の SAS 回線 で使用される RTP シンクの FQDN または IP アドレスです。 このファイルは、「c=」回線に表示され、ポート番号は SDP の m=回線に表示されます。
	この値が指定されていない場合、または0の場合は、c: 0.0.0.0、a = sendonly が SDP 内で使用され、この SAS 回線に RTP を送信しないよう SAS クライアントに指示します。0以 外の値が指定されている場合、a=sendrecv および SAS クライ アントは、指定されたアドレスに音声をストリームします。
	特殊なケース: 値が \$IP の場合、SAS 回線の独自の IP アドレスが $c = 回線と a = sendrecv$ に使用されます。この場合、SAS クライアントは RTP パケットを SAS 回線にストリーム転送します。
	デフォルト設定:空白

NAT 設定

表 49:NAT 設定

フィールド	説明
[NATマッピング有効(NAT Mapping Enable)]	SIPメッセージで外部でマッピングされた IP アドレスと SIP/RTP ポートを使用するには、はいを選択します。それ以 外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定:なし
[NATキープアライブ有効 (NAT Keep Alive Enable)]	設定された NAT キープアライブ メッセージを定期的に送信 するには、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを 選択します。 デフォルト設定:なし

フィールド	説明
[NATキープアライブメッセー ジ(NAT Keep Alive Msg)]	現在のNATマッピングを維持するために定期的に送信された キープアライブメッセージを入力します。値が \$NOTIFY の 場合、NOTIFYメッセージが送信されます。値が \$REGISTER の場合、連絡先のない REGISTER メッセージが送信されま す。 デフォルト設定: \$NOTIFY
[NATキープアライブ宛先 (NAT Keep Alive Dest)]	NAT キープアライブ メッセージを受信する宛先。値が \$PROXY の場合、メッセージが現在のプロキシサーバ、また はアウトバウンド プロキシサーバに送信されます。 デフォルト設定: \$PROXY

ネットワーク設定

表 50:ネットワーク設定

フィールド	説明
SIP ToS/DiffServ 值	SIP メッセージを伝送する UDP IP パケット内の [TOS/DiffServ]フィールド値。
	デフォルト設定: 0x68
SIP Co 値 [0-7]	SIP メッセージの CoS 値。有効値は 0 ~ 7 です。
	デフォルト設定:3
[RTP ToS/DiffServ值(RTP ToS/DiffServ Value)]	RTP データを伝送する UDP IP パケット内の [ToS/DiffServ] フィールド値。
	デフォルト設定: 0xb8
RTP Co 値 [0-7]	RTP データの CoS 値。有効値は 0 ~ 7 です。
	デフォルト設定:6

フィールド	説明
ネットワーク ジッター レベル	ATA でのジッターバッファサイズの調整方法を決定します。 ジッターバッファサイズは、動的に調整されます。最小ジッ ターバッファサイズは、すべてのジッターレベル設定につい て 30 ミリ秒 (10 ミリ秒+現在の RTP フレームサイズ)です。 ただし、より高いジッターレベルの場合は、開始ジッターバッ ファサイズの値が大きくなります。この設定では、最小値に 達するまでのジッターバッファサイズの調整速度を制御しま す。適切な設定(低、中、高、超高、または極高)を選択しま す。
ジッターバッファ調整	この機能を有効にするにははいを選択し、無効にするにはいいえを選択します。 デフォルト設定:あり

SIP 設定

表 51 : SIP 設定

フィールド	説明
[SIPトランスポート(SIP Transport)]	TCPの選択肢では「配信の保証」が実現されているため、失われたパケットが再送されます。また、TCPはSIPパッケージが送信された順序で受信されることも保証します。このため、TCPはUDPの主な短所を克服しています。また、セキュリティ上の理由で、ほとんどの社内ファイアウォールはUDPポートをブロックします。TCPを使用すると、インターネット閲覧やe-コマースなどのため新しいポートを開いたり、パケットをドロップしたりする必要がありません。
[SIP ポート(SIP Port)]	SIPメッセージのリスニングおよび送信ポートのポート番号。 デフォルト設定: 5060 電話1と 5061の 電話2
[SIP 100REL有効(SIP 100REL Enable)]	暫定応答(18x)の信頼できる伝送と PRACK 要求の使用のための 100REL SIP 拡張のサポートを有効にするには、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定:なし
[外部SIPポート(EXT SIP Port)]	外部 SIP ポート番号。 デフォルト設定:空白

フィールド	説明
[再同期-再起動の認証(Auth Resync-Reboot)]	この機能を有効にすると、ATA は、NOTIFY 再同期リブート (RFC 2617)メッセージを受信したときに送信者を認証します。 この機能を使用する場合ははいを選択します。それ以外の場 合は、いいえを選択します。
	<i>リンオル</i> ト設た: めり
[SIPプロキシが必要(SIP Proxy-Require)]	SIP プロキシは、ユーザエージェントからこのヘッダーを渡 されたときに、特定の内線や動作をサポートできます。この フィールドが設定され、プロキシがそれをサポートしない場 合、非サポートメッセージで応答します。表示されたフィー ルドに適切なヘッダーを入力します。
	<i>/ / / / /</i> 「設定・三口
[SIP Remote-Party-ID]	From ヘッダーの代わりに使用する Remote-Party-ID ヘッダー を使用するには、はいを選択します。それ以外の場合は、い いえを選択します。
	デフォルト設定: あり
SIP GUID (グローバス一意識別 子)	この機能により、SIP アカウントの登録が制限されます。グ ローバルに固有の ID は、各 ATA の各回線に対して生成され ます。この設定が有効になっている場合、ATA は SIP リクエ ストの GUID ヘッダーを追加します。GUID は、ユニットが 初めて起動し、ユニットが再起動してから再び初期設定にリ セットされたときに生成されます。 デフォルト設定: なし
RTP ログインターバル (RTP	RTP ログの間隔。
Log Intvl)	デフォルト設定:0
発信元 IP を制限します。	設定されている場合、ATAは、信頼されていないIPアドレス からSIPポートに送信されるすべてのパケットを破棄します。 設定されているプロキシから解決されたIPアドレスと一致し ない場合、発信元IPアドレスは信頼されません(または、使 用している発信プロキシが[はい]の場合は発信プロキシ)。 デフォルト設定:なし
Referor BYE 遅延(Referor Bye Delay)	コール転送の後に古いコール区間を終了するように、通話転 送の後に BYE を送信するまで待機する秒数。 デフォルト設定: 4

I

フィールド	説明
ターゲット参照 BYE 遅延 (Refer Target Bye Delay)	コール転送の後に古いコール区間を終了するように、通話転送の後、参照ターゲットにBYEを送信するまで待機する秒数。
	デフォルト設定:0
Referee BYE 遅延(Referee Bye Delay)	コール転送の後に古いコール区間を終了するように、通話転 送の後、参照者に BYE を送信するまで待機する秒数。
	デフォルト設定:0
参照先ターゲットの連絡先 (Refer-To Target Contact)	参照先のターゲットに問い合わせるには、はいを選択しま す。それ以外の場合は、いいえを選択します。
	デフォルト設定:なし
スティッキ 183(Sticky 183)	この機能が有効な場合、ATA は、アウトバウンド INVITE の 最初の 183 SIP 応答を受信した後、後続の 180 SIP 応答を無視 します。この機能を有効にする場合ははいを選択します。そ れ以外の場合は、いいえを選択します。
	デフォルト設定:なし
INVITE 許可(Auth INVITE)	有効にする場合、SIP プロキシからの初期の着信 INVITE 要求 に認証が必要になります。
	デフォルト設定: なし
コール待機中の応答 182。	有効にされている場合、ATA はすでにコール中で回線がオフ フックになっている場合、発信者に SIP182 応答を返します。 この機能を使用する場合ははいを選択します。
	デフォルト設定: なし
RPID と匿名の使用(Use Anonymous With RPID)	リモートパーティー ID が SIP メッセージで要求されたときに ATA が「匿名」を使用するかどうかを決定します。
	デフォルト設定: あり
発信者からローカルアドレス を使用します。	SIP からの SIP メッセージのローカル ATA IP アドレスを使用 します。
	デフォルト設定:なし
Broadsoft ALTC _o	SIP が Broadsoft ALTC であるかどうかを設定します。
	オプション: [はい] または [いいえ]
	デフォルト設定:なし

コール機能の設定

表 52:通話機能パラメータ

フィールド	説明
[ブラインド在席転送有効 (Blind Attn-Xfer Enable)]	アクティブのコールレッグを終了して他のコールレッグのブ ラインド転送を実行することにより、ATA で在席転送操作を 実行できるようにします。この機能を無効にした場合、ATA は、アクティブのコールレッグと他のコールレッグの両方を 維持した状態で、他のコールレッグを現在のコールレッグに 参照させることにより、在席転送操作を実行します。この機 能を使用する場合ははいを選択します。それ以外の場合は、 いいえを選択します。 デフォルト設定:なし
MOH サーバ(MOH Server)	自動応答ストリーミング オーディオ サーバのユーザ ID また は URL。ユーザ ID のみが指定されている場合、現在のプロ キシまたはアウトバウンド プロキシに接続されます。MOH サーバが指定されていない場合、保留音が無効になります。 デフォルト設定:空白
切断時転送の構成	会議コールが終了したときに、ATA が転送を実行します。ド ロップダウンメニューからはいまたはいいえを選択します。 デフォルト設定:あり
[会議ブリッジのURL (Conference Bridge URL)]	この機能は、オーディオをローカルにミキシングするのでは なく、n方向の会議通話用の外部会議ブリッジ(n>2)をサポー トします。この機能を使用するには、このパラメータをサー バ名のパラメータに設定します。例: conf@mysefver.com: 12345 または conf (プロキシ値をドメインとして使用します)。 デフォルト設定:空白
会議ブリッジ ポート	会議コール参加者の最大数を選択します。範囲は3~10で す。 デフォルト設定:3

フィールド	説明
IP ダイヤルの有効化 (Enable URI Dialing)	IP ダイヤルを有効または無効にします。IP ダイヤルが有効に なっている場合、[userid@]をダイヤルします。b.[:p ソート]、' @'、'.'、および':'は「*」を入力することによってダイヤル され、a, b, c, d は 0 から 255; の範囲でなければなりません。 ポートは 255 以上でなければなりません。Port が指定されて いない場合は、5060 が使用されます。ポートとユーザ ID は オプションです。ユーザ ID 部分がダイヤルプランのパターン に一致する場合、その部分はダイヤルプランに従って通常の 電話番号として解釈されます。ただし、INVITE メッセージ は、有効になっている場合でも、発信プロキシに送信されま す。 デフォルト設定: なし
[緊急番号(Emergency Number)]	コンマで区切られた緊急番号パターンの一覧。アウトバウン ドのコールがいずれかのパターンに一致する場合、ATA は フックフラッシュイベント処理を無効にします。この条件は、 通話が終了した後、通常の状態に復元されます。何も表示さ れない場合は、緊急番号が存在しないことを意味します。最 大 63 文字を入力できます。 デフォルト設定:空白
[メールボックスID]	この回線のメールボックスの ID 番号を入力します。 デフォルト設定 : 空白
[機能キーの同期(Feature Key Sync)]	電話機がコールサーバと同期できるようにします。電話機で [応答不可] または [着信転送設定] が変更された場合は、サー バにも変更が加えられます。サーバで変更が行われた場合は、 電話機に反映されます。 デフォルト設定: なし

プロキシおよび登録

表 53: プロキシおよび登録パラメータ

フィールド	説明
[プロキシ (Proxy)]	すべてのアウトバウンドリクエストに対してSIPプロキシサー バを使用します。
	デフォルト設定:空白

フィールド	説明
[発信プロキシ(Outbound Proxy)]	すべてのアウトバウンドリクエストが最初のホップとして送 信される SIP アウトバウンド プロキシサーバ。
	デフォルト設定:空白
[アウトバウンドプロキシを使 用(Use Outbound Proxy)]	アウトバウンドプロキシの使用を有効にします。[いいえ]に設 定すると、[アウトバウンドプロキシ] と [ダイアログでOBプ ロキシを使用] パラメータは無視されます。
	デフォルト設定:なし
[ダイアログでOBプロキシを使 用(Use OB Proxy in Dialog)]	ダイアログ内でアウトバウンド プロキシへの SIP リクエスト の強制送信の可否。[発信プロキシを使用する] パラメータが [いいえ] またはアウトバウンドプロキシパラメータが空の場 合は無視されます。
	デフォルト設定: あり
登録	プロキシへの定期登録を有効にします。このパラメータは、 プロキシが指定されていない場合は無視されます。
	デフォルト設定: あり
[登録なしで発信(Make Call Without Reg)]	ユニットによる登録が成功(ダイナミック)しなくても発信 コールを可能にします。[いいえ]の場合、登録が成功しない 限り、ダイヤルトーンは再生されません。
	デフォルト設定: なし
[登録期限切れ(Register Expires)]	REGISTER リクエストの有効期限(秒)です。ATA は、現在の 登録が期限切れになる直前に登録を定期的に更新します。レ ジスタパラメータが[いいえ]の場合、このパラメータは無視 されます。範囲:0~(231-1)秒。
	デフォルト設定: 3600
[登録なしでコールに応答(Ans Call Without Reg)]	ユニットによる登録が成功(ダイナミック)しなくても受信 コール応答を可能にします。
	デフォルト設定: なし
[DNS SRVを使用(Use DNS SRV)]	プロキシとアウトバウンド プロキシの DNS SRV ルックアッ プの可否。
	デフォルト設定:なし
[DNS SRV自動プレフィックス (DNS SRV Auto Prefix)]	有効になっている場合、ATA はプロキシまたはアウトバウン ドプロキシ名について DNS SRV ルックアップを実行すると きにその名前の前に_sipudp が自動的に付加します。 デフォルト設定: なし

フィールド	説明
[プロキシフォールバック間隔 (Proxy Fallback Intvl)]	低い優先順位のサーバにフェールオーバーすると、ATA は指 定されたプロキシフォールバック間隔 (秒単位)を待って、最 も優先順位の高いプロキシ (またはアウトバウンドプロキシ) サーバを再試行します。このパラメータは、サーバ名の DNS SRV レコード検索経由でプライマリおよびバックアッププロ キシサーバのリストが ATA に提供されている場合にのみ有効 です。
	複数のDNSAレコードを使用してサーバ名を指定すると優先 順位の概念が許可されないため、すべてのホストが同じ優先 順位であると見なされ、ATAはフェイルオーバー後にフォー ルバックを実行しません。
	デフォルト設定: 3600
[プロキシ冗長性メソッド (Proxy Redundancy Method)]	ATA が DNS SRV レコードで返すプロキシのリストを作成す るために使用する方式。標準を選択した場合、リストにはウェ イトと優先順位でランク付けされたプロキシが含まれます。 SRVポートに基づくを選択した場合、ATA は標準メソッドを 使用した後、最初にリストされているプロキシポートに基づ いてポート番号を確認します。 デフォルト設定:標準
メールボックスサブスクライ ブ URL	ボイスメールサーバのURLまたはIPアドレスを指定します。 デフォルト設定:空白
メールボックスサブスクライ ブの有効期限	ボイスメールメッセージの待機のサブスクリプション間隔を 設定します。この期間が経過すると、ATA はボイスメール サーバに別のサブスクライブメッセージを送信します。 デフォルト: 2147483647

サブスクライバ情報

表 54: サブスクライバ情報パラメータ

フィールド	説明
表示名	発信者 ID の表示名。
	デフォルト設定:空白
[ユーザID (User ID)]	この回線のユーザ ID。
	デフォルト設定:空白

フィールド	説明
パスワード	この回線のパスワード。
	デフォルト設定:空白
[認証 ID (Auth ID)] を使用す る	SIP 認証に認証 ID とパスワードを使用する場合は、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択してユーザ ID とパスワードを使用します。 デフォルト設定:なし
[認証ID(Auth ID)]	SIP 認証の認証 ID。
	デフォルト設定:空白
[居住地オンライン番号 (Resident Online Number)]	この設定では、Skypeから有効な Skype オンライン番号を使用して、「ローカル」の電話番号をこの回線に関連付けることができます。その番号にコールすると電話が鳴ります。番号はスペースまたは特殊文字を含めずに入力します。
	デフォルト設定:空白
SIP URI	ユーザエージェントがこの回線に対して自身を識別するパラ メータ。このフィールドが空白の場合、SIPシグナリングで使 用される実際の URI が自動的に次のように作成されます。 sip:UserName@Domain
	UserNameは[ユーザID (UserID)]でこの回線に指定したユー ザ名で、Domainは[ユーザエージェントドメイン (UserAgent Domain)]でこのプロファイルに指定したドメインです。
	[ユーザエージェント ドメイン(User Agent Domain)] が空の 文字列である場合、電話機の IP アドレスをドメインに使用す る必要があります。
	[URI] フィールドが空でない場合でも、SIP または SIPS URL に @ 文字が含まれていない場合、SIP シグナリングで使用さ れる実際の URI は、このパラメータに @ 文字とその後ろにデ バイスの IP アドレスを付加して、自動的に作成されます。

補足サービス サブスクリプション

ATA は、拡張サービスまたは補助サービスの大部分をネイティブサポートします。これらの サービスはすべてオプションです。次の表にリストされているパラメータは、特定の補足サー ビスを有効または無効にするために使用されます。a) ユーザが購読していない場合は、補足 サービスを無効にする必要があります。またはb)、サービスプロバイダーは、ATA に頼る以 外の手段を使用して同様のサービスをサポートすることを意図しています。

表 55: 補足サービス サブスクリプション設定

フィールド	説明
コール待機サービス	コール待機サービスを有効にします。
	デフォルト設定:あり
[ブロックCIDサービス (Block	発信者 ID をブロックするサービスを有効にします。
CID Serv)]	デフォルト設定: あり
[ブロックANCサービス (Block	匿名コールブロックサービスの有効化
ANC Serv)]	デフォルト設定:あり
独自の呼び出しサービス	独自の呼び出しサービスの有効化
	デフォルト設定:あり
[不在転送サービス(Cfwd All	不在転送すべてのサービスを有効にする
Serv)]	デフォルト設定: あり
[話中転送サービス(Cfwd Busy	話中転送サービスを有効にする
Serv)]	デフォルト設定:あり
[無応答時転送サービス(Cfwd	不在転送サービスを有効にする
No Ans Serv)]	デフォルト設定: あり
通話転送サービス	通話転送の選択的選択サービスを有効にします。[通話転送の 設定] セクションで、このサービスを設定します。
	デフォルト設定: あり
(Cfwd Last Serv)	最後のコール サービスを転送可能にする
	デフォルト設定: あり
最後のサービスをブロックす	最後のコールサービスをブロックする
3	デフォルト設定: あり
最後のサービスを受け入れる	最後のコールサービスを有効にする
	デフォルト設定: あり
[DNDサービス (DND Serv)]	応答不可サービスを有効にする
	デフォルト設定:あり
CID – Serv	発信者 ID サービスを有効にする
	デフォルト設定:あり

フィールド	説明
CWCID サービス	コール待機サービスの発信者 ID サービスを有効にします。
	デフォルト設定: あり
コールリターン サービス	コールリターンサービスを有効にする
	デフォルト設定: あり
コールリダイヤル サービス	通話のリダイヤルサービスを有効にします。
	デフォルト設定: あり
[コールバックサービス (Call	コールバックサービスを有効にします。
Back Serv)]	デフォルト設定: あり
3者コールサービス	3者コールサービスを有効にします。3者間電話会議と在籍転送には3者コールを使用する必要があります。
	デフォルト設定: あり
3者間電話会議サービス	3者間電話会議サービスを有効または無効にします。在籍転送は3者間電話会議を行う必要があります。
	デフォルト設定: あり
[在籍転送サービス(Attn Transfer Serv)]	在籍コール転送サービスを有効にする在籍転送は3者間電話 会議を行う必要があります。
	デフォルト設定: あり
非在籍コール転送サービス	非在籍(ブラインド)通話転送サービスを有効にする
(Attn Transfer Serv)	デフォルト設定: あり
MWI サービス	MWI サービスを有効にします。MWI は、音声メールサービ スが展開に設定されている場合にのみ使用できます。
	デフォルト設定: あり
VMWI サービス	VMWI サービス (FSK) を有効にする
	デフォルト設定: あり
短縮ダイヤルサービス (Speed	短縮ダイヤルサービスを有効にします。
Dial Serv)	デフォルト設定: あり

フィールド	説明
[セキュアコールサービス (Secure Call Serv)]	コールサービスの安全を確保します。この機能が有効になっ ている場合、ユーザはアクティベーションコード(デフォルト で*18)を入力する前に、ターゲット番号にダイヤルすること によって、セキュリティで保護された発信を行うことができ ます。次に、両方向の音声トラフィックは、通話中は暗号化 されます。
	デフォルト設定:あり スターマークは特定業種向けサービスアクティベーション コードに設定されます。デフォルトで、スターマークなしで セキュアコールを有効にするには、ユーザのセキュアコール の設定を[はい]に設定します。ユーザー1およびユーザー2 (91ページ)を参照してください。
照会先利用サービス (Referral Serv)	照会サービスを有効にします。詳細については、特定業種向 けサービス アクティベーション コード (61ページ)の照会 サービスコードのパラメータを参照してください。 デフォルト設定: あり
機能ダイヤルサービス (Feature Dial Serv)	機能ダイヤルサービスを有効にします。詳細については、特定業種向けサービスアクティベーションコード(61ページ)の機能ダイヤルサービスコードのパラメータを参照してください。 デフォルト設定:あり
サービス部門に関する発表 サービス (Service Announcement Serv)	サービス部門に関する発表サービスを有効にします。 デフォルト設定:なし
CID 番号を名前として再利用 する	発信者名として、発信者 ID 番号を使用します。 デフォルト設定: あり
CONFCIDサービス (CONFCID Serv)	電話会議中に発信者 ID を有効にします。 デフォルト設定: あり

音声設定

表 56:音声設定の設定

フィールド	説明
[優先するコーデック (Preferred Codec)]	すべてのコールで優先されるコーデックです。(コールで実際に使用されるコーデックは、コーデックのネゴシエーショ ンプロトコルの結果によっても異なります)。次のいずれか を選択します。
	• G711u
	• G711a
	• G726-32
	• G729a
	デフォルト設定: G711u.
[2番目の優先コーデック (Second Preferred Codec)]	最初のコーデックに障害が発生すると、2番目の優先コーデッ クが試行されます。
	デフォルト設定:空白
[3番目の優先コーデック (Third Preferred Codec)]	2番目のコーデックが失敗すると、3番目の優先度のコーデッ クが試行されます。
	デフォルト設定:空白
[優先コーデックのみを使用 (Use Pref Codec Only)]	すべてのコールに対して優先コーデックのみを使用する場合 は、[はい(Yes)]を選択します(遠端がこのコーデックをサ ポートしていない場合は、コールが失敗します)。それ以外 の場合は、いいえを選択します。
	アフォルト設定:なし
[コーデックのネゴシエーション(Codec Negotiation)]	デフォルト に設定されている場合、Cisco IP 電話は 200 OK 応 答で Invite に応答し、優先コーデックのみをアドバタイズし ます。 すべてリスト に設定されている場合、Cisco IP 電話は応 答して、電話機がサポートしているすべてのコーデックをリ ストします。 デフォルト設定:デフォルト
[G729a有効(G729a Enable)]	8 kbps での G.729a コーデックの使用を有効にするには、はい を選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定: あり

フィールド	説明
[サイレンスサプレッション有 効(Silence Supp Enable)]	サイレンス サプレッションを有効にして、サイレント オー ディオ フレームが送信されないようにするには、はいを選択 します。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定: なし
G726-32 有効化	32 kbps での G.726 コーデックの使用を有効にするには、はい を選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定: あり
サイレントのしきい値	しきい値に適切な設定を選択: 高、中、または低 デフォルト設定:中
FAX V21 の検出の有効化	V21 fax トーンの検出を有効にするには、はいを選択します。 それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定: あり
エコーキャンセラの有効化	エコーキャンセラの使用を有効にするには、はいを選択しま す。それ以外の場合は、[いいえ] を選択します。 デフォルト設定: あり
ファクス CNG 検出有効	Fax 呼び出しトーン (CNG)の検出を有効にするには、はいを 選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定:あり
FAX パススルーコーデック	Fax パススルーのコーデックを選択します。g711u または G711a。 デフォルト設定: G711u
FAX コーデック対称	Fax パススルー中に ATA が対称コーデックを使用するように するには、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを 選択します。 デフォルト設定: あり
DTMF プロセス情報	DTMFプロセス情報機能を使用するには、はいを選択します。 それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定:あり
FAX パススルーメソッド	Fax パススルー方式選択します。 なし、NSE 、または ReINVITE デフォルト設定: NSE

フィールド	説明
[DTMFプロセスAVT(DTMF Process AVT)]	DTMF プロセスの AVT 機能を使用するには、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。
	デフォルト設定: あり
FAX プロセス NSE	Fax プロセスのNSE機能を使用するには、はいを選択します。 それ以外の場合は、いいえを選択します。
	デフォルト設定: あり
[DTMFTxメソッド(DTMFTx Method)]	DTMF 信号を遠端に送信するメソッドを選択します。 InBand 、 AVT、INFO、Auto InBand: 音声パスを使用して DTMF を送 信します。AVT は、DTMF を AVT イベントとして送信しま す。INFO: SIP INFO メソッドを使用します。Auto: コーデッ クネゴシエーションの結果に基づいて InBand または AVT を 使用します。 デフォルト設定: 自動
FAX Disable ECAN	有効にすると、Fax トーンが検出されたときにエコーギャン セラは自動的に無効になります。この機能を使用する場合は はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。
	デフォルト設定:なし
DTMF Tx モード	SIP 情報および AVT で DTMF 検出 Tx モードを使用できます。
	オプションには、 厳密 または 標準 があります。
	デフォルト設定: 次の条件を満たす厳密なもの
	・・DTMF 数字は、検出後に余分な保留時間が必要になります。
	・・DTMF レベルのしきい値は、-20 dBm に上げられます。
	最小および最大期間のしきい値は次のとおりです。
	• AVT および SIP の厳密モード: DTMF Tx Strict Hold Off Time で設定された値
	• AVT の標準モード: 40 ms
	• SIP の標準モード: 50 ms

I

フィールド	説明
DTMF Tx 厳密ホールドオフタ イム	このパラメータは、DTMF Tx モードが[厳密]に設定されてい て、DTMF Tx メソッドが [Inband] に設定されていない場合に のみ有効です。つまり、AVT または INFO のいずれかです。 この値は、40 ミリ秒まで低く設定できます。最大数の制限は ありません。値を大きくすると、会話中にトークオフ(ビープ 音)が発生する可能性が低くなり、対話型の音声応答システム (IVR) に必要な DTMF 検出のパフォーマンスが低下します。 デフォルト設定: 70 ms
FAX 有効化 T38	FAX リレーのための ITU-T 標準の使用を有効にするには、は いを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定:なし
Flash Tx メソッドのフック	シグナリング フック フラッシュ イベントのメソッドを選択 します。 なし、AVT、 または INFO [なし]は、フック フラッ シュ イベントをシグナリングしません。AVT は、RFC2833 AVT (event = 16) 情報を使用して、メッセージ本文で単一回線 シグナル = hf で SIP 情報を使用します。このメッセージ本文 の MIME タイプは、フックフラッシュ MIME タイプ設定から 取得されます。 デフォルト設定: なし
FAX の T38 冗長性	各パケットで繰り返す前のパケットのペイロードの数を指定 するために、適切な番号を選択します。ペイロードを冗長化 しない場合は0を選択します。番号が大きいほど、パケット サイズは大きくなり、使用される帯域幅も広くなります。 デフォルト設定:1
ファクス T38 ECM 有効化	エラー修正モードを有効にするには、はいを選択します。そ れ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定:あり
FAX トーン検出モード	このパラメータには、次の3つの値があります。
	 ・発信者または呼び出し先: ATA は、呼び出し先か発信者 かにかかわらず、FAX トーンを検出します ・発信者のみ: ATA は発信者である場合にのみ、FAX トー
	ンを検出します。 ・ 呼び出し先のみ : ATA は、呼び出し先である場合にのみ、 FAX トーンを検出します。
	デフォルト設定:発信者または呼び出し先

フィールド	説明
対称 RTP	対称 RTP 操作を有効にします。有効にした場合、ATA は、最 後に受信した有効な着信 RTP パケットの送信元アドレスと ポートに RTP パケットを送信します。無効にした場合 (また は最初の RTP パケットが到着する前)、ATA は、着信 SDP に 示されているとおりに RTP を通知先に送信します。 デフォルト設定: なし
Fax T38 音声に戻る	この機能が有効になっている場合、Fax イメージの転送が完 了すると、接続は確立されたままになり、以前に指定された コーデックを使用して音声コールに戻ります。この機能を有 効にする場合ははいを選択し、無効にする場合はいいえを選 択します。 デフォルト設定:なし
Modem Line	別の方法を有効にして、モデム回線を使用せずにモデムを呼 び出すようにするコードの事前ダイヤルを切り替えます。 デフォルト設定:なし
リモート保留での RTP からプ ロキシへの入力	リモート側によって回線が保持されているときに、RTP をプ ロキシに送信することができます。 デフォルト設定: なし

ダイヤル プラン

回線のデフォルトのダイヤルプランスクリプトは次のようになります。

(*xx|[3469]11|0|00|[2-9]xxxxxx|1xxx[2-9]xxxxxx|xxxxxxxxxx.)

```
各パラメータはセミコロンで区切られます。
```

例1:

* 1xxxxxxxxx <: @fwdnat。pulver.com: 5082; uid = jsmith; pwd = xy z 例 2:

*1xxxxxxxxx<:@fwd.pulver.com;nat;uid=jsmith;pwd=xyz</pre>

ダイヤルプラン式のシンタックスについては、次の表で説明します。

表 57:ダイヤル プラン設定

ダイヤル プラン エントリ	機能機能(Functionality)
*xx	任意の2桁のスターコードを許可
[3469]11	X11 シーケンスを許可

ダイヤル プラン エントリ	機能機能(Functionality)
0	演算子
00	Int'l 演算子
[2-9]xxxxxx	米国市内番号
1xxx[2-9]xxxxxx	米国1+10桁の市外通話番号
xxxxxxxxxxx.	その他すべて

FXS ポートの極性構成

表 58: FXS ポートの極性設定

フィールド	説明
アイドル極性	コールが接続される前の極性 (Forward または Reverse)。
	デフォルト設定: Forward
発信者接続極性	アウトバウンドコール後に接続した場合の極性: Forward また は Reverse
	デフォルト設定: Forward
着信者接続極性	インバウンドコールが接続された後の極性: Forward または Reverse
	デフォルト設定: Forward

ユーザー1およびユーザー2

電話1および電話2のポートを介したユーザ設定を設定するには、音声>ユーザー1ページお よび音声>ユーザー2ページから行います。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信**をクリックして設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

コール転送の設定

表 **59**:コール転送の設定

フィールド	説明
不在転送宛先(Cfwd All Dest)	コール転送のすべてのサービスの転送番号。
[話中転送宛先(Cfwd Busy	コール転送話中サービスの転送番号。Cfwd All Dest と同じ。
Dest)]	デフォルト設定:空白
[無応答時転送宛先(Cfwd No Ans Dest)]	コール転送の応答不可サービスの転送番号。Cfwd All Dest と同じ。
	デフォルト設定:空白
[無応答時転送遅延(Cfwd No	コール転送前の秒単位の遅延応答トリガーがありません。
Ans Delay)]	デフォルト設定:20

選択した通話転送設定

表60:選択した通話転送設定

フィールド	説明
Cfwd Sel1-8 発信者	コール転送選択的サービスをトリガーする発信者番号パターン。エントリに一致する発信者の電話番号がある場合、そのコールは対応する Cfwd の選択した接続先に転送されます。(Cfwd Sell-8 Dest)
	・使用?して任意の1桁の数字と一致します。
	・使用*して任意の桁の数字に一致します。
	例: 1408 *, 1512???1234
	上記の例では、発信者 ID が 1408 で始まる場合、または 1512 で始まり 1234 で終わる 11 桁の番号である場合、コールは対 応する宛先に転送されます。 デフォルト設定:空白
Cfwd Sel1-8 Dest	対応する通話転送の選択した発信者のパターン (Cfurd Sall 8
	発信者)の通知先。
	デフォルト設定:空白

フィールド	説明
Cfwd 前回の発信者	最後の発信者の番号。この発信者は、通話転送の最後のサービスを介して、Cfwd Last Dest にアクティブに転送されます。 詳細については、特定業種向けサービス アクティベーション コード (61ページ)を参照してください。 デフォルト設定:空白
Cfwd Last Dest.	Cfwd 前回の発信者の接続先
最後の発信者をブロックする	最後の発信者の番号。この発信者は、最後の発信者サービス のブロックからブロックされます。詳細については、特定業 種向けサービス アクティベーション コード (61 ページ)を 参照してください。 デフォルト設定:空白
前回の発信者の受け入れ	最後の発信者の番号。この発信者は、最後の発信者サービス を承諾することによって承諾されます。詳細については、特 定業種向けサービスアクティベーションコード(61ページ) を参照してください。 デフォルト設定:空白

スピード ダイヤルの設定

表 61:スピード ダイヤルの設定

フィールド	説明
短縮ダイヤル 2-9	短縮ダイヤル2、3、4、5、6、7、8、または9に割り当てら れたターゲットの電話番号(またはURL)。
	デフォルト設定:空白

補足サービス設定

表 62:補足サービス設定

フィールド	説明
[CW設定(CW Setting)]	すべてのコールに対して、待機のオン/オフを切り替えます。
	デフォルト設定: あり

フィールド	説明
ブロック CID	すべてのコールに対してブロック発信者 ID のオン/オフを設定します。
	デフォルト設定:なし
ブロック ANC	匿名コールのブロックのオンとオフを設定します。
	デフォルト設定:なし
着信拒否 (DND)	DND のオン、オフを設定しています。
	デフォルト設定:なし
CID 設定	発信者 ID の生成のオンまたはオフ。
	デフォルト設定: あり
CWCID 設定	コールウェイティング発信者 ID の生成のオンまたはオフ。
	デフォルト設定: あり
Dist Ring	特殊呼出のオン、オフの設定
	デフォルト設定: あり
[セキュアコール設定(Secure Call Setting)]	[はい]の場合、すべての発信コールはデフォルトでセキュリ ティで保護されたコールであり、ユーザがまずスターコード をダイヤルする必要はありません。
	デフォルト設定:なし
	 セキュア着信設定をはいに設定すると、すべての発信 コールが安全になります。ただし、ユーザはターゲット 番号をダイヤルする前にダイヤル*19を使用して、コー ルのセキュリティを無効にすることができます。
	•[安全な発信]がいいえに設定されている場合、ユーザは *18をダイヤルしてからターゲット番号にダイヤルするこ とによって発信コールを作成できます。
	 ユーザは、着信コールを強制的に安全にしたり、非安全 にすることはできません。発信者がセキュリティを有効 にしているかどうかによって異なります。
	 (注) この設定は、回線インターフェイス上で安全な発信 を[はい]に設定した場合にのみ適用されます。回線 1と回線2(電話1と電話2)の設定(32ページ)を 参照してください。

I

フィールド	説明
メッセージ待機	この値を[はい]に設定すると、途切れるトーンとVMWI信号 を有効にできます。このパラメータは、長期的にはメモリに 保存され、再起動または電源サイクル後も存続します。
	リノオルト設た:なし
メディアループバックリクエ	ループバック操作の着信リクエストの処理方法を制御します。
ストの受け入れ	•なし:ループバックコールを受け入れません。486に応答 して発信者に応答します。
	•自動: コールを自動的に呼び出しせずに受信します。
	• 手動:最初に電話をかけ、ループバックを開始する前に 手動でコールを選択する必要があります。
	デフォルト設定: 自動
メディアループバック モード	メディアループバックをリクエストするためにコールを行う 場合のローカルとしてのループバックモード。選択肢は、 ソース および ミラー です。
	デフォルト設定: ソース
	(注) ATA がコールに応答する場合、モードは発信者に よって決定されます。
メディアループバック タイプ	メディアループバック操作をリクエストする際にコールを行 うときに使用するループバックのタイプ。選択肢は メディア と パケット です。
	デフォルト設定: メディア
	ATA がコールに応答する場合、ループバックタイプは発信者 が決定することを留意してください (ATA は、複数のタイプ が含まれている場合は、常に最初のループバックタイプを選 択します)
CONFCID 設定	CONFCID を有効または無効にします。
	デフォルト設定: あり

固有呼び出し音設定

表 63:特殊呼び出し音パラメータ

フィールド	説明
Ring1-8 発信者	特有の呼出音/CWT 1、2、3、4、5、6、7、または8を再生す る発信者番号のパターン。発信者の数字パターンは、呼出音 1から呼出音8に対応しています。最初に一致した(最も近い 一致ではない)が、サブスクライバーにアラートを通知するた めに使用されます。特有の呼び出しは、地域のページに設定 されています。地域(51ページ)を参照してください。 デフォルト設定:空白

呼出音設定

表 64:リング パラメータ

フィールド	説明
[デフォルト呼出音 (Default Ring)]	すべての発信者に対して、デフォルトの呼び出し音パターン 1~8を使用します。
	デフォルト設定:1
デフォルトCWT	すべての発信者に対して、デフォルトの CWT パターン1~8 を使用します。
	デフォルト設定:1
保留リマインダ着信音	電話機がオンフックのときに、保留中のコールをアラームす る呼出音のパターンです。
	デフォルト設定:8
コールバック着信音	コールバック通知の呼出音のパターン。
	デフォルト設定:7
Cfwd着信音のスプラッシュ長	コールが転送された場合の呼出音の再生時間(0~10.0秒)
	デフォルト設定:0
Cblk 呼出スプラッシュ長	コールがブロックされた場合の呼出音の再生時間(0~10.0秒)
	デフォルト設定:0

I

フィールド	説明
VMWI リング ポリシー	このパラメータで制御するのは、VM サーバが SIP NOTIFY メッセージを ATA に送信し、そのメールボックスのステータ スを示している場合です。3 つの設定を利用できます。
	デフォルト設定:利用可能な新しい VM
	• 使用可能な新しい VM: 新しいボイスメールメッセージが ある限り、音が鳴ります。
	•新しいVMが利用可能になりました:最初の新しいボイス メールメッセージが受信された時点で呼び出されます。
	•新しい VM が到着 : 新しいボイスメールメッセージの数 が増えると、呼び出し音が鳴ります。
VMWI 着信音のスプラッシュ 長:	VMWI シグナルが適用される前に新しいメッセージが届いた 場合の呼出音の再生時間 (0~10.0秒)
	デフォルト設定:0
新しい VM が存在しない場合の着信音	有効にした場合、まだ未読のボイスメールがないことを示す SIP NOTIFY メッセージをボイスメールサーバから ATA に送 信すると、ATA はリングのスプラッシュを再生します。一部 の装置では、FSK 信号の前にショートリングを入れて、VMWI ランプをオフにする必要があります。 デフォルト設定: なし



管理設定

- •管理 (99ページ)
- •対数 (107ページ)
- •工場出荷時の初期状態 (111ページ)
- •ファームウェアアップグレード (111ページ)
- •構成管理(112ページ)
- リブート (112ページ)

管理

[管理] ページから、ATA Web ページへの Web アクセスを管理し、リモート構成とネットワー ク管理のためのプロトコルを有効にします。

ウェブ アクセス管理

管理>管理にある>Webアクセス管理ページから、ATAの管理へのアクセスの設定を構成します。

Cisco ATA 192 Web アクセス管理フィールド

Cisco ATA 192 Web ページへのアクセスは、デフォルトで有効になっています。管理者アクセスを使用すると、オフィスネットワーク内のコンピューターから設定を管理できます。Webアクセスを使用すると、別のサブネットまたはインターネット上のコンピューターから接続することができます。

ATA Web ページにアクセスするには、Web ブラウザを起動して、アドレスバーに URL を入力 します。URL には、指定されたプロトコル、ATA の WAN IP アドレス、および指定されてい るポート番号が含まれている必要があります。たとえば、HTTPS プロトコル、WAN IP アドレ スの 203.0.113.50、ポート 80 では、次のように入力します。https://203.0.113.50:80

フィールド	説明
管理者アクセス	この機能は、イーサネット (LAN) ポート経由で接続されてい るデバイスからの ATA Web ページへのアクセスを制御しま す。
	有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリッ クして無効化します。
	デフォルトの設定はイネーブルです。LANに接続されている コンピュータから ATA を管理および設定する場合は、この機 能を有効にする必要があります。
Web ユーティリティへのアク セス	WAN のデバイスからの ATA Web ページへのアクセスに使用 するプロトコルを選択します。HTTP または HTTPS を選択 します。セキュアなインターネットアクセスの場合は、HTTPS を選択します。デフォルト値は HTTP です。
リモート管理ポート	WAN 上のデバイスから ATA Web ページにアクセスするため に使用するポート番号を入力します。デフォルトのポート番 号は 80 です。

表 65 : Cisco	ATA 1	92 Web	アクセス	ス管理の設定
--------------	-------	--------	------	--------

Cisco ATA 191 Web アクセスフィールド

表 66 : Cisco ATA 191 Web アクセスの設定

フィールド	説明
管理者アクセス	この機能は、イーサネット (LAN) ポート経由で接続されてい るデバイスからの ATA Web ページへのアクセスを制御しま す。
	有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリッ クして無効化します。
	デフォルトの設定はイネーブルです。LANに接続されている コンピュータから ATA を管理および設定する場合は、この機 能を有効にする必要があります。
Web ユーティリティへのアク セス	WAN のデバイスからの ATA Web ページへのアクセスに使用 するプロトコルを選択します。HTTP、HTTPS、または両方 のエントリを選択します。セキュアなインターネットアクセ スの場合は、HTTPS を選択します。デフォルト値は HTTP で す。
Remote Access フィールド

表 67: Remote Access 設定

フィールド	説明
Remote Management	ATA の WAN 側にあるデバイスから ATA web ページにアクセ スできるようにします。たとえば、オフィスまたは自宅のコ ンピュータから別のサブネットに接続することができます。
	有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリッ クして無効化します。
	デフォルト設定では [Disabled] になっています。ページのこ のセクションの他のフィールドは、この機能を有効にした場 合にのみ使用できます。デフォルトの管理者ログイン資格情 報を使用してこの機能を有効にしようとすると、資格情報を 変更するように求められます。OKをクリックして、警告メッ セージを承認します。管理>管理にある>ユーザー一覧ペー ジから、パスワードを変更します。詳細については、ユーザ リスト(パスワード管理) (105ページ)を参照してください。
Web ユーティリティへのアク セス	ATA の WAN 側のデバイスからの ATA web ページへのアクセ スに使用するプロトコルを選択します。HTTP またはHTTPS を選択します。
	セキュアなインターネットアクセスの場合は、HTTPSを選択 します。デフォルト値は HTTP です。
	Web ブラウザにアドレスを入力するときは、指定されたプロ トコルを含めるようにします。たとえば、HTTPS プロトコ ル、203.0.113.50 の WAN IP アドレス、デフォルトのリモート 管理ポート 80 の場合は、次のように入力します。 https://203.0.113.50:80
リモート アップグレード	リモート管理を有効にした場合は、ATA の WAN 側のデバイ スからのファームウェアアップグレードを許可するかどうか を選択します。 有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリックして無効化します。デフォルト値は[Disabled] です。
	この設定は、コンピュータがLANから設定ユーティリティに 接続されている場合にのみ変更できます。

フィールド	説明
許可されているリモート IP ア ドレス	この機能を使用して、デバイスのIPアドレスに基づいてATA Webページへのアクセスを制限することができます。任意の 外部IPアドレスからのアクセスを許可するために、任意のIP アドレスを選択します。外部IPアドレスまたはIPアドレス の範囲を指定するには、2番目のラジオボタンを選択し、目 的のIPアドレスまたは範囲を入力します。デフォルト設定は 任意のIPアドレスです。
リモート管理ポート	ATA の WAN 側のデバイスから ATA web ページにアクセスするために使用するポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は 80 です。
	Web ブラウザにアドレスを入力するときは、指定されたポートを含めるようにします。たとえば、HTTPS プロトコル、203.0.113.50 の WAN IP アドレス、デフォルトのリモート管理ポート 80 の場合は、次のように入力します。https://203.0.113.50:80

TR-069

管理 > 管理 にある > TR-069ページから、TR-069 CPE WAN Management Protocol (CWMP) を介 して自動設定サーバ (ACS) との通信を設定します。TR-069 (Technical Report 069) は、大規模な 展開においてすべての音声デバイスおよびその他の顧客宅内機器 (CPE) を管理するための共 通プラットフォームを提供します。CPE と ACS の間の通信を提供します。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存す るか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表	68	:	TR-0	069	Ø	設定
---	----	---	------	-----	---	----

フィールド	説明
ステータス	リモートプロビジョニングを有効にするには 有効 をクリック するか、またはこの機能を無効にするには 無効 をクリックし ます。デフォルト設定では [Disabled] になっています。
[ACS URL]	ACSのURL。形式はhttps://xxx.xxx.xxx.portまたは xxx.xxx.xxx ort:pにする必要があります。xxx.xxx.xxx は、ACSサーバのドメイン名またはIPアドレスです。 IPアドレスとポート番号の両方を入力する必要があります。
[ACSユーザ名(ACS Username)]	ACS のユーザ名。デフォルトのユーザ名は、組織単位識別子 (OUI)です。この値は必須であり、ACSに設定されているユー ザ名と一致する必要があります。

フィールド	説明
[ACSパスワード (ACS Password)]	ACSのパスワード。この値は必須であり、ACSに設定されて いるパスワードと一致している必要があります。
接続 リクエスト ポート	接続リクエストに使用するポート
[接続要求ユーザ名(Connection Request Username)]	接続リクエストのユーザ名。この値は、ACS に設定されてい る接続リクエストのユーザ名と一致する必要があります。
[接続要求パスワード (Connection Request Password)]	接続リクエストのパスワード。この値は、ACS に設定されて いる接続リクエストパスワードと一致する必要があります。
[定期通知インターバル (Periodic Informal Interval)]	[定期通知有効]が有効の場合、CPEがACSとの接続を試行する間隔を秒数で入力します。デフォルト値は86,400秒です。
[定期通知有効(Periodic Inform Enable)]	有効 をクリックして ACS への接続リクエストを有効化する か、無効をクリックしてこの機能を無効にします。
ダウンロードのお申し込み	この設定が適用されている場合、ACS は、ATA からリクエス トを受信した後で、ダウンロード RPC を呼び出すことができ ます。

SNMP

管理>管理>にある SNMP ページから、シンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) を ATA に設定します。

SNMPは、ネットワーク管理者がネットワーク上で発生する重要なイベントの管理、モニタ、 および通知の受信を可能にするネットワークプロトコルです。ATAはSNMPv2およびSNMPv3 をサポートしています。

SNMP エージェントとして動作し、SNMP ネットワーク管理システムから SNMP コマンドに応答します。標準 SNMP の[取得]、[次へ]、および [セット] コマンドをサポートしています。また、設定されたアラーム状態が発生したときに SNMP マネージャに通知するための SNMP トラップを生成します。たとえば、リブート、電力サイクル、インターネット (WAN) イベントなどがあります。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存す るか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

SNMP 設定

表 69 : SNMP Parameters

フィールド	説明
[有効(Enabled)]、[無効 (Disabled)]	有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリッ クして無効化します。デフォルト設定では[Disabled]になって います。
信頼された IPv4	任意の IPv4 アドレスからのアクセスを許可する場合は任意を 選択します (推奨されません)。
	アドレスをクリックして、SNMP から ATA にアクセスでき る単一の SNMP マネージャーまたはトラップエージェントの IPv4 アドレスとサブネットマスクを指定します。
信頼された IPv6	任意の IPv6 アドレスからのアクセスを許可する場合は任意を 選択します (推奨されません)。
	アドレスをクリックして、SNMP から ATA にアクセスでき る単一の SNMP マネージャーまたはトラップエージェントの IPv6 アドレスとプレフィックス長を指定します。
ゲット/トラップコミュニティ	SNMP GET コマンドの認証に使用するコミュニティ文字列を 入力します。デフォルト値は public です。
Set Community	SNMP SET コマンドの認証に使用するコミュニティ文字列を 入力します。デフォルト値は [プレイベート] です。

SNMPv3 設定

表 70:SNMPv3パラメータ

フィールド	説明
[有効(Enabled)]、[無効 (Disabled)]	有効 をクリックしてこの機能を有効にするか、 無効 をクリッ クして無効化します。デフォルト設定では[Disabled]になって います。
読み取り/書き込みユーザ	SNMPv3 認証用のユーザ名を入力します。デフォルト値は v3rwuser です。
Auth-Protocol	ドロップダウンリストから SNMPv3 認証プロトコル (HMAC-MD5または HMAC-SHA) を選択します。
Auth-Password	認証パスワードを入力します。

フィールド	説明
PrivProtocol	ドロップダウンリストからプライバシー認証プロトコルを選 択します(なし または CBC-DES)。CBCDESを選択すると、 送信されるメッセージのデータ部分が privKey によって暗号 化されます。
プライバシー パスワード (Privacy Password)	使用する認証プロトコルのキーを入力します。

トラップの設定

表 *71 :* トラップ パラメータ

フィールド	説明
[IPアドレス(IP Address)]	SNMP マネージャまたはトラップエージェントの IP アドレス。
ポート (Port)	トラップメッセージを受信するために、SNMP マネージャま たはトラップエージェントが使用するSNMPトラップポート。 有効なエントリは、162 または 1025 ~ 65535 です。デフォル ト値は 162 です。
SNMPバージョン	SNMP マネージャまたはトラップエージェントによって使用 されている SNMP のバージョン。リストからバージョンを選 択します。

ユーザリスト (パスワード管理)

ATA web ページの2 つのユーザアカウントを管理するには、**管理 > 管理にある > ユーザリス** トページから行います。ユーザレベルのアカウントは、限定された機能のセットを変更するア クセス権を持っています。

IVR の場合は、[システム] ページでこれらのパスワードを設定することができます。

パスワードの更新

手順

ステップ1 ユーザリストテーブルで、更新するアカウントの鉛筆アイコンをクリックします。

ステップ2 [ユーザアカウント]ページで、以下の説明に従ってユーザ名とパスワードを入力します。

- ユーザ名: ユーザ名を入力します。
- ・古いパスワード(管理者アカウントのみ):既存のパスワードを入力します。

- 新しいパスワード: 32 文字以内で新しいパスワードを入力します。
- ・パスワードの確認:確認のため、パスワードを再度入力します。
- ステップ3 変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

Bonjour

管理>管理にある > Bonjour ページから、Bonjour を 有効または無効にします。Bonjour は、 LAN 上のコンピューターやサーバなどのネットワークデバイスを検出するサービス検出プロ トコルです。これは、使用しているネットワーク管理システムで必要になる場合があります。 この機能が有効になっている場合、ATA は、Bonjour のサービスレコードを定期的にローカル ネットワーク全体にマルチキャストして、その存在を通知します。

有効をクリックしてこの機能を有効にするか、**無効**をクリックして無効化します。デフォルトの設定はイネーブルです。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

リセットボタン

有効をクリックしてリセットボタンを有効にするか、**無効**をクリックして無効化します。デフォルトの設定はイネーブルです。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

SSH

管理 > 管理 > にある SSHから、SSH 関連の設定を行います。

表 72: SSH 設定

フィールド	説明
User Name	SSH のログインユーザ名を設定
パスワード	SSH のログイン パスワードを設定します。
SSHアクセス(SSH Access)	SSHアクセスを有効または無効に設定します。

対数

ATA では、ネットワーク上で発生するさまざまなイベントに対して、着信、送信、および DHCPの各リストを記録できます。着信ログには、受信したインターネットトラフィックの発 信元IPアドレスと宛先ポート番号の一時リストが表示されます。発信ログには、発信インター ネットトラフィックのローカルIPアドレス、宛先 URL/IPアドレス、およびサービスとポート の番号の一時リストが表示されます。

デバッグ ログ モジュール

管理 > ログモジュールにある > デバッグ ログ モジュールページから、ログを有効にし、設定 を構成します。

- ・ベストプラクティスとして、必要な場合にのみロギングを有効にして、調査が終了したときにログを無効にすることを推奨します。ロギングはリソースを消費し、システムのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。
- このページでは、デバッグメッセージをすべての重要度レベルで表示するモジュールを選 択できます。

デバッグ ログ設定

管理>ログにある>デバッグログサーバページでデバッグログサーバを有効にした場合、ATA はデバッグメッセージを1台のサーバに送信します。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存す るか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 73:	デバッ	グロ	グ設定
-------	-----	----	-----

フィールド	説明
デバッグ ログ サイズ	ログファイルの最大サイズ(KB)を入力します。128~1024 の範囲の値を指定できます。
IPv4 アドレス	メッセージを送信するデバッグ ログ サーバの IPv4 アドレス を入力します。
IPv6アドレス	メッセージを送信するデバッグ ログ サーバの IPv6 アドレス を入力します。
ボート (Port)	サーバで使用するポートを入力します。有効値は1~65535 です。

デバッグログビューアー

管理>ログにある>デバッグログビューアーページでロギングが有効になっている場合は、 [ログビューア]ページからログをオンラインで表示し、システムログファイルをコンピュー ターにダウンロードすることができます。ログの内容を制限するには、含めるエントリの種類 を選択するか、キーワードを指定します。

ロギングのイネーブル化と設定の注意事項については、デバッグ ログ モジュール (107 ページ)を参照してください。

フィールド	説明
ログをダウンロード	このボタンをクリックすると、コンピューターにログの内容 がファイルとしてダウンロードされます。ダイアログボック スでは、ファイルを開いたり保存したりできます。メモ帳な どのテキストエディタでファイルを開くことができます。
ログの消去	ログからすべてのエントリを削除するには、このボタンをク リックします。
[フィルタ(Filter)]	キーワードを入力すると、ビューアーに表示されるログエン トリを絞り込むことができます。ページには、キーワードを 含むエントリだけが表示されます。

イベントログの設定

管理 > ログ > にあるイベントログ設定ページから、必要なイベントログを収集します。イベ ントログメッセージは、UDP トランスポートタイプを使用して、SYSLOG プロトコルを介し て送信されます。

トラブルシューティングの際には、イベントログ設定を使用します。次の4つのイベントカテ ゴリが定義されています。

- DEV: デバイス情報。デバイスの起動とネットワーク接続が準備されると、メッセージが 送信されます。
- SYS: システム関連の情報。デバイスの起動とネットワーク接続が準備されている間に1 回メッセージが送信されます。
- CFG: プロビジョニングのステータスと設定ファイルの変更。設定またはネットワークス テータスの変更によってプロビジョニングサービスが再起動するたびにメッセージが送信 されます。
- REG: 各回線の登録ステータス。登録ステータスが変化するたびにメッセージが送信されます。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存す るか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表	75 :	イベ	ント	ログ	設定
---	------	----	----	----	----

フィールド	説明
アドレス (Address)	イベントログサーバのアドレスを設定します。
ポート (Port)	イベントログサーバポートを設定します。
	Default value: 514
フラグ	イベントログフラグを設定すると、ビット単位の値になりま す。設定リストは次のとおりです。
	• <dev>:1(0x01)</dev>
	• <sys>:2(0x01<<1)</sys>
	• <cfg>:4(0x01<<2)</cfg>
	• <reg>:8(0x01<<3)</reg>
	デフォルト値:15(すべてのイベント)

PRTビューアー

管理 > ログにある > PRT ビューアーを使用して、問題レポートツール (PRT) ファイルを生成 し、ダウンロードすることができます。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

表 76:問題レポート ツール設定

フィールド	説明
PRTアップロード URL	PRT ログのアップロード URT を設定します。
[PRTアップロード方法(PRT Upload Method)]	PRT ログのアップロード方法、POST または PUT を設定します。
[PRT最大タイマー(PRT Max Timer)]	PRT 最大タイマーを設定します。有効範囲は 15 - 1440 分で す。 無効化済み: 0
問題レポート ツールログ	ユーザによって ATA 上に生成された PRT ファイルを一覧表 示します。

フィールド	説明
PRT の生成	このボタンをクリックすると、コンピューター上のファイル として PRT のコンテンツが生成され、ダウンロードされま す。ダイアログボックスでは、ファイルを開いたり保存した りできます。

PCMビューアー

管理 > ログにある > PCM ビューア-から、ダウンロードして PCM を表示します。

ATA を使用すると、PCM ログファイルをキャプチャして、コールを開始するためのユーザオ フフックを作成できます。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定 を保存したページを再表示します。

表 77: ログビューア設定

フィールド	説明
PCM キャプチャの有効化	キャプチャ PCM を有効または無効にします。
期間	PCM キャプチャの継続時間を秒単位で入力します。有効な範囲は、20~300秒です。
PCM ファイルリスト	ユーザがキャプチャする PCM ファイルを一覧表示します。

CSS ダンプ

管理>ログにある > CSS ダンプページから、CSS ダンプファイルを設定し、ダウンロードします。

表 78: CSS ダンプの設定

フィールド	説明
CSS メモリ ダンプ	CSS メモリダンプ機能を 有効 または 無効 に設 定します。 デフォルト値:Disabled
CSS メモリダンプファイル	ATA 上の CSS メモリダンプファイルストアを 表示します。ダウンロードするファイルの名 前をクリックします。
更新	更新をクリックして CSS メモリダンプファイ ルを更新します。

工場出荷時の初期状態

管理>工場出荷時のデフォルト ATA Web ページから、ATA をデフォルト設定にリセットしま す。

または、**リセット**ボタンを20秒間押し続けます。ユーザが変更可能なデフォルト以外の設定は 失われます。これには、ネットワークおよびサービスプロバイダーのデータが含まれる場合が あります。

次の作業を実行できます。

- ルータの初期設定を復元:はいを選択して、設定したカスタムデータ(ルータ)設定を削除します。送信をクリックすると、デフォルト設定が復元されます。
- •音声の初期設定を復元:はいを選択して、ATA Webページの音声ページ上で設定したカス タム設定を削除します。送信をクリックすると、デフォルト設定が復元されます。

ファームウェア アップグレード

管理>ファームウェアアップグレードページから、ATAのファームウェアをアップグレード します。ATAの問題が発生している場合や、新しいファームウェアに使用する機能がある場 合以外は、アップグレードする必要はありません。

 Λ

注意 ファームウェアのアップグレードには数分かかる場合があります。プロセスが完了するまでは、電源をオフにしたり、ハードウェアリセットボタンを押したり、現在のブラウザの[戻る] ボタンをクリックしたりしないでください。

始める前に

ファームウェアをアップグレードする前に、ATA 用ファームウェアアップグレードファイル をダウンロードします。

手順

ステップ1 [参照]をクリックして、ダウンロードしたアップグレードファイルの場所を選択します。 ステップ2 ファームウェアをアップグレードするには、[アップグレード] ボタンをクリックします。

構成管理

管理>設定の管理ページから、ATA の構成設定をバックアップまたは復元します。

バックアップ コンフィギュレーション

管理>設定の管理>バックアップの設定ページを使用して、ATAの設定をファイルにバック アップします。これらの同じ設定をATAに後から復元することができます。

[バックアップ]ボタンをクリックして、ATAの設定情報を保存します。ダイアログボックスが 表示されたら、cfg ファイルを保存する場所を選択します。

ヒント:バックアップを作成した日時を含む名前にファイル名を変更します。

構成の復元

管理>設定の管理>復元設定ページから、ATAの設定を以前のバックアップから復元します。 設定を復元する前に、現在の設定をバックアップしておくことを推奨します。

手順

ステップ1 参照をクリックして、コンピュータ上の.cfg ファイルを探します。

ステップ2 復元をクリックして、選択したファイルから設定を復元します。

リブート

管理>リブートページから、ATA Web ページからの ATA の電源を入れ直すことができます。 もう1つの方法は、**リセット>再起動**ボタンを押す方法です。

リブートボタンをクリックして ATA の電源を入れ直します警告メッセージが表示されたら、 情報を読み、OK をクリックして ATA をリブートするか、キャンセルをクリックして操作を 中止します。ATA およびすべての接続されたデバイスは、この操作中にネットワーク接続を 失います。



ステータスと統計情報

- システム情報 (113ページ)
- •インターフェイス情報(114ページ)
- •ネットワークステータス (115ページ)
- •ポート統計 (ATA 192 のみ) (116 ページ)
- ・メモリ情報 (117ページ)
- DHCP サーバ情報 (ATA 192 のみ) (117 ページ)

システム情報

ステータス>システム情報ページからATAおよびその現在の設定に関する情報を表示します。

フィールド	説明
Model	モデル番号と製品の説明。
製品 ID	ATA の製品 ID。
VID	ATA の VID
シリアル番号	ATA のシリアル番号。
Hardware Revision	ハードウェアのバージョン番号。
ブートバージョン	ブートファームウェアのバージョン番号。
ブート パーティション	ATA のブートパーティション。
ファームウェア バージョン	現在のファームウェアのバージョン。
インターネットのMACアドレ ス	WAN インターフェイスの MAC アドレス。
ホスト名 (Host Name)	ATA のホスト名。

表 79:システム設定

フィールド	説明
ドメイン名	ATA のドメイン名。
現在の日時	ATA に設定されている時間。
タイムゾーン	ATA に設定されているタイムゾーン。

インターフェイス情報

ステータス>インターフェイス情報ページから、WANインターフェイス(インターネットポート)と ATA 192 のみ、LAN インターフェイス (イーサネットポート) に関する情報を表示します。

IPv4 インターフェースの一覧。

フィールド	説明
インターフェイス (Interface)	インターフェイス名: WAN または LAN (ATA 192 のみ)。
接続タイプ	インターフェイスに対して構成されている接続のタイプ。
[IPアドレス (IP Address)]	インターフェイスの IPv4 アドレス
サブネットマスク(Subnet Mask)	インターフェイスのサブネット マスク。
[MACアドレス(MAC Address)]	インターフェイスの MAC アドレス。

IPv6 インターフェースの一覧。

フィールド	説明
インターフェイス (Interface)	インターフェイス名: WAN または LAN (ATA 192 のみ)。
接続タイプ	インターフェイスに対して構成されている接続のタイプ。
[IPアドレス (IP Address)]	インターフェイスの IPv6 アドレス。
[プレフィックス長(Prefix Length)]	インターフェイスのプレフィックス長。
[MAC アドレス(MAC Address)]	インターフェイスの MAC アドレス。

ポートリスト (ATA 192 のみ)

フィールド	説明
インターフェイス (Interface)	インターフェイス名: WAN または LAN。
TX (パケット)	このポートから正常に送信したパケット数。
RX (パケット)	このポートが正常に受信したパケット数。
ステータス	ポートのステータスを示し、ポートがデバイスに接続されて いるか、または切断されているかを示しています。
TX & RX のクリア	このボタンをクリックすると、TXパケットとRXパケットの 数を0にリセットできます。

ネットワークステータス

WAN インターフェイス (インターネットポート) に関する情報を表示するには、ステータス > **ネットワークステータス**ページから行います。

表 80:基本インターフェイスの詳細

フィールド	説明
リンクの状態	ポートが接続されているか、または接続されていないかを示 すインターネット (WAN) インターフェイスのステータス。
ホスト名 (Host Name)	ATA のホスト名。
[ドメイン (Domain)]	ATA のドメイン名。

表 81: IPv4 インターフェイスの詳細

フィールド	説明
[IPアドレス(IP Address)]	インターネット (WAN) インターフェイスの IPv4 アドレス。
サブネットマスク(Subnet Mask)	インターネット (WAN) インターフェイスのサブネットマス ク。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IPv4 アドレス。
MTU タイプ	MTUを設定するメソッド:自動または手動
MTUサイズ (MTU Size)	ネットワーク伝送で許可されている最大のプロトコルデータ ユニット (バイト単位) を指定します。

フィールド	説明
DNS 1-3 (該当する場合)	名前解決に使用される最大 3 つの DNS サーバの IPv4 アドレス。

表 82: IPv6 インターフェイスの詳細

フィールド	説明
[IPアドレス(IP Address)]	インターネット (WAN) インターフェイスの IPv6 アドレス。
[プレフィックス長(Prefix Length)]	インターネット (WAN) インターフェイスのプレフィックス 長。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IPv6 アドレス。
DNS 1-2 (該当する場合)	名前解決に使用される最大 3 つの DNS サーバの IPv6 アドレス。

表 83: VLAN 情報

フィールド	説明
CDP	CDP ステータスは、有効または無効に設定されます。
CDP VLAN ID	ATA O CDP VLAN ID.
IVR VLAN ID	ATA \mathcal{O} IVR VLAN ID.
アクティブ Vlan ID	ATA のアクティブな VLAN ID。

ポート統計 (ATA 192 のみ)

ステータス > ポート統計ページから、WAN インターフェイス (インターネットポート) での ポートアクティビティと LAN インターフェイス (イーサネットポート) に関する情報を表示し ます。

表 84:ポート統計設定

フィールド	説明
入力 (pkts)	ポートが正常に受信したパケット数。
出力 (pkts)	ポートが正常に送信したパケット数。
入力エラー(Input Errors)	着信トラフィックの受信エラー数。

フィールド	説明
入力ブロードキャスト	インターフェイスによって受信されたブロードキャストメッ セージの数。
出力ブロードキャスト	インターフェイスによって送信されたブロードキャストメッ セージの数。
入力マルチキャスト	インターフェイスによって受信されたマルチキャストメッセー ジの数。
出力マルチキャスト	インターフェイスによって送信されたマルチキャストメッセー ジの数。

メモリ情報

メモリ使用量に関する情報はステータス > メモリ情報ページから表示します。

表 85:メモリ情報インターフェイスの詳細

フィールド	説明
MemTotal	ATAのメモリ合計。
MemFree	ATA の空きメモリ。
更新	最新のメモリ情報を更新します。

DHCP サーバ情報 (ATA 192 のみ)

ステータス > DHCP サーバ情報ページを使用して、DHCP サーバとクライアントに関する情報 を表示します。

IPv4 DHCP プール情報

フィールド	説明
Client Name	DHCP クライアントのホスト名。
[IPアドレス (IP Address)]	クリアとにリリースされた IP アドレス。
[MACアドレス(MAC Address)]	DHCP クライアントの MAC アドレス。

フィールド	説明
期限切れ時刻	現在の DHCP リースの残り時間は、HH: MM: SS (時間:分:秒) 形式で表示されます。タイマーがカウントダウンするにつれ て、ページが新しい値で定期的に更新されます。
インターフェイス (Interface)	クライアントに接続されているインターフェイス。

IPv6 DHCP プール情報

フィールド	説明
Client Name	DHCP クライアントのホスト名。
[IPアドレス (IP Address)]	クリアとにリリースされた IP アドレス。
[MACアドレス (MAC Address)]	DHCPv6 クライアントの MAC アドレス。
期限切れ時刻	現在の DHCP リースの残り時間は、HH: MM: SS (時間:分:秒) 形式で表示されます。タイマーがカウントダウンするにつれ て、ページが新しい値で定期的に更新されます。
インターフェイス (Interface)	クライアントに接続されているインターフェイス。

IPv4 DHCPサーバの詳細。

フィールド	説明
[DHCPサーバ(DHCP Server)]	DHCP サーバのステータス: 有効化または無効化
IP アドレス / マスク	イーサネット(LAN)向けのインターフェイスの IP アドレスと サブネット マスク。
DNS プロキシ	DNS プロキシサービスの設定: 有効化または無効化
最大 DHCP ユーザ数	DHCP サーバから IP アドレスをリースできるクライアントの 最大数。
IPアドレス範囲	DHCP サーバによって動的に割り当てることができる IP アド レスの範囲。
クライアントのリース時間	クライアントが動的に割り当てられた IP アドレスをリースで きる最長時間 (分単位)。
静的 DNS	DHCP クライアントで使用する DNS サーバ 3 つまでのの IP アドレス。

フィールド	説明
オプション 66	このオプションをリクエストしているホストにプロビジョニ ングサーバのアドレス情報を提供するオプション66の設定。 ATA は、なし (内部)、リモート TFTP サーバ、または手動の TFTP サーバに設定できます。
TFTP サーバ (TFTP Server)	プロビジョニングに使用される TFTP サーバの IP アドレス、 ホスト名、または URL。
オプション 67	このオプションをリクエストするホストに提供されている設 定またはブートストラップファイル名。
オプション 159	このオプションをリクエストするクライアントに提供される 設定 URL。
オプション 160	このオプションをリクエストするクライアントに提供される 設定 URL。

IPv6 DHCPサーバの詳細。

フィールド	説明
DHCPv6 サーバ	DHCPv6 サーバ ステータスを表示します。
アドレス割り当てタイプ	DHCPv6 サーバのアドレス割り当てタイプを表示します。
DHCPv6 委任	DHCPv6 サーバ委任が [はい] または [いいえ] であることを表示します。
IPv6 アドレスプレフィックス	DHCPv6 アドレスプレフィックスを表示します。
IPv6 アドレスプレフィックス 長	DHCPv6 アドレスのプレフィックス長を表示します。
IPv6 の静的 DNS	DHCPv6 静的 DNS を表示します。
IPv6 アクティブ DNS1	DHCPv6 アクティブ DNS1 を表示します。
IPv6 アクティブ DNS2	DHCPv6 アクティブ DNS2 を表示します。
IPv6 LAN アドレス	DHCPv6 LAN アドレスを表示します。



FAQ

- •ATA を使用してインターネットに接続できない (121 ページ)
- ・ファームウェアをアップグレードしたが、ATA が正常に動作しない (122ページ)
- DSL サービスを使用して、インターネットに手動で接続できない (122 ページ)
- ・ダイヤルトーンが聞こえず、電話1または2のLEDが緑に点灯していない。 (122ページ)
- インターネットフォンのコールを発信するとオーディオが分割される(123ページ)
- •Webブラウザを開いたときに、ユーザ名とパスワードを入力するよう求められます。この プロンプトを無視する方法を教えてください。 (123 ページ)
- DSL 電話回線が ATA WAN (インターネット) ポートに適合しません。 (124 ページ)
- ・使用しているモデムにイーサネットポートがありません (124ページ)
- ATA は、ケーブル接続用の同軸ポートを備えていません。 (124 ページ)

ATA を使用してインターネットに接続できない

手順

ステップ1 ATA の電源がオンになっていることを確認します。電源/システム LED は緑色に点灯し、点滅していないはずです。

電源 LED が点滅している場合は、モデム、ATA、接続されたデバイスを含むすべてのネット ワークデバイスの電源をオフにします。30秒待機します。次に、次の順序で各デバイスの電源 を入れます。

- 1. ケーブルまたは DSL モデム
- **2.** ATA
- 3. 接続されたデバイス
- ステップ2 ケーブル接続を確認します。インターネット (WAN) ポート内のケーブルが、モデムや ADSL 回線などのインターネットアクセスを提供するデバイスに確実に接続されていることを確認し ます。Cisco ATA 192 で、イーサネット (LAN) ポートのケーブル接続を確認します。

ステップ3 ネットワーク設定>インターネット設定ページにある設定を確認します。インターネットサー ビスプロバイダーが指定した設定を入力していることを確認します。

ファームウェアをアップグレードしたが、ATA が正常に 動作しない

アップグレード後に ATA が正常に動作しない場合は、工場出荷時の設定へのリセットを実行 する必要があります。管理>工場出荷時のデフォルトページから、ATA をデフォルト設定に リセットします。または、リセットボタンを20秒間押し続けます。ユーザが変更可能なデフォ ルト以外の設定は失われます。これには、ネットワークおよびサービスプロバイダーのデータ が含まれる場合があります。

DSL サービスを使用して、インターネットに手動で接続できない

ATA をインストールすると、サービス プロバイダネットワークに自動的に接続するため、手動で接続する必要がなくなります。

ダイヤルトーンが聞こえず、電話1または2のLEDが緑 に点灯していない。

手順

- ステップ1 電話機が適切なポート、電話1、または2に接続されていることを確認します。
- ステップ2 電話機のポートから RJ-11 電話ケーブルを取り外し、再接続します。
- ステップ3 電話機のトーン設定(パルスでない)が設定されていることを確認してください。
- ステップ4 ネットワークにアクティブなインターネット接続があることを確認してください。

インターネットにアクセスしてみて、ATA WAN の LED が緑色に点滅しているかどうかを確認します。接続が存在しない場合は、モデム、ATA、およびコンピューターを含むすべてのネットワークデバイスの電源をオフにします。30秒間待機します。次に、次の順序で各デバイスの電源を入れます。

- 1. ケーブルまたは DSL モデム
- **2.** ATA

インターネットフォンのコールを発信するとオーディオ が分割される

考えられる原因と対処方法を次に示します。

- ネットワークアクティビティ:特に、サーバを実行している場合やファイル共有プログラムを使用している場合は、ネットワークが大量に動作している可能性があります。インターネットの通話中は、ネットワークまたはインターネットの動作を制限してください。たとえば、ファイル共有プログラムを実行している場合、ファイルをダウンロードしていないにもかかわらず、ファイルがバックグラウンドでアップロードされる可能性があるため、インターネットフォンのコールを行う前にプログラムを終了していることを確認してください。
- ・帯域幅: インターネット通話のコールに利用可能な帯域幅が不足している可能性があります。オンラインで利用可能ないずれかの帯域幅テストを使用して、帯域幅をテストすることができます。必要に応じて、インターネット電話サービスのアカウントにアクセスし、サービスの帯域幅要件を減らします。詳細については、ITSPのWebサイトを参照してください。

Web ブラウザを開いたときに、ユーザ名とパスワードを 入力するよう求められます。このプロンプトを無視する 方法を教えてください。

Web ブラウザを起動して、次の手順を実行します(これらの手順は Internet Explorer 固有ですが、他のブラウザでも同様です)。

手順

ステップ1 [ツール]>[インターネットオプション]を選択します。

ステップ2 接続タブをクリックします。

^{3.} コンピューターとその他のデバイス

ステップ5 クイックセットアップページで設定を確認します。サービスプロバイダーに必要なアカウント 情報と設定が入力されていることを確認してください。音声>情報ページの回線1または回線 2のステータスセクションで、登録状態が登録されていることを確認します。回線が登録され ていない場合は、ITSPに問い合わせて、追加の設定が必要かどうかを確認します。

ステップ3 接続にダイヤルしないを選択します。 ステップ4 OKをクリックします。

DSL 電話回線が ATA WAN (インターネット) ポートに適合 しません。

ATA からモデムが置き換えられません。ATA を使用するためには、DSL モデムが必要です。 電話回線を DSL モデムに接続します。

使用しているモデムにイーサネットポートがありません

モデムがイーサネットポートを備えていない場合は、従来のダイヤルアップサービスのモデム であることを示しています。ATA を使用するには、ケーブル/DSL モデムと高速インターネッ ト接続が必要です。

ATAは、ケーブル接続用の同軸ポートを備えていません。

ATA からモデムが置き換えられません。ATA を使用するためには、ケーブルモデムが必要です。ケーブル接続をケーブルモデムに接続します。



管理用 IVR

- •管理用 IVR を使用 (125 ページ)
- IVR のヒント (125 ページ)
- IVR アクション (126 ページ)

管理用 IVR を使用

ATA を設定および管理するために IVR システムを利用できます。電話のキーパッドを使用してオプションを選択し、エントリを作成します。

手順

ステップ1 ATA の PHONE ポートにアナログ電話機をつなぎます。

- ステップ2 アスタリスク(*)キーを4回押します。****
- ステップ3 パスワードを入力すると、次のようになります。
 - ・管理者としてログインします。
 - 電話ポートのユーザとしてログインします。

ステップ4 目的のアクションコードを入力します。

IVRのヒント

- •番号をゆっくり入力して、次の番号を入力する前に音声の確認を聞きます。
- ・オプションを選択した後、#(ポンド)キーを押します。
- ・メニューを終了するには、電話機を切断するか、または3948#と入力して終了します。
- IP アドレスなどの値を入力した後、#(ポンド)キーを押して、選択が完了したことを示します。次に、必要に応じて次の手順を実行します。

- ・設定を保存するには、1を押します。
- ・設定を確認するには、2を押します。
- ・設定を再入力するには、3を押します。
- ・エントリをキャンセルしてメインメニューに戻るには、*(スター)を押します。
- ・値を入力するときに、*(スター)キーを1秒以内に2回押すことによって、変更を取り消 すことができます。キーをすばやく押すか、*を小数点入力として扱うかを確認してくだ さい。
- ・メニューが1分間以上非アクティブになると、IVR はタイムアウトします。次に、アスタリスクキーを4回押して[IVR]メニューを再入力する必要があります。**** この設定は、 電話機を切断するか、IVR を終了すると有効になります。この時点で ATA をリブートできます。
- IP アドレスの小数点を入力するには、*(スター)キーを押します。

たとえば、[IPアドレス(191.168.1.105)]を入力するには、次のタスクを実行します。

- ・以下のキーを押します。191*168*1*105
- •#(ポンド)キーを押して、IPアドレスの入力が完了したことを示します。
- IP アドレスを保存するには1を押し、エントリをキャンセルしてメインメニューに戻るには*(アスタリスク)キーを押します。

IVR アクション

表 86 : IVR 設定

IVR アクション	メニューオプション	選択肢と指示
IVR メニューの入力	****	
インターネットのアドレス方式の 確認	100	
インターネット6のアドレス方式 の確認	600	
インターネットのアドレス方式の	101	0: DHCP
設定		1 —静的 IP
		2 : ppoe

IVR アクション	メニューオプション	選択肢と指示
スタックモードの確認	102	0 —IPv4
		1—IPv6
		2: デュアル
スタックモードの設定	103	0—IPv4
		1 —IPv6
		2: デュアル
インターネット6のアドレス方式	601	0: DHCP
の設定		1 —静的 IP
		2: PPPoE
IPv6 自動設定の確認	607	0 —無効化
		1 —有効化
IPv6 自動設定の設定	606	0 —無効化
		1 —有効化
インターネット IP アドレス (イン ターネットポート) を確認する	110	
インターネット6IPアドレス(イン ターネットポート)を確認する	610	
静的 IP アドレスの設定 (インター ネットポート)	111	 電話キーパッドの電話番号を使用 して IP アドレスを入力します。* (スター) キーを小数点に使用しま す。 (注) このオプションは、オプ ション101 を通してイン ターネット接続タイプと して静的 IP を選択した 場合にのみ使用できま す。
静的 IPv6 アドレス (インターネッ トポート) の設定	611	静的IPv6モードでのみ使用できま す
ネットワークマスクの確認	120	
IPv6 プレフィックス長の確認	620	

I

IVR アクション	メニュー オプション	選択肢と指示
ネットワーク マスクの設定	121	 値を入力するには、電話キーパッドの番号を押します。小数点位置を入力するには、*(スター)キーを押します。 (注) このオプションは、オプション101を通してインターネット接続タイプとして静的 IP を選択した場合にのみ使用できます。
静的IPv6プレフィックス長の設定	621	静的IPv6モードでのみ使用できま す
ゲートウェイ IP アドレスの確認	130	
ゲートウェイ IPv6 アドレスの確認	630	
ゲートウェイのIPアドレスの設定	131	値を入力するには、電話キーパッ ドの番号を押します。小数点位置 を入力するには、*(スター)キー を押します。 (注) このオプションは、オプ ション101を通してイン ターネット接続タイプと して静的 IP を選択した 場合にのみ使用できま す。
ゲートウェイ IPv6 アドレスの設定	631	静的IPv6モードでのみ使用できま す
MAC アドレスの確認	140	
ファームウェアバージョンの確認	150	
プライマリ DNS サーバの設定の確 認	160	
プライマリ IPv6 DNS サーバの設 定の確認	660	

IVR アクション	メニューオプション	選択肢と指示
プライマリ DNS サーバの設定	161	値を入力するには、電話キーパッドの番号を押します。小数点位置を入力するには、*(スター)キーを押します。 (注) このオプションは、オプション101を通してインターネット接続タイプとして静的 IP を選択した場合にのみ使用できます。
プライマリ IPv6 DNS サーバの設 定	661	
ウェブネットWebサーバポートの 確認	170	
ATA 192 のみ: LAN の IP アドレス (イーサネットポート) の確認	210	
回線 1 SIP トランスポートのアナ ウンス	1910	
回線 1 SIP トランスポートの設定	1911	0 : UDP
		1 : TCP
		2 : TLS
回線 2 の SIP トランスポートの確 認	1920	
回線 2 SIP トランスポートの設定	1921	0 : UDP
		1 : TCP
		2 : TLS
IVR の終了	3948	
	(電話のキーパッド上 にEXITとスペルする)	

IVRアク	ション	メニューオプション	選択肢と指示
音声シス	マテムのリブート	732668 (電話のキーパッド上 に REBOOT とスペル する)	「オプションが成功しました」と 聞こえたら、電話機を切断しま す。ATA がリブートします。 (注) このアクションは、[リ セット] ボタンを押して すぐに離すのと同じで す。
工場出荷 (Factor <u></u> 警告	f時の状態へのリセット y Reset) デフォルト以外のすべて の設定が失われます。こ れには、ネットワークと サービスプロバイダー データが含まれます。	73738 (電話のキーパッド上 に RESET とスペルす る)	プロンプトが表示されたら、1を 押して確定するか、*(スター)を 押してキャンセルします。「オプ ションが成功しました」と聞こえ たら、電話機を切断します。ATA がリブートします。 (注) このアクションは、[リ セット]ボタンの10秒間 長押しと同じです。
ユニット 態へのリ 警告	、のユーザ工場出荷時の状 セット ユーザが変更可能なデ フォルト以外の設定は失 われます。これには、 ネットワークおよびサー ビスプロバイダーのデー タが含まれる場合があり ます。	877778	プロンプトが表示されたら、1を 押して確定するか、*(スター)を 押してキャンセルします。「オプ ションが成功しました」と聞こえ たら、電話機を切断します。ATA がリブートします。



電話機サービスの詳細オプション

- Fax 完了率の最適化 (131 ページ)
- ダイヤルプラン設定(133ページ)

Fax 完了率の最適化

この問題は、T-38規格を使用した場合でも、IPネットワークを経由した fax 送信で発生する可能性があります。次のタスクを使用すると、問題を回避できます。

手順

ステップ1 アップリンクとダウンリンクに十分な帯域幅があることを確認します。

- •G711フォールバックの場合は、約100kbpsであることを推奨しています。
- •Tを38にする場合は、最低50kbpsで割り当ててください。
- **ステップ2** メニューバーの音声をクリックし、ナビゲーションツリーの回線1または回線2をクリックします。
- ステップ3 [ネットワーク設定] セクションで、以下の設定を入力します。
 - ネットワークのジッターレベル:非常に高い
 - ジッタバッファー調整: いいえ
- ステップ4 [補足サービスサブスクリプション] セクションで、次の設定を入力します。
 - •コール待機サービス: いいえ
 - •3 者通話: いいえ

ステップ5 [オーディオ設定] セクションで、T-38 fax をサポートするために次の設定を入力します。
 ・優先コーデック: g.711u (USA) または g.711a (その他の地域)。

- 優先コーデックのみを使用: はい
- ・無音抑制有効: いいえ
- ・エコーキャンセル有効: いいえ
- FAX パススルーメソッド: ReINVITE
- **ステップ6 送信**をクリックすると設定が保存されます。**キャンセル**をクリックすると設定が解除されます。
- ステップ7 PSTN 終了の Cisco メディア ゲートウェイを使用している場合は、T.38 (fax リレー)を無効にし、モデムパススルーを使用して fax を有効にします。

次に例を示します。

モデムパススルー nse ペイロードタイプ 110 コーデック g711 ulaw

fax レートの無効化

fax protocol pass-through g711ulaw

- (注) T.38 コールを設定できない場合、コールは自動的に G.711 フォールバックに戻ります。
- **ステップ8** Cisco メディア ゲートウェイを使用している場合は、Cisco ゲートウェイ がダイヤルピアを使用して T.38 に対して正しく設定されていることを確認してください。

次に例を示します。 Fax プロトコル T38 Fax レート音声 fax リレー ECM 無効化 fax の nsf 000000 vad なし

ファクスに関するトラブルシューティング

Fax の送信または受信に問題がある場合は、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1 Fax 機の速度が 7200~14400 の範囲に設定されていることを確認します。
- ステップ2 制御された環境で、2 つの ATA 間のテスト Fax を送信します。
- ステップ3 成功率を確認します。

ステップ4 ネットワークを監視し、ジッタ、損失、および遅延に関する統計情報を記録します。

- **ステップ5** Fax が一貫して失敗する場合は、設定のコピーをキャプチャします。その後、このファイルを テクニカルサポートに送信できます。
 - a) Web ブラウザで、設定ファイルのパスを次のように入力します。

http://<ATA Local IP Address>/admin/config.xml&xuser=

<admin user>&xpassword=<admin password>

- b) [ファイル] メニューの名前を付けて保存を選択し、ファイルを MyConfiguration.xml などのファイル 名で保存します。
- ステップ6 ロギングを有効にするには、音声>システムページに移動し、syslog またはデバッグサーバの IP アドレスを設定します。[デバッグレベル(Debug Level)]を[3]に設定します。詳細につい ては、システム(33ページ)を参照してください。
 - (注) スニファトレースを使用してデータをキャプチャすることもできます。
- ステップ1 ATA に接続されている Fax のタイプを確認します。
- **ステップ8** テクニカルサポートに連絡してください。
 - VoIP 製品をご使用のユーザの場合は、装置を供給した販売店またはサービスプロバイダー に問い合わせてください。
 - 許可されている Cisco パートナーである場合は、シスコのテクニカルサポートに問い合わせてください。コンタクトオプションについては、https://www.cisco.com/go/sbc を参照してください。

ダイヤル プラン設定

ダイヤルプランはダイヤルされた番号の解釈方法と送信方法を決定します。また、ダイヤルさ れた番号を許可するか、拒否するかも決定します。ダイヤルプランを使用すれば、ダイヤリン グを速めることも、長距離や国際のような特定のタイプのコールをブロックすることもできま す。

ダイヤルプランの編集は、メニューバーの音声をクリックし、ナビゲーションツリーの回線1 または回線2をクリックします。[ダイヤルプラン] セクションまで下へスクロールして、ダイ ヤルプランフィールドにディジット シーケンスを入力します。

ディジット シーケンス

ダイヤル プランには、| 文字で区切られた一連のディジット シーケンスが含まれています。

シーケンスのコレクション全体がかっこで囲まれています。ダイヤルプラン内の各ディジット シーケンスは、ユーザが押したキーに個々に対応する要素によって構成されています。



(注)

スペースは無視されますが、読みやすくするために使用するのに使用することもできます。

表 **87**:ディジット シーケンス

ディジット シーケンス	機能
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 * #	これらの文字のいずれかを入力し、ユーザが電話機のキーパッ ドで押さなければならないキーを表します。
0	電話のキーパッドの任意の文字を表すには x を入力します。
[sequence]	角カッコ内に文字を入力して、受け入れられるキー押下のリ ストが形成します。ユーザはリスト内の任意のキーを押すこ とができます。
	 たとえば、数値範囲が [2-9] の場合、ユーザは、2~9の 中の1つの数字を押すことができます。
	 たとえば、他の文字を使用した数値範囲の場合、[35-8*] を入力して、ユーザが3、5、6、7、8、または*を押すことができるようにします。
. (ピリオド)	要素の繰り返しの期間を入力します。ダイヤル プランは数字の0以上のエントリを受け付けます。たとえば、01.の場合、 ユーザは、0、01、011、0111 などを入力できます。
<dialed:substituted></dialed:substituted>	シーケンスが送信された場合、この形式を使用してダイヤル された特定の番号が代替文字で置き換えられることを示しま す。ダイヤルされた数字は、0文字以上にすることができま す。
	例 1: <8:1650>xxxxxx
	7桁の番号が後に続く8を押すと、システムにより、ダイヤ ルされた8がシーケンスの1650に自動的に置き換えられま す。つまり、ユーザが85550112をダイヤルすると、システム は16505550112を送信します。
	例 2: <:1>xxxxxxxxx
	この例では、数字は何も置き換えられません。ユーザが10桁 の数字の文字列を入力すると、番号1 がシーケンスの先頭に 追加されます。9725550112 をダイヤルすると、システムは 19725550112 を送信します。

ディジット シーケンス	機能
, (カンマ)	ユーザが入力したシーケンスの後に「外線」ダイヤルトーン を再生するには、数字の間にカンマを入力します。
	例: 9, 1xxxxxxxxx
	ユーザが9を押した後に、「外線」ダイヤルトーンが聞こえ、 ユーザが1を押すまでトーンが続きます。
!(感嘆符)	感嘆符を入力して、ダイヤルシーケンスパターンを禁止しま す。
	例: 1900xxxxxx!
	1900 で始まる任意の 11 桁のディジット シーケンスをシステ ムが拒否します。
*xx	ユーザが2桁のスターマークを入力できるようにするには、 スターマークを入力します。
S0 または L0	S0を入力してショート桁間タイマーを0秒に短縮するか、L0 を入力してロング桁間タイマーを0秒に短縮します。

ディジット シーケンスの例

次の例は、ダイヤル プランに入力できるディジット シーケンスを示しています。

ダイヤルプランの完全なエントリでは、シーケンスがパイプ文字()) で区切られ、シーケンスのセット全体がかっこで囲まれています。

例: ([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx | 9, 011xxxxxx. | 0 | [49]11)

・システムの内線番号:

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxx ! | 9, 011xxxxxx. | 0 | [49]11)

[1-8]xx ユーザは1から8の数字で始まる3桁の番号をダイヤルできます。システムが4桁の内線番号を使用している場合は、変わりに次の文字列を入力します。[1-8]xxx

•7桁の番号を使った市内番号へのダイヤルは次のようになります。

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx | 9, 011xxxxxx. | 0 | [49]111)

9, xxxxxx 9を押すと、外線ダイヤルトーンが聞こえます。ユーザは、次に市内通話と同様に、7桁の番号を入力できます。

・3桁の市外局番と7桁の市内番号を使った市内番号へのダイヤルは次のようになります。

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxxx | 8,<:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx | 9, 011xxxxxx | 0 | [49]11)

9,<:1>[2-9]xxxxxxxx この例は、ローカルエリアコードが必要な場合に役立ちます。9を 押すと、外線ダイヤルトーンが聞こえます。2~9の数字で始まる10桁の番号を入力す る必要があります。入力された番号をキャリアに送信する前に、システムは1のプレフィッ クスを自動的に挿入します。

・自動的に挿入された3桁の市外局番を使った市内番号へのダイヤルは次のようになります。

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx ! | 9, 011xxxxxx. | 0 | [49]11)

8, <:1212>xxxxxx この例は、キャリア側がローカル エリア コードを必須にしている一方 で、ほとんどのコールが1つの市外局番に発信される場合に役立ちます。ユーザが8を押 すと、外線電話のダイヤルトーンが聞こえます。任意の7桁の番号を入力できます。入力 された番号をキャリアに送信する前に、システムは1のプレフィクスと212の市外局番を 自動的に挿入します。

•米国の長距離ダイヤル

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx | 9,011xxxxxx. | 0 | [49]11)

9,1 [2-9] xxxxxxx 9 を押すと、外線ダイヤルトーンが聞こえます。1 で始まり、その後 に 2 ~ 9 までの数字が続く11 桁の任意の番号を入力できます。

•ブロックされた番号

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx | 9, 011xxxxxx. | 0 | [49]11)

9,1900 xxxxxx!このディジットシーケンスは、高額料金や不適切なコンテンツに関連する番号(米国の1-900番号など)にユーザがダイヤルしないようにする場合に役立ちます。ユーザが9を押すと、外線電話のダイヤルトーンが聞こえます。1900で始まる11桁の番号を入力すると、そのコールは拒否されます。

•米国の国際ダイヤル

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx ! | 9, 011xxxxxx. | 0 | [49]11)

9,011xxxxx.ユーザが9を押すと、外線電話のダイヤルトーンが聞こえます。米国からの 国際電話と同様に、011 で始まる任意の番号を入力できます。

• 情報番号

([1-8]xx | 9, xxxxxxx | 9, <:1>[2-9]xxxxxxxxx | 8, <:1212>xxxxxxx | 9, 1 [2-9] xxxxxxxx | 9, 1 900 xxxxxxx ! | 9, 011xxxxxx. | 0 | [49]11)

0|[49]11この例にはパイプ文字で区切られた2桁のシーケンスが含まれています。最初の シーケンスで、ユーザは0をダイヤルし、オペレータにつながります。2番目のシーケン スで、ユーザは411(地域情報)または911(緊急サービス)を入力できます。
ダイヤルされた番号の承認と伝送

ー連のディジットをダイヤルすると、ダイヤルプランの各シーケンスは候補として試されま す。一致するシーケンスにより、候補ディジットシーケンスのセットが形成されます。さらに 数字を入力すると、候補セットが1つだけ有効になるか、または有効な候補セットがなくなる まで、候補セットが減少します。終了イベントが発生すると、ATA は、ダイヤルしたシーケ ンスを受け入れてコールを開始するか、シーケンスを無効なものとして拒否します。ダイヤル されたシーケンスが無効な場合、リオーダー(ファストビジー)音が再生されます。

次の表は、終了イベントが処理される方法を示しています。

表 8	38 :	終了	ィィ	ベン	ト
-----	------	----	----	----	---

終了イベント	処理
ダイヤルされた番号がダイヤ ル プランのシーケンスに一致 しない。	番号が拒否される。
ダイヤルされた番号がダイヤ ル プランの 1 つのシーケンス に正確に一致している。	 ・シーケンスがダイヤル プランで許可された場合、番号が 受け入れられ、ダイヤル プランに応じて送信されます。 ・シーケンスがダイヤル プランでブロックされる場合、番 号は拒否されます。
タイムアウトが発生する。	 ダイヤルされた番号が、該当の桁間タイマーで指定された時間内にダイヤルプランのディジットシーケンスに一致しない場合、番号は拒否されます。 ・ダイヤルされた番号がダイヤルプランの任意のディジットシーケンスに一致しない場合、桁間ロングタイマー (Interdigit Long Timer)が適用されます。デフォルト設定:10秒 ・ダイヤルされた番号がダイヤルプランの1つ以上の候補シーケンスに一致する場合、桁間ショートタイマー (Interdigit Short Timer)が適用されます。デフォルト設定:3秒
# キーを押します。	 ・シーケンスが完了して、ダイヤルプランで許可された場合、番号が受け入れられ、ダイヤルプランに応じて送信されます。 ・シーケンスが完了しないか、ダイヤルプランでブロックされる場合、番号は拒否されます。

ダイヤル プラン タイマー(オフフック タイマー)

ダイヤルプランタイマーは「オフフックタイマー」と考えることができます。このタイマー は、電話機がオフフックするとカウントが開始されます。指定した秒数以内に番号がダイヤル されなかった場合はタイマーが切れて、ヌルエントリと評価されます。ヌルエントリを許可 する特別なダイヤルプラン文字列がない限り、そのコールは拒否されます。デフォルト設定: 5

ダイヤル プラン タイマーのシンタックス

(Ps<:n>|ダイヤルプラン)

- •s:数秒。Pの後に数字が入力されなかった場合は、デフォルトタイマーの5秒が適用されます。
- n(オプション):タイマーが切れたときに、自動的に転送される番号。DID 番号を入力できます。番号は表示されたとおり転送されるため、ワイルドカード文字は使用できません。番号置換 <:n>を省略した場合、指定された秒数後に、ユーザにリオーダー(ファーストビジー)音が流れます。

ダイヤル プラン タイマーの例

電話機がオフフックになった後、ユーザがダイヤルを開始するまでの時間を長くできます。

(P9 | (9,8<:1408>[2-9]xxxxx | 9,8,1[2 9]xxxxxxxx | 9,8,011xx. | 9,8,xx. [[1-8]xx)

P9は電話機がオフフックになった後、ユーザがダイヤルを開始するまで9秒間あります。 9秒以内に番号が押されないと、リオーダー(ファストビジー)音が再生されます。タイ マーを長く設定して、ユーザが番号を入力する時間を長くできます。

xx このコードでは、1 つまたは複数の数字を入力できます。0 またはそれ以上の数字を使 用できる単一のxを使用しないでください。タイマーを導入している場合、特に、この設 定によって望ましくない結果が生成されます。

システムダイヤルプランですべてのシーケンスのホットラインを作成するには、次のように入力します。

(P9<:23> | (9,8<:1408>[2-9]xxxxxx | 9,8,1[2-9]xxxxxxxx | 9,8,011xx. | 9,8,xx. [[1-8]xx)

P9<:23>は、電話機がオフフックになった後、ユーザがダイヤルを開始するまで9秒間あ ります。9秒以内に番号が押されない場合、コールは内線23に自動的に転送されます。

内線のラインボタンにホットラインを作成するには、次のように入力します。

(P0 <:1000>)

タイマーを0秒に設定すると、電話機がオフフックになったときに、コールが指定された 内線番号に自動的に転送されます。

桁間ロングタイマー(不完全なエントリタイマー)

このタイマーは不完全なエントリタイマーと考えることができます。このタイマーは、ダイヤ ルされた番号間のインターバルを測定します。ダイヤルされた番号がダイヤルプランのディ ジットシーケンスと一致しない限り適用されます。ユーザが指定した秒数内に別の番号を入力 しない場合、エントリは不完全と評価され、コールは拒否されます。デフォルト設定:10秒

このセクションでは、ダイヤルプランの一部としてタイマーを編集する方法について説明しま す。または、すべてのコールのデフォルト桁間タイマーを制御する制御タイマーを変更できま す。制御タイマーのリセット (140ページ)を参照してください。

桁間ロング タイマーのシンタックス

L:s, (ダイヤル プラン)

s: 秒数。L の後ろに数字を入力しない場合、デフォルトタイマーの5秒が適用されます。タ イマー シーケンスは、ダイヤルプランの最初のかっこの左側に表示されます。

桁間ロングタイマーの例

L:15, (9,8<:1408>[2-9]xxxxxx | 9,8,1[2-9]xxxxxxxx | 9,8,011xx. | 9,8,xx. [[1-8]xx)

L:15 は、このダイヤルプランでは、桁間ロングタイマー(Interdigit Long Timer)が切れるま で番号間で最大 15 秒一時停止できることを意味します。

桁間ショート タイマー(完全なエントリ タイマー)

このタイマーは完全なエントリタイマーと考えることができます。このタイマーは、ダイヤル された番号間のインターバルを測定します。ダイヤルされた番号がダイヤルプラン内の少なく とも1つのディジットシーケンスと一致した場合に適用されます。ユーザが指定した秒数内に 別の番号を入力しない場合、エントリは評価されます。有効な場合は、コールが続行されま す。無効な場合は、コールが拒否されます。デフォルト設定:3秒

桁間ショートタイマーのシンタックス

シンタックス1:S:s, (ダイヤル プラン)

このシンタックスを使用して、かっこで囲まれたダイヤルプラン全体に新しい設定を適用しま す。

構文 2: sequence Ss

このシンタックスを使用して、特定のダイヤル シーケンスに新しい設定を適用します。

s: 秒数。Sの後ろに数字を入力しない場合、デフォルト タイマーの 5 秒が適用されます。

桁間ショートタイマーの例

ダイヤル プラン全体のタイマーを設定します。

S:6,(9,8<:1408>[2-9]xxxxxx | 9,8,1[2-9]xxxxxxxxx | 9,8,011xx. | 9,8,xx. [[1-8]xx)

S:6 は、電話機をオフフックにした状態で番号を入力している間、桁間ショートタイマー (Interdigit Short Timer)が切れるまで番号間で最大 15 秒一時停止できることを意味します。

ダイヤル プラン内の特定のシーケンスに対してインスタント タイマーを設定します。

(9,8<:1408>[2-9]xxxxxx | 9,8,1[2-9]xxxxxxxS0 | 9,8,011xx. | 9,8,xx. |[1-8]xx)

9,8,1[2-9]xxxxxxxS0は、タイマーを0に設定すると、ユーザが順に最後の番号をダイヤルしたときに、コールが自動的に送信されます。

制御タイマーのリセット

次の手順を使用して、すべてのコールのデフォルトタイマーの設定をリセットすることができ ます。

特定のディジットシーケンスまたはコールのタイプ専用のタイマー設定を編集する必要がある 場合は、ダイヤルプランを編集できます。ディジットシーケンス (133ページ)を参照してく ださい。

手順

- **ステップ1** ATA webページにログインします。プロンプトが表示されたら、サービスプロバイダーによって提供される管理者ログインを入力します。
- ステップ2 音声メニューの地域をクリックします。
- **ステップ3** [タイマー値の制御] セクションで、[桁間ロングタイマー] フィールドと[桁間ショートタイマー] フィールドに必要な値を入力します。このセクションの冒頭にある定義を参照してください。